

文化・教養専門課程 音楽技術学科

学科区分	専攻	授業科目	第1学年 前期 授業時数	第1学年 後期 授業時数	第2学年 前期 授業時数	第2学年 後期 授業時数	授業時数 合計	授業方法	実務経験 のある教員 等による授 業科目
共通教科	共通	音楽業界概論	32	30	32	30	124	講義	○
		音楽技術論	32	30	32	30	124	講義	○
		技術演習	64	60	64	60	248	演習	○
		一般教養	32	30			62	演習	○
必修教科	音響エンジニア専攻	ハード実習	64	60	32	30	186	実習	○
		ミキシング	32	30	32	30	124	実習	○
		Pro Tools	32	30			62	実技	○
		PA実習	64	60			124	実習	○
		レコーディング実習	64	60			124	実習	○
		イベント制作		32		32	64	実習	○
		業界研究	36	12	8	8	64	実習	○
		照明スタッフ専攻	パソコン演習	32	30			62	演習
	音響ゼミ		32	30			62	演習	○
	照明ゼミ				64	60	124	演習	○
	舞台制作		32	30			62	実習	○
	プランニング				32	30	62	実習	○
	メンテナンス		32	30			62	実習	○
	ムービングライト				64	60	124	実習	○
	照明実習		128	120	128	120	496	実習	○
	音楽ビジネス専攻	イベント制作		32		32	64	実習	○
		業界研究	32	16	8	8	64	実習	○
		パソコン演習	32	30			62	演習	○
		ソーシャルメディア	32			30	62	演習	○
		音楽ライターゼミ	32			30	62	演習	○
		コンテンツ制作		60	64		124	演習	○
		メディア制作			64	60	124	実習	○
		DTP	32	30			62	演習	○
		コンサート制作			64	60	124	実習	○
		マネージメント	64	60	64	60	248	実習	○
		企画制作	32	30	32	30	124	実習	○
		音響実習	32				32	実習	○
	選択 必修教科	音響エンジニア専攻 3科目選択	照明実習		30			30	実習
イベント制作				32		32	64	実習	○
業界研究			16	18	18	12	64	実習	○
レコーディング実習Ⅱ					128	120	248	実習	○
Pro ToolsⅡ					64	60	124	実技	○
レコーディング工学					32	30	62	講義	○
PA実習Ⅱ					128	120	248	実習	○
PA技術					64	60	124	実技	○
PA演習			32	30	62	演習	○		
共通教科授業時数			160	150	128	120	558		
必修教科授業時数（音響エンジニア専攻）			292	284	72	100	748		
必修教科授業時数（照明スタッフ専攻）			288	288	296	310	1182		
必修教科授業時数（音楽ビジネス専攻）			272	290	306	314	1182		
選択必修教科授業時数（音響エンジニア専攻）					224	210	434		
卒業に必要な総授業時数（音響エンジニア専攻）			452	434	424	430	1740		
卒業に必要な総授業時数（照明スタッフ専攻）			448	438	424	430	1740		
卒業に必要な総授業時数（音楽ビジネス専攻）			432	440	434	434	1740		

シラバス

音楽技術学科

音響エンジニア専攻

授業科目		授業時数
音楽業界概論		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前期		
到達目標		
音楽ジャンルの知識を持つ / 音楽業界の仕組みがわかる 様々な舞台芸術、コンサートと興行について理解する		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	学内生活説明① 施設設備について	学内にあるいろんな専攻が使用する施設・設備の見学を行います。また、技術者として「音楽」の表し方を理解できるように導いていきます。
2	学内生活説明② 音楽技術学科のカリキュラムについて	技術者としてソフトからハードまで勉強を重ねていくカリキュラムを説明、担当される講師方々も紹介していきます。年間で予定されている行事やイベント等も説明していきます。
3	学内生活説明③ 他専攻について	音楽業界の一部をシミュレートしたかたちの学校を紹介いたします。「原盤制作」があり音楽の世界は出来上がっている、その内容を支えている意味で技術・演奏・総合・楽系(ダンス)があります。
4	学内生活説明④ PC類について	デジタル化が急激に進む中、技術系は、とても進歩しています。その入口となるキーボード操作、その意味を理解してください。PCへの意思付けを重要としています。音楽パッケージのかたちも理解しましょう。
5	音楽ジャンル① ロック・ポップス全般	ここでは、一般的な洋楽ロック・ポップスを取り上げます。やはり流行も大切ですが、歴史上必要な音楽も沢山あります。担任チャイムの一例を取り上げます。(VTR視聴)
6	音楽ジャンル② J-POP、歌謡曲	日本で就職することを考えると必要な分野だと感じます。大枠としての内容を理解していきます。(VTR視聴)
7	音楽ジャンル③ その他の分野	R&B、ブルース、ジャズ、ゴスペル、ソウル、ファンク、ラップ、サンバ、ボサノバ、ラテン、ワールドミュージック等を、その他の分野としました。(VTR視聴)
8	研修関連についての説明	企業研修についての取扱いや公欠処理のルールについて、また検定やメール・電話検定の実施についての説明を行う。
9	音楽業界について	第一段階として、基本的なプロダクション、レコード会社、音楽出版社、から成り立つ音楽業界の仕組みを少し学んでみましょう。
10	舞台芸術①	音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。屋内コンサート、野外コンサート、ライブハウス、イベント催事等
11	舞台芸術②	音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。宝塚大劇場、オーケストラ等
12	舞台芸術③	音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。歌舞伎、能舞台、オペラ等
13	ライブハウス・コンサート等 音楽を主体とする大小の興業について	音楽を生で届ける方法として、ライブが一般的ですが、その方法も変化していきます。ここでは、ワンマン、チケット販売、グッズ、プロダクション、イベント等も交えて、音響関連企業に発注されるまでの流れを知ってください。
14	総復習	職業としての音楽技術学科は、ソフトの理解が必要です。ある程度のことを知っていれば、その現場終了後に、再度勉強すれば頑張れます。そのためにも、前期内容のおさらいをしましょう。
15	前期試験	
16	FOLLOW	自分の不得意な部分を知り、ハッキリさせた上で次の目標を考えたり、自分が進むべき方向感を持って後期に望みます。

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後期		
到達目標		
著作権の基礎知識がわかる / 音の伝達について理解 映像関連と放送業界を知る / 就活対策を行う		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	楽器について	身近なLM楽器。ギター、ベース、ドラム、キーボード(PIANO)の内容について学びます。イベント中、彼らが袖に来た時にチェックできる内容やプロとアマチュアでは、こちらも出来る内容が変わります。
2	著作権①	まずは、原盤制作に関する著作権について学んでいきます。作詞・作曲、アーティストに対する印税等、まずは、音楽直接の権利です。
3	著作権②	音楽の世界だけでなく、大きな意味での「著作」を学んでいきます。演出・振付・図面・建築・キャラクター等も含めて知っておきたいものです。
4	聴覚と言語	耳の仕組み(外耳～中耳～内耳)とそれぞれの働きを学びます。また日本語と英語の音節数の違い等を理解していきます。
5	一般教養[物理/科学]	世間一般的な内容を中心にテスト問題を解いていきます。成績に反映されるものではなく、あくまで就職試験を想定したものとして活用していきます。
6	一般教養[スポーツ/芸能]	
7	一般教養[歴史/地理]	
8	コンサートPA	PA(パブリックアドレス)、SR(サウンドリフォーメント)という内容や、常設のライブハウス、トラックでの搬入作業を伴うコンサート等、実際の音響関連設備等について学ぶ。
9	レコーディング	一般的なレコーディング作業の流れを解説します。データ、リズム録り、オーバーダブ、ボーカル録り、コーラスetc等、人の出入りやすスケジュール等色々な影響で作業手順も変わります。また、譜面の必要性も問われます。
10	映像関連	イベント会場では、もうお馴染みの映像関連。そのシステムを簡単に学んでみましょう。学校では、学園祭シーズンに配置されます。
11	放送業界①	TV業界について、その仕組みと構造を知識として勉強していきます。この業界では、音声さんと呼ばれます。音響会社と業務提携というかたちで仕事になります。
12	放送業界②	ラジオ業界についての仕組みも理解していきます。音楽が好きであれば、クルーが小さいため、制作とひとつのチームとして仕事ができる職業です。
13	総復習	関連業界の内容も含み、ちょっとした知識が沢山出てきました。就職に役立つ内容として理解してください。
14	後期試験	
15	FOLLOW	ある程度の研修をこなせる実力は、あるようになってきます。後は、現場は「人」ありきのものなので、コミュニケーション力をUPさせる努力をしていきましょう。

授業科目		授業時数
音楽技術論		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		

前期
到達目標
音響技術者に必要な基礎知識を学び、舞台機構調整技能士3級レベルの実力を身につける。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		実施内容
1	基礎舞台用語 音の三要素①	音程－可聴周波数帯、周期と波長 ラウドネスレベル 音量－、振幅、Dレンジ、S/N比
2	音の三要素② 心理効果①	音色－波形、特、倍音構成、エンヴェローブ 音速－屈折と回折 マスキング効果、カクテルパーティー効果
3	心理効果②	ハース効果、ピッチ効果(メル尺度)、反響と残響、 Delay・Reverbの弁別値
4	舞台芸術の種類①	様々な音楽ジャンル
5	舞台芸術の種類②	オペラ、バレエ、ミュージカル、和物 劇場、舞台機構－プロセニウム、回り舞台、迫り、花道、スッポン、オケピット、斜幕
6	舞台一般①	尺貫法とインチ－平台、箱馬、所作台 ホールの種類－多目的(プロセニウムアーチ)、オーブステージ、 ワインヤード型、シューボックス型
7	舞台一般②	舞台機構－水平幕と大黒幕、袖幕、緞帳、迫りと奈落、 ぶどう棚、フライズ、避難誘導灯、裸火の使用、 スモークマシンの使用、非常放送、ワイヤレスマイク、 ローリングタワー、安全帯
8	技能士試験対策①	筆記試験演習 舞台用語①
9	技能士試験対策②	筆記試験演習 舞台用語②
10	技能士試験対策③	筆記試験演習 舞台用語③
11	技能士試験対策④	筆記試験演習 舞台用語④
12	技能士試験対策⑤	筆記試験演習、要素試験演習 舞台用語⑤
13	技能士試験対策⑥	筆記試験演習、要素試験演習
14	舞台用語⑦	関連法規、安全衛生
15	まとめ	
16	前期試験	

授業の方法
講義 演習・実験・実技・実習
授業概要
音響技術者に必要な基礎知識の習得を目指します。音響学、専門用語を中心に現場作業での実演家に対応する能力を身につけます。 <実務経験のある教員等による授業科目>
使用教材:プロ音響データブック、音響映像設備マニュアル 舞台音響技術概論、舞台機構調整試験問題解説集

後期
到達目標
レコーディングや放送の技術、音楽的知識など 音響技術者に必要な知識を習得する。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		実施内容
1	聴覚	耳の仕組み、特徴、「何故日本人は英語が苦手か」
2	アナログとデジタルの違い	サンプリング周波数とビットレート、A/D変換、インターリーブ 関連用語－AES/EBU、S/PDIF、WAV、ロスレス圧縮
3	MAとは	プリプロとポストプロ、MA作業、 T/CとシンクロナイザーSMPTE、フレームとフィールド、 NTSC、走査線とインターレース、ドロップフレーム
4	音響用語①	音響機器、音楽理論などを含めた専門用語
5	音響用語②	音響機器、音楽理論などを含めた専門用語
6	音響用語③	音響機器、音楽理論などを含めた専門用語 音場－防音の基礎知識
7	音響用語④	音響機器、音楽理論などを含めた専門用語 様々なアンプ(増幅器)
8	音響用語⑤	音響機器、音楽理論などを含めた専門用語 電波－変調、周波数帯、運用方法
9	音響用語⑥	音響機器、音楽理論などを含めた専門用語 JASRAC－著作権、コンテンツビジネスの仕組み
10	音響用語⑦	音響機器、音楽理論などを含めた専門用語 アースの理屈
11	音響用語⑧	音響機器、音楽理論などを含めた専門用語 LAN－TCP/IP、Wi-Fiの仕組み
12	デシベル①	指数的感覚と対数的評価、電力比と電圧比、計算練習、 基準電圧ベル、最小可聴値
13	デシベル②	インピーダンスとは－内部抵抗、 $r=R$ 、ロー出しハイ受けの意味、 T字抵抗でのマッチングトランス、基準レベルとコネクタ、 レベルマッチングとコネクタ、バランス－アンバランスのレベル
14	デシベル③	音圧計算、音圧加算、逆二乗則、Delay Tower
15	後期試験	

授業科目		授業時数
技術演習		124
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な電気概念から学び、電気の種類や抵抗などのパーツの知識を身に付け、『オームの法則』を中心に分圧や分流などの計算方法を習得する。 音響で使用される基本的な機器の特徴や使用方法などの知識や、デシベルの概念・計算方法を習得する。 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音響機器 音響機器についての導入を行い、まず、マイクロフォンに関して、その役割。種類についてや、その他マイクに付随する様々な要素についても理解していく。	
2	音響機器 スピーカーの原理や構造を知り、様々なエンクロージャやユニット分類を知る。また古レンジとマルチウェイシステム、ネットワークなどについての知識を深める。	
3	音響機器 スピーカーの原理や構造を知り、様々なエンクロージャやユニット分類を知る。また古レンジとマルチウェイシステム、ネットワークなどについての知識を深める。	
4	音響機器 スピーカーについて、定格入力と最大入力、出力音圧level、インピーダンスなどを知り、スピーカーの主なメーカーや品番、エージング、位相のことなども理解していく。	
5	音響機器 スピーカーについて、定格入力と最大入力、出力音圧level、インピーダンスなどを知り、スピーカーの主なメーカーや品番、エージング、位相のことなども理解していく。	
6	音響機器 パワーアンプについての解説を行います。パワーアンプの役割とはどのようなものなのか？また、定格出力と最大出力、出力インピーダンスとスピーカーの合成抵抗値など取り扱っていく上での基本的なことを学んでいく。	
7	音響機器 PA用ラックの使用方法、C型コンセント、保護回路、入力感度、ダンピングファクタなどを理解し、パワーアンプの主なメーカーと品番を知る。	
8	音響機器 デシベルについて学んでいく。デシベルとはいったい何か？その意味と現場で使用される計算方法を学ぶ。また電力比や電圧比などについても学んでいく。また基準電圧、音圧レベル、音圧加算なども理解していく。	
9	電子工学 電気に関して中高で学んだ基礎的なことを復習していき、音響という立場として電気について改めて理解をしていく。その導入として、直流と交流の違い、電圧と電位差、電流、電力について解説を行う	
10	電子工学 オームの法則について、中高で学んだことの復習を行っていく。また音響としてのオームの法則の活用方法について解説をしていく。	
11	電子工学 抵抗についての概要や周辺の用語についての説明を行います。またいくつか例題を挙げて、それについての解説も行います	
12	電子工学 コンデンサについての解説を行います。まず、コンデンサの動作原理を理解し、合成容量、リアクタンスについて解説を行います。	
13	電子工学 コンデンサについて、その種類と特徴、そして、用途についても解説を行い。それぞれの注意事項について説明していきます。	
14	電子工学 コイルについて、その概要、動作原理について解説を行います。また、インダクタンス、フィルタについても学んでいく。	
15	前期試験 前期内容を筆記試験	
16	前期のまとめ 前期で行った内容についての復習、また補足説明を行います。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
電気知識を含めた音響機器・楽器・コンピュータ等の取扱いを学び、単に知識習得に止まる事無く、作業的にも技術的にも実際の現場対応を想定したものになります。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> インピーダンス、増幅の概念を理解する。 電源回路の仕組みと使用方法を理解する。 さまざまなエフェクターの特徴や構造、使用方法などの知識や音響機器に必要な電源などの基本的な知識を身に付ける。 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	電子工学 電気の単位について、名称と単位、倍数記号について解説を行います。それを使い、いくつか例題をやっていきます。
2	電子工学 インピーダンスについて学んでいきます。まず内部抵抗とインピーダンスマッチングについて解説、その必要性について学習していきます。
3	電子工学 前回のインピーダンスの続きとして、インピーダンスのマッチングについての基本を解説します。また、ラインインピーダンスについても説明します。
4	電子工学 バランスラインとトランスまた、D/IIについての役割について解説をしていきます。
5	電子工学 アンプについて、その役割、音を増幅させる原理について学習していきます。
6	電子工学 アンプとオペアンプについて、その役割、効果、内部構造について解説を行います。
7	電子工学 電源回路について、その種類や、構造、各部の役割について学んでいきます。
8	音響機器 デジタルの機器についての解説を行う。各部の名称や動作原理、使用方法を学び、音声信号の入出力を理解する。また、アナログとの違いや注意する点などを解説する。
9	音響機器 バッチペイについての解説を行います。レコーディングなどにおけるバッチペイの使用法や利点、仕組みについて理解していきます。
10	音響機器 様々なエフェクターの種類について解説し、特徴について理解をし、大きく分類をしていきます。
11	音響機器 リバーブやディレイなどの空間系エフェクターの歴史、また各パラメーターについて学んでいきます。
12	音響機器 ダイナミック系のエフェクターの種類や違い動作原理についての解説を行います。また各パラメーターの効果についての解説もします。
13	音響機器 これまで学んできた以外の種類のエフェクターについてその効果を紹介して解説をしていきます。
14	後期試験 後期内容を筆記試験
15	後期のまとめ 後期で行った内容の復習を行うとともに、年間で行った内容の重要な点について、解説、補足を行います。

授業科目		授業時数
一般教養		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
山田 敏子 「現代マナーズ研究会」代表。ビジネスマナー研修を軸に関西を中心企業・団体・大学等で人材育成に携わる。		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●基本マナーやコミュニケーションの重要性を理解する ●挨拶、美しいお辞儀、きちんとした自己紹介ができる 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	授業概要の説明・動機付け	この授業の趣旨、目的を理解し、学生生活と職場の違いや仕事の取り組み方について説明し、この1年で達成したい目標を設定する。
2	自己紹介の仕方	職場での挨拶、公の場での自己紹介の仕方を学び、基本形に則した手法で実技を取り入れながら学習する。
3	挨拶・お辞儀の重要性	基本の立ち姿や立礼・かけ礼三種を接遇用語を活用し実技を取り入れながら身に付ける。
4	話し方・あがり対処法	あがらずに人前で自分の考えを述べるができるよう様々な手法を取り入れながら実技を行う。
5	3分間スピーチ	人前でスピーチの基本形を知り、テーマを設定したスピーチを交えながら問題点、注意点を話し合い学ぶ。
6	企業の求める人間像	これから始まる就職活動や企業研修に向けて、求められる人材を集団面接や新入社員教育でも用いられるグループディスカッション形式で意見を出し合い学ぶ。
7	電話でのアポイントメントの取り方	就職活動や企業研修等で企業に電話をかける際の手順や失礼にならない話し方を学ぶ。
8	名刺交換	名刺の渡し方や受け方、名刺を切らしている時などの対処法の仕方等、実践を取り入れながら学習する。
9	敬語の基本1	ビジネスにふさわしい言葉や尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い分けを学び、実践できるよう理解する。
10	敬語の基本2	二重敬語などの誤った使い方や、ビジネス上での人の呼び方を学び実際に場面を設定して実践する。
11	敬語の応用	お客様に対する接遇用語や使い方を学び、実際に場面を設定して実践し、注意点、問題点を話し合い深める。
12	電話応対	電話対応で会社のレベルも判断されるということから正しい電話の受け方やかけ方、取次ぎ方などを説明し実践を取り入れながら学習する。
13	電話応対応用	不在時に行き届いた臨機応変なメモの作成、また苦情電話を上手に受け、固定客につなげる手法を実技を取り入れながら学習する。
14	ビジネスでの贈答の心得	慶事や弔事のマナーを知り、仕事で発生した場合に備え慰斗や金封紙の種類や使い分け、送る時期等を学ぶ。
15	前期試験実施日	前期内容より出題
16	命令の受け方	安心して仕事を任されるための指示・命令の受け方のポイントを学習する。

授業の方法		
講義 演習 実験・実技・実習		
授業概要		
仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学習します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●エントリーシートや履歴書でアピールできる ●社外文書の形式で添え状や御礼状が書ける ●面接の場での立ち居振る舞いや受け答えができる 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	報告の仕方	ビジネスでは欠かせない口頭・文書による報告の仕方や信頼されるための報告のポイントを学習する。
2	自己分析シート	自分にとって働くとはどういうことかを考え、就職活動の日程を確認し、自身の就職についての思いを整理して伝えられるようにする
3	エントリーシート	企業へのアプローチのファーストステップとなるエントリーの仕方や伝わりやすい表現法について学ぶ。
4	履歴書	就職活動時に必要となる履歴書の書き方、見た目の印象を大切にしながら良い例と悪い例を知った上で作成する。
5	履歴書	履歴書の書き方、特に志望動機・自己アピールの仕方にポイントを絞り作成する。
6	履歴書	各々添削を受けた上で清書を仕上げ提出する。
7	社外文書の形式・添え状・封書の書き方	頭語結語・時候の挨拶などビジネス文書の基本構成を学び、添え状を作成すると共に、文字の大きさやバランスを考えた封書・はがきの表書きを学ぶ。
8	自己診断チェック	人物本位と言われる面接で自分自身について聞かれる質問を想定し、いかにポイントをおさえたいアピールするかを学ぶ。
9	企業診断・学生診断チェック	会社に関してどういった項目を調べ準備すれば良いか、また学生生活について聞かれるであろう内容について準備する。
10	一般教養チェック・身だしなみ他 当日の注意	一般教養に関して聞かれる内容の準備、第一印象の重要性、当日の持ち物や控室などでの注意事項を学ぶ。
11	面接のマナー	面接室での立ち振る舞いや言葉遣い、座席の順位などを学び、就職活動時の面接に備える。
12	模擬面接	質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を話し合い深める。
13	模擬面接	質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を話し合い深める。
14	後期試験実施日	後期内容より出題
15	後期試験返却と解説 立食パーティーのマナー	会社の各種行事では立食パーティーが主流である。歓談を目的とし、マナーをわきまえた振る舞いを身に付けるよう実技を交えて学ぶ。

授業科目		授業時数
ハード実習		93
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
金谷 昇治 音響機器、楽器を問わず電気・電子回路に精通しており、様々なケースのトラブルシューティング、メンテナンス法を初歩から手ほどきする。		
前期		
到達目標		
ケーブルを製作しながら、半田の基礎技術や電気回路の知識を身に付ける。		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス 工具の配布、名称や取り扱い方法を説明	
2	線加工① 線剥ぎと予備半田の基本を理解し、今後「ミキシング実習1」などで使用していくケーブルを作成しながら加工の基本を学んでいく。 ※XLR、2P、3Pなどのコネクタを使用したケーブル作成。	
3	線加工② 線剥ぎと予備半田の基本を理解し、今後「ミキシング実習1」などで使用していくケーブルを作成しながら加工の基本を学んでいく。 ※XLR、2P、3Pなどのコネクタを使用したケーブル作成。	
4	線加工③ 線剥ぎと予備半田の基本を理解し、今後「ミキシング実習1」などで使用していくケーブルを作成しながら加工の基本を学んでいく。 ※XLR、2P、3Pなどのコネクタを使用したケーブル作成。	
5	線加工④ 線剥ぎと予備半田の基本を理解し、今後「ミキシング実習1」などで使用していくケーブルを作成しながら加工の基本を学んでいく。 ※XLR、2P、3Pなどのコネクタを使用したケーブル作成。	
6	線加工⑤ 線剥ぎと予備半田の基本を理解し、今後「ミキシング実習1」などで使用していくケーブルを作成しながら加工の基本を学んでいく。 ※XLR、2P、3Pなどのコネクタを使用したケーブル作成。	
7	線加工⑥ 線剥ぎと予備半田の基本を理解し、今後「ミキシング実習1」などで使用していくケーブルを作成しながら加工の基本を学んでいく。 ※XLR、2P、3Pなどのコネクタを使用したケーブル作成。	
8	線加工⑦ 線剥ぎと予備半田の基本を理解し、今後「ミキシング実習1」などで使用していくケーブルを作成しながら加工の基本を学んでいく。 ※XLR、2P、3Pなどのコネクタを使用したケーブル作成。	
9	線加工⑧ 線剥ぎと予備半田の基本を理解し、今後「ミキシング実習1」などで使用していくケーブルを作成しながら加工の基本を学んでいく。 ※XLR、2P、3Pなどのコネクタを使用したケーブル作成。	
10	線加工⑨ 線剥ぎと予備半田の基本を理解し、今後「ミキシング実習1」などで使用していくケーブルを作成しながら加工の基本を学んでいく。 ※XLR、2P、3Pなどのコネクタを使用したケーブル作成。	
11	電気回路の実験 テスターを使った基礎電子回路の実験 合成抵抗の実験	
12	電気回路の実験 テスターを使った基礎電子回路の実験 分圧の法則の実験	
13	電気回路の実験 テスターを使った基礎電子回路の実験 オームの法則の実験	
14	電気回路の実験 LED、ポリウム、ダイオードなどにおける半導体の実験1	
15	電気回路の実験 オシロスコープにおける音質の観測	
16	電気回路の実験 発信機、ミリバルにおける音量の測定	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・ 実習	
授業概要	
機材のメンテナンスや現場での応急処置などをするにあたり、実際にケーブル製作や電子機器の作成を行いながらハードウェアに関する知識を習得していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:工具一式	
後期	
到達目標	
オリジナルプランによる電子回路や電子機器の製作を行い、半田付けや測定などが正確にできるような技術と知識を習得する。	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	SRの現場における音場の測定 音場と音圧分布
2	SRの現場における音場の測定 音場と周波数特性
3	SRの現場における音場の測定 色々な電源とノイズ
4	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
5	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
6	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
7	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
8	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
9	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
10	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
11	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
12	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
13	電子工作 オリジナルプランによる電子機器製作
14	製作物の電氣的測定 後期にわたって行った制作物に関して、正常に動作しているかの電氣的測定を行います。
15	まとめ 年間を通して行った、電氣的な創作物や測定についての振り返りを行い、またそれに対する補足をを行います。

授業科目		授業時数
ミキシング		124
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
松川 貴陽 音響現場の経験を生かした、繊細かつスピード感あるミキシングを、コミュニケーションを含めたかたちで教授		
前期		
到達目標		
ミキシングコンソールの基本構造や信号の流れを理解し、操作方法を身に付ける。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	実習室の使用方法と心構え 実習室にある機材の使用方法やこれから受講していく上でのマナー/心構えを話し、目標・目的をはっきりと持たせる。	
2	ステレオとモノラルの概念 ステレオとモノラルという空間の違いを音を聴きながら理解	
3	ミキシングコンソールの構造① ミキサー全体の信号の流れについて、チャンネルフェーダーとマスターフェーダーについて	
4	ミキシングコンソールの構造② チャンネルの機能紹介 ヘッドアンプ EQ PAN インプットパッチの切り替え	
5	ミキシングコンソールの構造③ シーンメモリーとメータリングについて	
6	ミキサーとプロツールズとの接続① ミキサーとプロツールズ間のルーティングを理解	
7	ミキサーとプロツールズとの接続② マイクレベルとラインレベルの違いについて	
8	復習 マイクを接続し、プロツールズに適正なレベルで録音できるようセットアップしシーンを保存	
9	EQと周波数について① EQの使用方法を解説し、その際の周波数の変化に行いて学んでいきます。	
10	EQと周波数について② 前回のおさらいをしていきます。またミキシングにおけるEQをかけるポイントも解説します。	
11	AUXセンドバス AUXセンドバスと内部エフェクトとのルーティングを理解	
12	AUXセンドバス AUXセンドバスのパッチ切り替えとアウトプットパッチの理解	
13	バスの使用 バスのルーティングを理解して様々なバス設定をできるようにする	
14	ミキシングの基礎① 音楽ミキシングにおける音量やバランスのととり方、EQの使い方、定位など細かい部分での調整方法を学んでいく。	
15	実技試験 前期の学習内容から一部抜粋的に実技試験を行う	
16	前期まとめ 前期に習得した全てにおいて確認し、不十分な部分を補うことと後期への導入を行っていく。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・ 実習	
授業概要	
デジタル音響調整卓の取扱いとミキシングの手順と手法を学習、アナログとの対比も含め、自分の耳で判断する為の音楽的知識も含めたものになっています。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:CD900ST(ヘッドホン)	
後期	
到達目標	
エフェクターなどを使用し、あらゆる状況に対応したミキシングをする。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	AUXとINSERT AUXやINSERTの回路を理解し、その仕組みと必要性を知る。またそれを利用していくことができるようになることを目標とする。
2	エフェクター(リバーブ)について① マルチエフェクター利用してその中にある様々なパラメーターを知り、かけ方やその特徴を理解した上で調整ができるようになる。
3	エフェクター(ディレイ)について② マルチエフェクターを利用してその中にある様々なパラメーターを知り、かけ方やその特徴を理解した上で調整ができるようになる。
4	エフェクター(モジュレーション系)について③ マルチエフェクターを利用してその中にある様々なパラメーターを知り、かけ方やその特徴を理解した上で調整ができるようになる。
5	エフェクター(ノイズゲート)について④ ノイズゲートについてその仕組みや動作、調整方法を知り、音作りに利用していくことができるようになる。
6	エフェクター(コンプレッサー/リミッター) コンプレッサーについてその仕組みや動作、調整方法を知り、音作りに利用していくことができるようになる。
7	課題曲① 課題曲についてこれまで学んだ手法を使用しミキシングを行っていきます。
8	課題曲① 前回に引き続いて課題曲についてこれまで学んだ手法を使用しミキシングを行っていきます。
9	課題曲① 2回に渡って行った課題曲のミキシングを仕上げ提出していきます。
10	課題曲① 前回提出した、音源を各自で聞きあって採点を行っていきます。
11	課題曲② 課題曲についてこれまで学んだ手法を使用しミキシングを行っていきます。
12	課題曲② 前回に引き続いて課題曲についてこれまで学んだ手法を使用しミキシングを行っていきます。
13	課題曲② 2回に渡って行った課題曲のミキシングを仕上げ提出していきます。
14	課題曲② 課題曲についてこれまで学んだ手法を使用しミキシングを行っていきます。
15	1年間のまとめ これまでにミキシングについての振り返りと補足を行っていきます。

授業科目		授業時数
Pro Tools		62

学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻

担当講師(プロフィール)
 松川 貴陽
 音響現場の経験を生かした、繊細かつスピード感あるミキシングを、コミュニケーションを含めたかたちで教授

前期
到達目標
Pro Toolsを使って簡単な曲の編集ができるようになる。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1	イントロダクション Pro Toolsを扱う前段階としてMac OSの基本操作を学び、授業で使用するHDDのフォーマットを行い、その意味を説明する
2	セッションの作成 音源を編集するためのセッション作成を行いそこへのオーディオインポートの方法、またセッションの管理の仕方を学ぶ
3	ウィンドウの説明① メイン編集ウィンドウに表示されている、ロケート、編集ツール、ウィンドウ切り替え、拡大/縮小などの役割を理解する。
4	ウィンドウの説明② コピー&ペースト、ループ再生、繰り返し、フェードファイル、ボリュームオートメーション
5	ウィンドウの説明③ 編集モード、カウンターモードなどの使用方法、効果などを学んでいきます。ナッジ、テンポ設定などの学び、合わせて、コマンドショートカットを覚えていきます。
6	マスター作成 編集した音源のマスター作成の方法を学んでいきます。あわせて、これまで学んだ各ウィンドウの役割、モード、コマンドショートカットを復習します。
7	I/O設定 I/O設定でのインプット、アウトプットの設定方法を学び、また起動時のトラブルシュートの方法も理解していきます。
8	トラック編集 録音したトラックの編集の方法を学ぶ、その際のコマンド操作、注意点、ポイントなども合わせて学ぶ
9	バウンス バウンスの意味を理解し実践していく。その際のマスターデータの管理も学んでいく
10	フラッシュ作成① 各自の好きな曲を取り込みつないで編集をしてバウンスを行う。この際積極的にコマンド操作を使い、作業になれるように指導をする
11	フラッシュ作成② 各自の好きな曲を取り込みつないで編集をしてバウンスを行う。この際積極的にコマンド操作を使い、作業になれるように指導をする
12	フラッシュ作成③ 各自の好きな曲を取り込みつないで編集をしてバウンスを行う。この際積極的にコマンド操作を使い、作業になれるように指導をする
13	フラッシュ提出 各自で編集した音源を提出する
14	復習 今までの画面や操作方法などを実際にソフトを扱いながら復習を行っていく
15	前期実技試験
16	まとめ 前期で学んだことの復習を行い、また各操作に対する補足説明も行っています。

授業の方法
講義・演習・実験・実技・実習

授業概要
 DTM(HDDレコーダー)の取扱いをProToolsを使って行います。CAT独自のシステムによる各学生への音源供給を行い、リアルな音楽環境を再現しています。
 <実務経験のある教員等による授業科目>

使用教材: CD900ST(ヘッドホン)、HDD

後期
到達目標
プラグインやオートメーション機能を使ってPro Toolsでのミキシングができるようになる。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容
1	プラグインの使い方 各トラックにプラグインエフェクトをかける方法をレクチャーしていきます。また、プラグインの管理方法についても解説していきます。
2	AUXトラックの使用 AUXトラックの使用しての複数のトラックをまとめる方法を解説していきます。
3	AUXトラックのセンドリターン AUXトラックのセンドリターンを使い、1種類のプラグインをかける方法を解説実践していきます。
4	トラックグループ ソロセーフ 複数トラックをグループでまとめて一括で操作する方法を学んでいきます。またソロの際ほかのトラックに影響を与えないセーフソロの方法も学んでいきます。
5	オートメーション 各トラックにオートメーションを書いていく方法をいくつか解説し、実践していきます。
6	課題曲①ミキシング これまで学んだ手法を用いて実際にマルチトラックをミキシングしていきます。この際、積極的にショートカットコマンドを用いるよう指導することで、実際のスタジオ業務の際に要求されるスピードを身に付けていきます。
7	課題曲①ミキシング これまで学んだ手法を用いて実際にマルチトラックをミキシングしていきます。この際、積極的にショートカットコマンドを用いるよう指導することで、実際のスタジオ業務の際に要求されるスピードを身に付けていきます。
8	課題曲①提出 ミキシングの出来上がったトラックを2Trackにバウンスをし、提出します。
9	課題曲①採点 完成した、各自の音源を聴き採点を行います。またその際、正しいルーティンで行われているかについても確認していきます。
10	ファイル管理の復習 各システムの管理方法を復習し、トラブル等に対処できるようにしていきます。
11	録音作業、ルーティングの復習 録音作業の際に必要な操作設定を繰り返し行い、効率よく作業ができるようにトレーニングをします。
12	編集作業の復習 編集作業に必要な、操作、ショートカットコマンドを復習し業務の迅速化を目指します。
13	ミキシング作業の復習 ミキシングの際に必要な操作、プラグインのかけ方や、ショートカットコマンドなどを復習していきます。
14	実技試験
15	1年間まとめ 年間を通して学んだPro Toolsの操作方法のこれからの活用をおさらいして、2年次へつなげていきます。

授業科目		授業時数
PA実習		124
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
富江 昌令 ホール管理と仮設現場双方の経験を持つ。安全第一を主眼に、大規模から小規模まで様々なエンジニアリングに対応できるスキルを教授。		
前期		
到達目標		
実際の現場でははじめに必要とされる基本的な作業を確実に身に付ける。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	PAの概要	『PAとはどういうことなのか?』その意味を理解し、心構えをしていく。
2	マイクケーブル巻き	PAに必要なケーブルの巻き方(ハの字巻き)の意味と方法を知り、その習得にあたっての練習を繰り返して行く。
3	マイクアンプについて	様々なマイクの種類が区別できるように、使用用途の説明などを通して現場でよく使用されるマイクを覚えていく。またマイクによっての取り扱い方も学び、機材の大切さを知っていく。
4	マイクスタンドについて	マイクスタンドの種類やスタンドについている各ネジの種類などを学び、その立て方を習得する。すばやく的確にマイクスタンドを立てるにはどうすればよいか?その方法を繰り返し練習して身につけていく。
5	スタンド式スピーカの立て方	小規模PAでよく使用されるスタンド式スピーカの立て方を学び、ひとりでスタンド式のスピーカが立てられるようになることを目標とする。
6	パワーアンプについて	PAの現場で実際に使用されているパワーアンプの接続方法を学んでいく。またパワーアンプとは実際にどのような役割を果たしているのか実習を通して理解していく。
7	マルチケーブル巻き	マルチケーブルの仕組みと用途、またすばやくきれいに巻き取るための巻き方を習得していく。
8	マイクのセッティング方法	回線表に記載されている様々な記号の読み取り方を知り、それに合わせたマイクとマイクスタンドがセッティングできるようになる。
9	検定①	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。
10	検定②	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。
11	検定③	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。
12	検定④	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。
13	ホール実習について	夏期休業中に実施される『ホール実習』にむけての説明とPA現場での仕込み～本番～バラシまでの仕事の流れを理解していく。
14	検定⑤	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。
15	検定⑥	今まで学んできた『マイクケーブル巻き・マイクスタンド立て・スタンド式スピーカ立て・マルチケーブル巻き・マイク識別』以上の5項目を決められた時間内にできるまで検定を受けていく。
16	前期のまとめ	前期に習得した内容に基づき、後期で学ぶ小規模PAシステムセッティングにおける導入を行っていく。

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
学校施設を中心に小規模から中規模程度までの仮設音響機器の取扱いや設営方法を学び、現場と同じような仕込みを繰り返して体感していく実習です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:SM58(マイク)		
後期		
到達目標		
PAシステムを組みながら最低限必要な知識を身に付け、セッティングから音出しまでができるようになる。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	舞台用語について	現場でよく使用されている用語や装置の名称など、講義で学んだ用途と合わせて理解していく。
2	卓(ミキシングコンソール)の基本操作	前期の「ミキシング実習1」で学んだ内容に基づき、正しい卓(ミキシングコンソール)の操作手順を考えながら実践し、実際の信号の流れ方を確認する。
3	ケーブルとコネクタの種類	音響の現場でよく使用される各種ケーブルとコネクタプラグなどの種類と規格を知り、それがシステム全体を左右するものだという重要性を確認、理解していく。
4	小規模PA①(SXセット)	マイクからスピーカまでの信号の流れを「ブロック図」を用いて理解できるようになり、またその流れを簡単な「ブロック図」で表すことができるようになる。
5	小規模PA①(フロントスピーカについて)	ブロック図に基づいての機材セッティングや配線ができるようになり、フロントスピーカの役割とその仕組みを実践しながら学んでいく。またBOX型のスピーカのスタッキング(ラッシングを含む)方法なども習得していく。
6	小規模PA③(モニタースピーカーについて)	モニタースピーカーの役割とその必要性を考えながら、そのセッティングができるようになる。
7	トータルシステム①	今までに学んだ小規模PAシステムの復習として、マイク・エフェクター・フロントスピーカ・モニタースピーカーなどをセッティングし、その接続方法と信号の流れを再確認する。
8	トータルシステム②	今までに学んだ小規模PAシステムの復習として、マイク・エフェクター・フロントスピーカ・モニタースピーカーなどをセッティングし、その接続方法と信号の流れを再確認する。
9	音出し	トータルシステムをセットアップした上で、そのシステムを使って実際に音を出し、接続が確実にできているか?などをチェックしていく。
10	トータルシステム③	仕込み図に基づいた機材のセッティングから回線チェックまでを行い、すばやく確実にセッティングできるようになるため、グループごとで時間を計ってセッティングするなどの練習を行っていく。
11	トータルシステム④	仕込み図に基づいた機材のセッティングから回線チェックまでを行い、すばやく確実にセッティングできるようになるため、グループごとで時間を計ってセッティングするなどの練習を行っていく。
12	グラフィックイコライザーについて	PAの現場における「グラフィックイコライザー」の役割とその必要性を理解し、それを使用したセッティングができるようになる。
13	チューニングについて	前週学んだ「グラフィックイコライザー」をセッティングし、それを使用したスピーカのチューニング方法を知り、自分でするように練習していく。
14	ラインアレイスピーカシステム①	大規模なPA現場で使用される「ラインアレイスピーカ」を使用したシステムのセッティング方法を学び、その構造や特徴を理解する。
15	ラインアレイスピーカシステム②	グループごとにラインアレイスピーカのセッティングと回線チェックを行い、安全で確実なセッティング方法を習得する。

授業科目		授業時数
レコーディング実習		124
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
山本 篤士 数多くのミュージシャンとの現場作業経験を生かし、その場の現場対応技術も含めたかたちでレコーディングを指導。		
前期		
到達目標		
スタジオのシステム、基本的な信号の流れを理解し、簡単なボーカルレコーディングができるようになる。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	レコーディングスタジオ概要と心構え	レコーディングエンジニアに必要とされるスタジオでのマナーや心構えを知り、これから学んでいく作業への意識を高めると共にレコーディングスタジオの概要を理解していく。
2	スタジオ内の機材について	実作業で必要となる最低限の機材(ミキシングコンソールやPro Tools、アウトボードなど)を知り、電源の入れ方や使用方法などを学習していく。
3		前週の機材に加え、スタジオ内のあるマイク、スタンドの種類なども学び、それぞれの役割や特徴などを身につけていく。
4	スタジオ内の信号の流れ	マスターレコーダーを使用し、スタジオ内での音の鳴らし方を習得。その流れをシステム系統図を用いて理解していく。
5		前週に引き続き、マスターレコーダーを使用しながら信号の流れ、注意点などを学んでいく。
6	Pro Toolsセッティング	Pro Toolsのセッションの作り方を学び、レコーディングで使用するツールの説明などを行っていく。合わせてタイム取りも行っていく。
7		
8	スコアリーディング①	録音される楽曲の譜面・歌詞を読むことができるのは重要なポイントとなるため、その練習を行う。
9	マイクセッティングと回線チェック・録音	少ない本数でのマイクセッティング(たとえばヴォーカル録音用セッティング)を学び、実際に録音していく。その際に信号の流れやレコーディング作業の流れ、注意点などを学んでいく。
10		前週に引き続き、少ない本数でのマイクセッティング(たとえばヴォーカル録音用セッティング)を学び、実際に録音していく。その際に信号の流れやレコーディング作業の流れ、注意点などを学んでいく。
11		セッティングや作業の流れなど学習しながら録音していく。特にマルチトラックレコーダーを中心にさらに知識を身に付けていく。
12	RECシミュレーション&TD	学生からVOCALISTを選び、今まで学んだ内容をもとにレコーディングスタジオの作業を確認しながら進めていく。
13		
14	Pro Tools追加セミナー	現場でのPro Tools作業(アシスタントエンジニア)が、そのスタジオの仕事のリズムを作り出すものになることを理解してもらう。
15	前期試験	
16	前期のまとめ	授業での疑問点等のFollowを行いながら後期予定等の打ち合わせも兼ねる。

授業の方法	
講義・演習・実験・実技(実習)	
授業概要	
録音スタジオでの所作から始まり、周辺機器の取扱いや操作法、その効果を学びます。音楽的な内容が数多く現れる現場として、その作業の進め方を学んでいきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
りやオーバーダビングといった、さまざまな録音方法を理解し、基本的なバンドレコーディングができるようになる。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	スコアリーディング② 録音される楽曲の譜面・歌詞を読むことができるのは重要なポイントとなるため、その練習を行う。
2	演奏ブース コントロールルームの内容以外に演奏ブースの仕様を説明。ボーカル、ピアノ、ドラム、ベース、ギター等の録音イメージをもってもらう。
3	ボーカルRecの流れ① ボーカル録音をセッティング。実際にボーカリストに入ってもいい、回線チェック〜リハーサル〜録音の流れを理解していく。
4	ボーカルRecの流れ② ボーカル録音を行うための仕込み、ボーカリスト誘導、リハーサル・録音・Vocal edit・コミュニケーションまでの流れを学ぶ。
5	ボーカルRecの流れ③ ボーカル録音の技として良い部分を組み合わせるVocal editについて学ぶ。歌詞カードや実際の譜面を見るという工程も伴うようにしていく。
6	ボーカル録音(カラオケ録音) 在校生のボーカル2名を録音する。しっかりした録音として仕上げることを目的とする。
7	弾き語り録音&TD 弾き語り(Piano or Guitar)のプリプロ音源を制作する。ライブ感ある音場に仕上げて、ご本人に郵送する。
8	TD
9	Pro Tools追加セミナー 現場でのPro Tools使用は、スピードと確実性が求められる。数を熟して現場経験が必要なものとして、授業でできる最大限を追求していく。
10	楽器(ドラム) 実際にドラマーにスタジオに来てもらってセッティング、マイク立込み、サウンドチェックまでの作業を行う。
11	楽器(ギター・ベース) 実際にギタリスト、ベーシストに来てもらってセッティング、マイク立込み、サウンドチェックまでの作業を行う。
12	バンド録音&TD 粗めの3Pバンド発取りライブ録音を行う。レコーディングスタジオで目一杯鳴らすドラム・ギターを録り込んでみましょう。
13	先生のTDその音で、サウンドの変化とバランスをみんなで体感していきます。
14	後期試験
15	1年間のまとめ 録音業務としてアーティストと対峙する仕事なので、コミュニケーションの力を付けていくこと。この内容に関しては、音楽やエンターテインメント等にはっきり興味を持ち続け勉強が必要。

授業科目		授業時数
音楽業界概論		62
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前期		
到達目標		
CD制作の仕組みを理解 音楽業界の各分野の会社組織を知る		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 年間スケジュール	2年生の年間スケジュールの説明、就職対策講座や会社説明会等の仕組みとその内容を改めて解説します。	
2 検定試験	再度、検定試験等の受験を説明、2年間で色んなものを勉強して検定取得を目指します。	
3 面談[就職活動相談]	個々に時間を取って、方向性・活動状況・家族の同意・自分自身が迷う事等をリサーチしていきます。	
4 面談[就職活動相談]		
5 面談[就職活動相談]		
6 CD制作の仕組み①	CD制作工程を、レコーディング(原盤制作)も入れて理解していきます。企画、楽曲A&R、アレンジ企画、ミュージシャンPU、スタジオ、エンジニア、ジャケット撮影、リリース等、商品を作るために沢山の人が動きます。	
7 CD制作の仕組み②	プレスされたCDが、どのようなかたちで流通するのか? また、売上げはどういう方法で加算されるのか等、制作～流通、消費者に届くまでを勉強します。	
8 検定試験対策①	模擬試験等を用意して実際に実施をします。採点は、学生自身もしくは隣同士で採点を行い、弱い部分等をPUSHしていきます。	
9 検定試験対策②	別問題の模擬試験を用意して実際に実施をします。採点は、学生自身もしくは隣同士で採点を行い、弱い部分等をPUSHしていきます。	
10 プロダクションにやイベント制作について	実際の現場では、まずイベント・コンサート(レコーディング)等の企画を起こして「実施を企てる」ところからスタートします。皆さんの現場は、その後発注されるものでもあります。	
11 舞台制作会社について	イベントホールやコンサートホールの管理についての仕組みを学びます。また、野外特設等で何も無いところからステージを製作していく会社の存在にも着目します。	
12 照明会社について	照明会社のホール管理部門、イベント特設部門等の仕組みについて理解を深めます。	
13 映像関連について	映像に関しては、TV局の撮影・収録・編集(送出)やイベント現場でのスクリーン設置、映像収録やライブ中継等、多岐にわたります。	
14 総復習	個々の方向性をしっかり固めて、就職活動をしていきます。その為の補足的内容も付け加えて行きます。	
15 前期試験		
16 FOLLOW	研修先等での行動をしっかりと行い、自分が吸収した内容を見直し、後期に望みます。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
音楽配信の仕組みを理解する / 自分たちでイベント制作を行う 自分自身をプレゼンテーションできる	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1 音楽配信の仕組み①	CDの流通は激減、配信によって音楽が購入されています。基本的な流れを理解してもらい、今後の変化にも対応します。
2 音楽配信の仕組み②	音楽配信のおかげで今まで、知ることができなかった、様々なミュージシャンたちの演奏も見ることが出来ます。各国のアーティストが発信を続けて行く限りない世界に突入している現状です。
3 裏方に対する表方[運営]について	ステージ上もしくは、ステージに関連する内容を行う裏方さんと、そのイベントやコンサートを観覧するお客様の案内・誘導を行う「表方」が存在します。みんなの仕事は、そのチケット代で成立しています。
4 学園祭準備①	クラス単位で、学園祭のイベント・コンサート音響を支えています。そのための配分や担当を考えて進めて行きます。音楽ビジネス専攻からの情報を共有します。
5 学園祭準備②	内容が明確にわかってくと、それに向かった準備を、1年、2年で協力して行います。2年生は先輩として、1年生を教える立場でもあります。
6 学園祭準備③	現場を仕込む段取り、事前に作られたプランを参考にみんなで協力していく体制を作っていく、本番に臨みます。
7 面談[就職活動相談]	時期的には、最終の就職相談時期となります。再度、方向性・活動状況・家族の同意・悩む内容に対してキャリアスタッフと共に相談していきます。
8 面談[就職活動相談]	
9 オリジナリティ	自分にあると信じて「オリジナリティ」の勉強です。意外に音楽内容では無い可能性もありますが、自分の長所を見極めていけると嬉しく、自信にも繋がってきます。
10 プレゼンテーション1週目	2週に渡って、「自分の将来像」を自分なりにまとめ、自己分析も含め、自分の説明を考えてもらい、発表する場面を作っていきます。
11 プレゼンテーション2週目	
12 これからの音楽業界	皆さんが進む音楽業界ですが、また5年もすれば、流行りもシステムも変化していきます。ただ、過去の流行を辿ると、この先が見えるかも知れません。
13 総復習	作業も含まれ、自分の周りの専攻だけではなく状況で作業をしていきます。就職に役立つ内容として理解してください。
14 前期試験	
15 FOLLOW	任される内容に対して答えたいける実力を培ってもらえれば大丈夫です。現場は「人」ありきのものなので、コミュニケーション力をUPさせる努力をしていきましょう。

授業科目		授業時数
音楽技術論		62
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前期		
到達目標		
実際の現場作業に必要な知識を深める。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	マイク	・特長、特性の再確認 ・アクセサリーの使用方法
2	スピーカー	・ユニット、エンクロージャー特長、特性の再確認 ・マルチウェイシステムに関する応用知識
3	パワーアンプ	・特長、特性、安全装置の再確認 ・等級、DF、入出力レベルの理解 ・BTL接続の理解
4	LAN	・一般的なシステム構築法 ・Wi-Fiの仕組み、意味 ・音響現場での応用
5	インピーダンス①	トランス ・特徴と使用実例 ・優位性と弱点
6	インピーダンス②	ローインピーダンスの優位性 ・レベルとS/N比 ・シールドの必要性
7	インピーダンス③	ハイインピーダンスライン ・設備実例
8	デジタルネットワーク①	・規格各種 ・イーサネット ・レイテンシー問題
9	デジタルネットワーク②	ネットワーク基礎用語 ・P2P、マルチベンダー、Ping ・MACアドレス、CAT5e
10	デジタルネットワーク③	インターネット関連 ・ブラウザ ・Eメールの仕組み ・クラウドサーバー
11	電源①	・商用と動力 ・電源位相 ・単相と三相
12	電源②	・有効電力と無効電力 ・力率
13	電源③	・三相交流の配線 ・接地
14	総復習	
15	前期試験	
16	追試験	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音響技術者に必要な基礎知識の習得を目指します。音響学、専門用語を中心に現場作業での実演家に対応する能力を身につけます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
現場での即戦力となり得るよう、知識を高める。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	ワイヤレスマイクの運用法① ・運用周波数帯 ・帯域別特徴
2	ワイヤレスマイクの運用法② ・運用実例 ・トラブルシュート
3	MIDIの注意点 ・ケーブルとコネクタ ・接続とルーティング
4	バッテリー(充電電池)の注意 点 ・乾電池との違い ・種類と特徴 ・使用方法と禁則
5	著作権① ・知的財産権 ・人格権と財産権
6	著作権② ・著作権条約 ・肖像権
7	著作権③ ・映像との絡み ・私的利用
8	ミキシング概論① ジャンル別考察 ・ロック ・ジャズ
9	ミキシング概論② ジャンル別考察 ・ポップス、フォークミュージック ・クラシック
10	ミキシング概論③ 技術的考察 ・ステレオとモノラル ・サラウンド
11	ミキシング概論④ 心理的考察 ・心理効果と錯覚 ・周波数帯域による聞こえ方の違い
12	ミキシング概論⑤ 人的考察 ・コンサート現場でのミキシング ・録音現場でのミキシング
13	纏め
14	後期試験
15	追試験

授業科目		授業時数
技術演習		124
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
岩田 晶 他 長年の音楽家としての活動経験と同時にシステムエンジニアとしてのキャリアを持つ。その経験から楽器・パソコンの取り扱いを指導する。		

前期	
到達目標	
弦楽器類の知識 パソコンの基本操作ができる ワープロソフトでの文書作成等ができる	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		実施内容
1	楽器知識	アコースティックギターの種類や用途、そのサウンドについて。弦の種類(ナイロン、スチール)回路の有無など様々な種類があり、その取り扱いを学習します。
2	楽器知識	音を増幅する回路をもちポピュラー音楽では主流となっているエレキギター。メーカーによるモデルの種類など
3	楽器知識	低音部の撻弦がつきであるエレキベース。メーカーによるモデルの違い、回路の違いによるサウンドについてなど。
4	楽器知識	エレキギターやエレキベースの音を増幅させるギターアンプ・ベースアンプ。オーソドックスなモデルやメーカーを知る。
5	楽器知識	ストリングスと呼ばれるバイオリン、ピオラ、チェロ、コントラバスなどの弦楽器。オーケストラで使われる弦楽器の種類。形状やサウンドの種類を紹介する。
6	パソコンの取り扱い Word	基本操作、文字入力 ワードの基本操作を学び、タイピングに慣れることを目標として学習する。
7	パソコンの取り扱い Word	基本編集(フォントサイズ、書体、加線、網掛け、文字囲み、中央揃え、右揃え、均等割付等) 簡単なビジネス文書の作成
8	パソコンの取り扱い Word	図形描画(ワードアート、オートシェイプ、クリップアート等) 図形描画の機能を使用した文書の作成
9	パソコンの取り扱い Word	罫線(表作成、種類、網掛け、挿入、削除、結合、分割、幅、高さの変更等) 罫線を使った文書を作成する。
10	パソコンの取り扱い Word	罫線の応用 タブとリーダー 複雑な罫線を使った文書を作成する。地図の入った文書を作成する。
11	パソコンの取り扱い Word	今まで習得した機能を使用し、メモ書きの文書を完成させる(地図含む)
12	パソコンの取り扱い Word	書式のコピー、スタイルの編集 複雑な書式設定を使い文書を作成する。
13	パソコンの取り扱い Word	今まで習得した機能を使用し、プロフィールを作成する。 他人の作品(プロフィール)を評価する。
14	パソコンの取り扱い Word	段組、インデント、タブとリーダーを利用した文書を作成する。
15	パソコンの取り扱い Word	今まで習得した機能を使いポスターを作成する。 他人の作品(ポスター)を評価する。
16	パソコンの取り扱い Word	セクションに区切りを付け、ページごとに異なる形式の複雑な文章を作成する

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
電気知識を含めた音響機器・楽器・コンピュータ等の取扱いを学び、単に知識習得に止まる事無く、作業的にも技術的にも実際の現場対応を想定したものにります。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	

後期	
到達目標	
打楽器、鍵盤楽器、管楽器の知識 表計算ソフトで書類作成ができる プレゼンテーションソフトで資料作成ができる	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		実施内容
1	楽器知識	打楽器であるドラムの各パーツの名称や構造を学ぶ。楽器を構成する複数の部品等について。
2	楽器知識	ポピュラーミュージックに用いられる代表的なパーカッションの名称とサウンドを紹介する。
3	楽器知識	ピアノをはじめとする鍵盤楽器を紹介していきます。ここではシンセサイザーが登場するまでの楽器を扱います。
4	楽器知識	様々な音色を表現できるシンセサイザーの代表的な機種を学びます。MIDIという規格についても学習していきます。
5	楽器知識	金管と木管の種類にわかれる管楽器の名称とそのサウンドについて学習します。
6	パソコンの取り扱い Excel	基本操作、関数式(SUM AVERAGE MAX MIN COUNT等) 様々なスタイルの表を作成する。成績表を作成し合計、平均などの関数式を求めます。
7	パソコンの取り扱い Excel	関数式(IF関数 AND 絶対値、COUNTIF、VLOOKUP HLOOKUP)入力規則を使って実際に資料を作成します。
8	パソコンの取り扱い Excel	表計算の数値からグラフを作成します。売上表などを作成し、円グラフ、棒グラフなどを作成する方法を学ぶ。
9	パソコンの取り扱い Excel	入力規則、並び換え、抽出、リストの作成を行って、後に並び替えや抽出をする方法を学びます。
10	パソコンの取り扱い Excel	シート間の計算を行います。別々のシートに入力したデータの編集をし、集計表を作成していきます。
11	パソコンの取り扱い Power Point	プレゼンなどに用いられるPower Pointの基本操作を学習します。
12	パソコンの取り扱い Power Point	プレゼンなどに用いられるPower Pointの基本操作を学習します。
13	まとめ	今まで習得したことを応用し、各自でテーマを決め企画書を作成する。
14	まとめ	今まで習得したことを応用し、各自でテーマを決め企画書を作成する。作品提出。
15	まとめ	作品の評価返却、年間のまとめ

授業科目		授業時数
ハード実習		62

学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻

担当講師(プロフィール)
 金谷 昇治
 音響機器、楽器を問わず電気・電子回路に精通しており、様々なケースのトラブルシューティング、メンテナンス法を初歩から手ほどきする。

前期
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 不具合なケースを経験してみる事で正しい事を理解する力をつける これにより、現場でのトラブルシューティングの力を上げる 電子回路、電子部品の基礎力を上げる

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価・小テスト・その他)

授業計画	
授業項目	実施内容
1	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
2	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
3	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
4	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
5	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
6	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
7	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
8	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
9	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
10	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
11	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
12	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
13	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
14	前期総括・補修
15	作品製作① 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
16	作品製作①と後期への導入 半期にかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。

授業の方法
講義・演習・実験・実技(実習)

授業概要
 機材のメンテナンスや現場での応急処置などをするにあたり、実際にケーブル製作や電子機器の作成を行いながらハードウェアに関する知識を習得していきます。
 <実務経験のある教員等による授業科目>

使用教材:

後期
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> オリジナルの音響機器を制作する事で電子回路、電子部品の理解力を身に付ける 機材を比較及び改造することで音の違いを理解する。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価・小テスト・その他)

授業計画	
授業項目	実施内容
1	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
2	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
3	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
4	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
5	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
6	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
7	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
8	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
9	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
10	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
11	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
12	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
13	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
14	作品製作②(1年次より通して3作品目) 半期をかけて電子工作を行い、電子回路の理解や簡単なメンテナンスができるようになる。
15	まとめ

授業科目		授業時数
ミキシング		62

学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻

担当講師(プロフィール)
山本 篤士 数多くのミュージシャンとの現場作業経験を生かし、その場の現場対応技術も含めたかたちでレコーディングを指導。

前期
到達目標

ミキサーの信号の流れ、エフェクターの使用法や応用の仕方を理解し、その技術をミキシングに活かすことができるようになる。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		実施内容
1	ガイダンス	年間の授業計画を説明、次週にミキシングスキルと現状の傾向をチェックしていくことを告知します。
2	レベルチェック	エンジニアを志す学生として、1年間学習したミキシングに対して、その吸収状況と好みの傾向をチェックします。
3	Drums①	ドラムサウンドのスタイルを説明、ミキシングのポイントを説明します。
4	Drums②	ドラムの基本3点(HH、BD、SN)が纏りなすビート感に集中します。録り込んだ音を生かしたかたちで、より良いサウンドを求めます。色々な聞こえ方があるので紹介していきます。
5	Drums③	Fill inやアタックに使われるタム類、シンバルの音色は、プレイヤーによって、全く考え方が違うことも紹介して進めます。
6	空間系エフェクト	リバーブ、ディレイの各パラメーターなどの復習と実践
7	空間系エフェクト	ドラムの基本3点(HH、BD、SN)に対して音楽ジャンルを意識した奥行き感や定位を求めてサウンド作りをしていきます。
8	空間系エフェクト	Fill inやアタックに使われるタム類、シンバルにエフェクト作業を行い広がりあるサウンドを求めます。
9	ダイナミクス系エフェクト	ゲートやコンプについて再度実践していきます。ドラム、ベースに対する必要性を考えて行きます。
10	ダイナミクス系エフェクト	ケート:音源の元となる打点から入口になるマイクまでを考えますが、周りには他の打点が数多く存在しており周り込みもあります。整理する/ライブ感を出す等のバランスを考えましょう。
11	ダイナミクス系エフェクト	コンプ:ベースの低音は、音として揺れ幅も大きいため、芯になる音の増減を考えた圧力調整します。そのやり方にセンスが問われます。
12	Mix演習①	与えられた指定音源の調整を行います。個々が自分のミキシングを表す機会となります。
13	Mix演習②	
14	Mix演習③	
15	前期テスト	全作品をスピーカー&ヘッドフォンで試聴
16	前期総括&FOLLOW	それぞれの良いところ、直してほしいところ等を申し送ります。

授業の方法
講義・演習・実験・実技・実習

授業概要
デジタル音響調整卓の取扱いとミキシングの手順と手法を学習、アナログとの対比も含め、自分の耳で判断する為の音楽的知識も含めたものになっています。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞

使用教材:

後期
到達目標

エフェクターを使いながら様々な音楽をミキシングしていき、その音楽に合ったミキシングができるようになる。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		実施内容
1	ガイダンス	ミキサーの信号経路について復習、スイッチング等のより高度なミキシングを目指します。
2	課題演習①	3Pバンドのロック曲をミキシングしていきます。ライブ感ある演奏を迫力ある状態で生かすミックスを希望します(質疑応答受付)。
3		
4		提出↓
5	課題演習②	4リズム歌モノ(Medium)のミキシングを行います。バックが出過ぎず存在感あるイメージ、ボーカルがしっかり立つことを希望します(質疑応答受付)。
6		
7		提出↓
8	課題演習③	4リズム+管saxの歌モノ(16Medium)のミキシングを行います。ドラムとベースが出るリズム隊に聞こえるかたちにして管楽器soloの空気感を出すように頑張ってください(質疑応答受付)。
9		
10		提出↓
11	テスト課題	4リズム・2VOハモリのミキシングを行います。ハモリ部分が美しいかたちの楽曲になるよう調整ください。リズム隊のまとめはエンジニアにお任せします(質疑応答受付無し)。
12		
13		提出↓
14	後期テスト	11~13週にかけて作った作品をスピーカー&ヘッドフォンで試聴
15	1年間の総括&FOLLOW	前期成長度合い等を含めた総括

授業科目		授業時数
レコーディング実習Ⅱ		248

学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻

担当講師(プロフィール)
片石 喜之 数多くの一流ミュージシャンとのセッションを重ねた技量で、現場第一の精神とテクニックを教授する。

前期
到達目標
スタジオのシステムをより深く理解し、基本的な録音が確実にできるようになる。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容

授業項目	実施内容
1 復習	1年次の復習及びスタジオシステム・ワークについて再度徹底をする。
2 ガイダンス	レコーディングスタジオへの就職を考えたかたちで、スタジオの仕組み、スタッフ、受注、準備、本番、その他の雑作業等の説明をする。
3 セッティング①	スタジオのバッチペイの仕組みについてより詳しく説明を行い、そのセッティングに時間をかけて取り組みます。
4 セッティング②	スタジオのアウトボード(アンプ・エフェクター類等)について再認識をもらいセッティングを学びます。
5 ボーカル録音①	ProToolsやMixerの操作を行いロケーティングの練習をやっていきます。
6	↓
7 TD①	第5～6週目に録音したセッションデータを用いて音声編集を行い、トラックダウンを行っていきます。
8	↓
9 小編集レコーディング	(Vo+A.Pf)(Vo+A.Gt)
10 TD	第9週目に録音したセッションデータを用いて音声編集を行い、トラックダウンを行っていきます。
11	↓
12 準備・セッティング～本番までの流れ	1～11週までに行った仕事としての準備・セッティング～本番、そしてTDまでの流れを整理してみる。当然操作する側なのでハードに左右されるが、あくまでも「人」「音」を大切にを進める。
13	
14 前期総括・補習	入力された音が、いろんなところを通過して録音される過程をしっかりと理解してもらう。その行き渡りに最善を尽くすように。
15 前期試験	●バンドレコーディング及び編集ミックス
16 FOLLOW	各学生の特徴を生かして後期に望む内容を申し送る。また、コミュニケーションがとても重要な仕事であることを再度徹底する。

授業の方法
講義・演習・実験・実技・実習

授業概要
録音作業を重ねることで、録音現場の統括力を養います。また、録音される音源の特徴を研究することや演奏者とのコミュニケーションについても勉強します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞

使用教材:

後期
到達目標
さまざまなバンドスタイルに対応した録音を行っていき、作業を通してトラブルの対処や知識、コミュニケーション能力を付ける。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画	
授業項目	実施内容

授業項目	実施内容
1 後期スタート スケジュール	再度、作業の流れやセッティング方法、マイキング、CUE BOXについてレクチャーを行い録音に備える。後期は、①録音/②TDの連続で進めて行く。
2 ボーカル録音(カラオケ録音)	在校生のボーカル2名を録音する。しっかりした録音として仕上げることを目的とする。
3 弾き語り録音	弾き語り(Piano or Guitar)のプリプロ音源を制作する。ライブ感ある音場に仕上げて、ご本人にお渡しする。
4 バンド録音	粗めの3Pバンド録音を行う。レコーディングスタジオで目一杯鳴らすドラム・ギターを録り込んでみましょう。
5 TD	↓
6 バンド録音	Keyboardが入った4リズムVocal程度の録音を行う。繊細にプレイされる内容をしっかりと録音します。
7 TD	↓
8 ラジオドラマ	15分程度のラジオドラマを録音します。声優5名程度の演技です。台本を見ながら、それぞれの「声」を録っていきます。
9 TD	↓
10 中継収録	CATHALLでPA実習として演奏されるバンドを中継収録していきます。ホール側とコミュニケーションを取りながら行っていきます。
11 TD	↓
12 公開オーディショングループ録音	2月上旬に行う「公開オーディション」出演グループの録音を行います。
13 TD	↓
14 後期試験	
15 1年間のまとめ	録音業務としてアーティストと対峙する仕事なので、コミュニケーションの力を付けていくこと。この内容に関しては、音楽やエンターテインメント等にとり興味を持ち続け勉強が必要。

授業科目		授業時数
Pro Tools II		124
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
山本 篤士 数多くのミュージシャンとの現場作業経験を生かし、その場の現場対応技術も含めたかたちでレコーディングを指導。		
前期		
到達目標		
操作スタイルの確立とオペレーションのスピードアップ		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	セットアップ① ・電源投入～初期設定確認 ・I/Oセットアップ ・クリックの作り方	
2	セットアップ② ・テンポ検出 ・クリック作成① ・クリックに関わるショートカット確認	
3	セットアップ③ ・クリック作成②～裏拍・リタルダント等 ・楽曲へのクリック付け ・カウント振り・ロケート準備	
4	セットアップ④ ・楽曲へのクリック当て込み①	
5	セットアップ⑤ ・楽曲へのクリック当て込み② ・カウント振りとロケートの練習	
6	操作練習① ボーカルレコーディング① ・セレクトにおける、テイクの管理の考え方と編集方法	
7	操作練習② ボーカルレコーディング② ・編集の理解 ・ボーカルエディット	
8	操作練習③ ボーカルレコーディング③ ・ボーカルエディット練習	
9	操作練習④ ボーカルレコーディング④ ・ボーカルエディット練習	
10	操作練習⑤ ドラム編集 ・ドラム編集法の理解 ・BeatDetectiveを用いた編習	
11	操作練習⑥ ベースギター編集 ・編集法の理解 ・実践練習	
12	操作練習⑦ ギター、キーボード編集 ・編集法の理解 ・実践練習	
13	操作練習⑧ その他の楽器の編集 ・パーカッション ・管楽器、弦楽器 ・コーラス、等	
14	前期総括・補修	
15	前期試験	
16	追試験 楽曲Edit・不可者追試	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
さまざまなProTools作業を理解して、個々の作業レベルを高めます。音楽制作に必要な表現能力を磨き、原盤制作や番組制作を勉強します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
アシスタントエンジニアとしてのオペレートスキルの向上	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	復習① ・前期内容の再確認 ・編集作業内容の確認と復習
2	復習② オートメーション ・各種設定 ・タイムコード管理
3	エディットとミキシング① 楽曲を用いて練習 ※1曲目1回目 ・データエディット ・ミキシング
4	エディットとミキシング② 楽曲を用いて練習 ※1曲目2回目 ・データエディット ・ミキシング
5	エディットとミキシング③ 楽曲を用いて練習 ※1曲目3回目 ・データエディット ・ミキシング ・バウンス
6	エディットとミキシング④ 楽曲を用いて練習 ※2曲目1回目 ・データエディット ・ミキシング
7	エディットとミキシング⑤ 楽曲を用いて練習 ※2曲目2回目 ・データエディット ・ミキシング
8	エディットとミキシング⑥ 楽曲を用いて練習 ※2曲目3回目 ・データエディット ・ミキシング ・バウンス
9	エディットとミキシング⑦ 楽曲を用いて練習 ※3曲目1回目 ・データエディット ・ミキシング
10	エディットとミキシング⑧ 楽曲を用いて練習 ※3曲目2回目 ・データエディット ・ミキシング
11	エディットとミキシング⑨ 楽曲を用いて練習 ※3曲目3回目 ・データエディット ・ミキシング ・バウンス
12	総復習① データエディット ・失敗例の考察 ・作業効率の考え方
13	総復習② ミキシング ・効果的なミキシング法の考察 ・プラグイン使用の注意点
14	後期試験
15	追試験

授業科目		授業時数
レコーディング工学		62
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
松川 貴陽 音響現場の経験を生かした、繊細かつスピード感あるミキシングを、コミュニケーションを含めたかたちで教授		
前期		
到達目標		
スタジオシステムや作業の知識を習得する。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音響の基礎 音響機器の歴史とデシベル (JAPRSサウンドレコーディング技術認定試験対策)	
2	音響物理の基礎 音圧・音の強さなど、音響物理 (JAPRSサウンドレコーディング技術認定試験対策)	
3	電気音響の基礎① 電源および信号伝送の基本 (JAPRSサウンドレコーディング技術認定試験対策)	
4	電気音響の基礎② オームの法則・位相・合成抵抗・合成容量の計算方法 (JAPRSサウンドレコーディング技術認定試験対策)	
5	スタジオシステム スタジオの基本的な構造 (JAPRSサウンドレコーディング技術認定試験対策)	
6	マイクロフォン エフェクター① ヴィンテージマイクも含め、様々なマイクの構造や取り扱い時の 注意点、エフェクターのパラメーター (JAPRSサウンドレコーディング技術認定試験対策)	
7	エフェクター② テープレコーダー スタジオ定番のエフェクターやテープレコーダーの構造や規格 について (JAPRSサウンドレコーディング技術認定試験対策)	
8	メータリング VUメーターとピークメーターの違いを知り、その使用方法を理 解し、実習で活用している知識を身に付ける。	
9	ミキシングコンソールの知識 VCAとムービングフェーダーの違いについて理解し、さまざまな モードの使用方法を知る。	
10	タイムコード タイムコードの種類と理屈を理解する。 SMPTEタイムコードの構造を覚える。	
11	同期とワードシンク ワードクックの重要性と分配方法に関しての理解を深める。	
12	デジタル接続とDAWについて の知識 デジタル接続時の利点と注意点、有効なDAQの利用法を身に 付けていく。	
13	トラックシートおよび楽譜に ついて 正確なトラックシートの書き方と譜面の読み方について学んでい き、実習で活かしていく。	
14	前期総括・補修	
15	前期試験	
16	期末テスト結果の弱点強化 苦手な内容についての復習と後期への導入を行う。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
過去から現在までの流れも理解しながら、録音作業に必要な知識の習得、録音機器の取扱いや保守方法、「音」についてのより深い知識を学んでいきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
ミキシングからサラウンドまで、さまざまな作業に関する知識を習得する。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	メータリングとアナログレコーダー 適正入力とアナログレコーダーの仕組みについての知識を付ける。
2	アナログレコーダーの調整方法 アナログレコーダーの調整方法に関する理解を深める。
3	デジタルレコーダーの仕組みとその利用方法 デジタルレコーダーの仕組みと正しい使用方法について
4	マルチマイクによるマルチトラック收音 オーケストラ録音における理想的なマイキング方法について学習していき、実践で活かせるようになる。
5	リズムトラックレコーディング リズムトラックレコーディングでの効果的なマイキングとトラック割りに関する知識を得る。
6	オーバーダビングとボーカルダビング 実習で学んでいることを思い出しながら、オーバーダビングとボーカルダビング時の注意点等について理解を深める。
7	ミックスダウン ミックスダウン時の技術と各メディアによる手法の違いについて知り、実践に活かしていく。
8	DAWの利用とライブレコーディングについて DAWの効果的な利用法とライブレコーディング時の注意点に関する理解を深める。
9	マスタリング マスタリングの歴史と目的、これからのマスタリングについて理解を深めていく。
10	確認テスト 前週まで学んだ事柄についての確認を行い、まだ理解できていない部分の克服を目標としていく。
11	次世代音響について① 様々なメディアによる音響特性を知っておく。
12	次世代音響について② データの互換性とネットワーク化に関する知識を身に付ける。
13	次世代音響について③ サラウンド収録におけるマイキングについて学ぶ。
14	後期試験
15	後期試験結果の弱点強化と総復習(まとめ) 一年間学んだことに関する総復習を行う。

授業科目		授業時数
PA実習Ⅱ		248
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
坂本 祐介 ジャンル問わず舞台音響、イベント音響に携っており、様々なケースの現場に即座に対応できる能力を持つ。これらの伝授には定評があ		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●PAシステムのセッティング方法の理解 ●スピーカーチューニング ●モニターセッティングの理解 		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	PAエンジニアの心構え PAエンジニアの実際の仕事内容の説明、及び一年間PA実習を受講していくに当たり将来どんなエンジニアになりたいのか?など学生との意思確認を行う。	
2	小規模PAシステムのセッティング1 一年時の復習として、BOSE802等のPAシステムのセッティングを確実の覚える。	
3	小規模PAシステムのセッティング2 時間を計ってセッティングをし、セッティングをする際の注意点を守り、マイクからスピーカーまでの信号の流れを確実に覚える。	
4	小規模PAシステムのセッティング3 マイクからスピーカーまでの各機器の取り扱いを覚える。ミキサーの信号の流れ、グラフィックイコライザーの特性などを学ぶ。	
5	小規模PAシステムのセッティング4 グラフィックイコライザーを使い、小規模システムのスピーカーのチューニングをする。	
6	PAシステムのセッティング1 マルチBOXの構造とその役割に関することやケーブルに関することを学ぶ。INPUT数を増やしてのステージセッティングを行い、注意する点を学ぶ。スピーカーのスタッキングする際の注意点を学ぶ。	
7	PAシステムのセッティング2 マルチウェイスピーカーシステムの仕組みを覚え、結線などが確実にできるようになる。INPUT数を増やしてのステージセッティングを行い、注意する点を学ぶ。	
8	ステージモニターセッティング1 フロント卓、モニター卓と分岐をし、結線などを覚えると共にモニターのチューニングを学んでいく。	
9	ステージモニターセッティング2 前週に続きモニター分岐をし、結線などを覚えると共にモニターのチューニングを学んでいく。	
10	PAシステムのセッティング3 フロント、モニター、ステージとポジション分けをする。各ポジションの役割を学んでいく。PA現場でよく使用される周辺機器の取り扱いを学んでいく。	
11	PAシステムのセッティング4 フロント、モニター、ステージとポジション分けをする。各ポジションの役割を学んでいく。PA現場でよく使用される周辺機器の取り扱いを学んでいく。	
12	PAシステムのセッティング5 フロント、モニター、ステージとポジション分けをする。各ポジションの役割を学んでいく。PA現場でよく使用される周辺機器の取り扱いを学んでいく。	
13	デジタルミキサーの取り扱い1 デジタルミキサーの基本的な概念、操作方法を学んでいく。	
14	デジタルミキサーの取り扱い2 デジタルミキサーの基本的な概念、操作方法を学んでいく。	
15	前期試験 第1～14週の内容から、実技試験と筆記試験を行う	
16	前期の復習 前期で学んだことを復習する。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・ 実習	
授業概要	
ステージ照明/楽器等も考えた音響機器搬入、仕込み設営を行い他業種との現場の乗入れも理解します。サウンドチェック、リハーサル～本番を繰り返していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●実際のバンド演奏での音作りの理解 ●ライブでの各作業の理解 	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	前期の復習1 INPUT、モニター、アウトシステム等のセッティングを中心に復習を行う。
2	前期の復習2 ミキサー、周辺機器の操作方法を中心に復習を行う。
3	実習1 ドラムパートのみPAする。その際セッティング方法、マイキングなど注意点を学ぶ。
4	実習2 ドラムパートのみPAする。その際セッティング方法、マイキングなど注意点を学ぶ。
5	実習3 ドラム、ベースパートのみPAする。その際セッティング方法、マイキングなど注意点を学ぶ。
6	実習4 ドラム、ベースパートのみPAする。その際セッティング方法、マイキングなど注意点を学ぶ。
7	実習5 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
8	実習6 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
9	実習7 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
10	実習8 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
11	実習9 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
12	実習10 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
13	実習11 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。
14	後期試験 第1～13週の内容から、実技試験と筆記試験を行う
15	年間 さまざまなパターンでのセッティングができるよう実践しながら学んでいく。

授業科目		授業時数
PA技術		124
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
伊東 克彦 あらゆるジャンルの音楽に精通、方法・条件を厭わず音をコントロールできる。初心者に分かりやすい解説法でテクニックを伝授する。		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●回線表の理解、作成 ●楽器の理解、ドラムセットの組み方など ●モニターセッティング、ステージ転換の理解 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	仕込みの流れ① 回線表の見方を学び、実際に仕込みを行いながら順序や動きなどを習得して行きます。	
2	仕込みの流れ② 回線表の見方を学び、実際に仕込みを行いながら順序や動きなどを習得して行きます。	
3	仕込みの流れ③ 回線表の見方を学び、実際に仕込みを行いながら順序や動きなどを習得して行きます。	
4	仕込みの流れ④ 回線表の見方を学び、実際に仕込みを行いながら順序や動きなどを習得して行きます。	
5	仕込みの流れ⑤ 回線表の見方を学び、実際に仕込みを行いながら順序や動きなどを習得して行きます。	
6	楽器に関して① ドラムセットの組み方やギターアンプ、ベースアンプなどの楽器のセッティングについて学びます。	
7	楽器に関して② ドラムセットの組み方やギターアンプ、ベースアンプなどの楽器のセッティングについて学びます。	
8	楽器に関して③ ドラムセットの組み方やギターアンプ、ベースアンプなどの楽器のセッティングについて学びます。	
9	ステージマンの役割① ステージでのすばい転換作業やSPチューニング、モニターのセッティングについて学びます。	
10	ステージマンの役割② ステージでのすばい転換作業やSPチューニング、モニターのセッティングについて学びます。	
11	ステージマンの役割③ ステージでのすばい転換作業やSPチューニング、モニターのセッティングについて学びます。	
12	ステージマンの役割④ ステージでのすばい転換作業やSPチューニング、モニターのセッティングについて学びます。	
13	ステージマンの役割⑤ ステージでのすばい転換作業やSPチューニング、モニターのセッティングについて学びます。	
14	前期総括・補修	
15	ステージマンの役割⑦ ステージでのすばい転換作業やSPチューニング、モニターのセッティングについて学びます。	
16	まとめ	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
<p>進行するイベントや番組に対応できるように様々な持込音源形態への対応、仕込み、進行指示も含めたPA技術を学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目></p>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●デジタルコンソールの構造と使用方法の理解 ●機材メンテナンスの理解とチェック方法の理解 ●トラブル時の対処方法 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	デジタルコンソールについて ① デジタルコンソールの構造と使用方法について学びます。
2	デジタルコンソールについて ② デジタルコンソールの構造と使用方法について学びます。
3	デジタルコンソールについて ③ デジタルコンソールの構造と使用方法について学びます。
4	デジタルコンソールについて ④ デジタルコンソールの構造と使用方法について学びます。
5	デジタルコンソールについて ⑤ デジタルコンソールの構造と使用方法について学びます。
6	デジタルコンソールについて ⑥ デジタルコンソールの構造と使用方法について学びます。
7	デジタルコンソールについて ⑦ デジタルコンソールの構造と使用方法について学びます。
8	デジタルコンソールについて ⑧ デジタルコンソールの構造と使用方法について学びます。
9	様々なバンド編成でのセッティングとステージ転換① ライブやイベントなど、様々な状況のステージを想定し、ステージがスムーズに進行できるよう学びます。
10	様々なバンド編成でのセッティングとステージ転換② ライブやイベントなど、様々な状況のステージを想定し、ステージがスムーズに進行できるよう学びます。
11	様々なバンド編成でのセッティングとステージ転換③ ライブやイベントなど、様々な状況のステージを想定し、ステージがスムーズに進行できるよう学びます。
12	様々なバンド編成でのセッティングとステージ転換④ ライブやイベントなど、様々な状況のステージを想定し、ステージがスムーズに進行できるよう学びます。
13	様々なバンド編成でのセッティングとステージ転換⑤ ライブやイベントなど、様々な状況のステージを想定し、ステージがスムーズに進行できるよう学びます。
14	様々なバンド編成でのセッティングとステージ転換⑥ ライブやイベントなど、様々な状況のステージを想定し、ステージがスムーズに進行できるよう学びます。
15	まとめ

授業科目		授業時数
PA工学		62
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音響エンジニア専攻
担当講師(プロフィール)		
富江 昌令 ホール管理と仮設現場双方の経験を持つ。安全第一を主眼に、大規模から小規模まで様々なエンジニアリングに対応できるスキルを教授。		
前期		
到達目標		
中規模設備のセッティング方法、運営ノウハウの習得		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	マイク	・特徴と取扱い ・ホルダーとスタンド ・オプション(Wスクリーンとショックマウント)
2	ピアノについて	・楽器の構造と音響的特徴 ・マイキング ・音作りのコツ
3	スピーカーについて	・特性と使用法 ・トラブルシュート ・メンテナンス法
4	ミキサーについて	・デジタル卓とアナログ卓の差違 ・セッティング時の注意点 ・電源について
5	ホール作業①	仕込み～マルチケーブル配線 ・作業順序と注意点 ・照明仕込みとの兼ね合い
6	ホール作業②	マルチケーブル配線～サイドフィル設置 ・作業順序と注意点 ・ワイヤリング経路の確保
7	ホール作業③	モニター卓設置～アンプ設置～出力回線チェック ・作業順序と注意点 ・電源投入時の注意点 ・チェック段取り
8	ホール作業④	メインSP設置～出力チェック～インプット仕込み ・作業順序と注意点 ・電源投入時の注意点 ・チェック段取り
9	ホール作業⑤	チューニング ・フロントスピーカーのチューニング ・モニタースピーカーのチューニング
10	ホール作業⑥	本番時の動き方 ・トラブルの予見、防止 ・トラブル時の対応
11	ホール作業⑦	撤収 ・撤収順序と機材安全確保
12	ホール作業⑧	安全衛生 ・積込み、積み下ろし時の注意点 ・仕込み、撤収時の注意点
13	スピーカーシステム	PCコントロール ・システム専用PCソフトの使用法 ・トラブルシュート
	復習	総まとめ
15	前期試験	
16	追試験	

授業の方法	
講義 演習・実験・実技・実習	
授業概要	
PA(SRも含む)音響機器に関する応用的な使用の研究をします。電源供給と確保、機器メンテナンス、トラブルシュートなど現場対応的なノウハウを習得します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
様々な仕様、形態の現場への対応力強化	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	関連法令と資格 劇場音響、仮設音響に関わる関連法連 音響技術者が関連する資格試験
2	電気 安全衛生に基づく ・容量と配線 ・接地と測定
3	劇場内連絡設備 ・音声設備 ・映像設備 ・非常設備、その他
4	映像設備 ・表示機器と映像回線 ・操作機器と再生機器 ・撮影機器(カメラ)
5	音響設備① 出力系 ・スピーカー ・電力増幅器 ・パワーアンプ
6	音響設備② 入力系① ・マイク、付属品 ・ワイヤレスマイク
7	音響設備③ 入力系② ・録音再生機器 ・PCによる録音再生
8	音響設備④ コントロール系① ・音響調整卓 ・デジタル機とアナログ機
9	音響設備⑤ コントロール系② ・ケーブル、コネクタ類 ・パッチ盤、コネクタボックス
10	照明設備 ・照明負荷設備 ・調光操作 ・照明機器
11	舞台機構① ・吊物機構 ・床機構 ・音響反響板、ポータル、ラダー
12	舞台機構② ・幕類 ・操作盤、制御盤
13	復習 総まとめ
14	後期試験
15	追試験

シラバス

音楽技術学科

照明スタッフ専攻

授業科目		授業時数
音楽業界概論		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前期		
到達目標		
音楽ジャンルの知識を持つ / 音楽業界の仕組みがわかる 様々な舞台芸術、コンサートと興行について理解する		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 学内生活説明① 施設設備について	学内にあるいろんな専攻が使用する施設・設備の見学を行います。また、技術者として「音楽」の表し方を理解できるように導いていきます。	
2 学内生活説明② 音楽技術学科のカリキュラムについて	技術者としてソフトからハードまで勉強を重ねていくカリキュラムを説明、担当される講師方々も紹介していきます。年間で予定されている行事やイベント等も説明していきます。	
3 学内生活説明③ 他専攻について	音楽業界の一部をシミュレートしたかたちの学校を紹介いたします。「原盤制作」があり音楽の世界は出来上がっている、その内容を支えている意味で技術・演奏・総合・楽器(ダンス)があります。	
4 学内生活説明④ PC類について	デジタル化が急激に進む中、技術系は、とても進歩しています。その入口となるキーボード操作、その意味を理解してください。PCへの意思付けを重要としています。音楽パッケージのかたちも理解しましょう。	
5 音楽ジャンル① ロック・ポップス全般	ここでは、一般的な洋楽ロック・ポップスを取り上げます。やはり流行も大切ですが、歴史上必要な音楽も沢山あります。担任チャオイスの一例を取り上げます。(VTR視聴)	
6 音楽ジャンル② J-POP、歌謡曲	日本で就職することを考えると必要な分野だと感じます。大枠としての内容を理解していきます。(VTR視聴)	
7 音楽ジャンル③ その他の分野	R&B、ブルース、ジャズ、ゴスペル、ソウル、ファンク、ラップ、サンバ、ボサノバ、ラテン、ワールドミュージック等を、その他の分野としました。(VTR視聴)	
8 研修関連についての説明	企業研修についての取扱いや縦横処理のルールについて、また検定やメール・電話検定の実施についての説明を行う。	
9 音楽業界について	第一段階として、基本的なプロダクション、レコード会社、音楽出版社、から成り立つ音楽業界の仕組みを少し学んでみましょう。	
10 舞台芸術①	音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。屋内コンサート、野外コンサート、ライブハウス、イベント催事等	
11 舞台芸術②	音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。宝塚大劇場、オーケストラ等	
12 舞台芸術③	音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。歌舞伎、能舞台、オペラ等	
13 ライブハウス・コンサート等 音楽を主体とする大小の興業について	音楽を生で届ける方法として、ライブが一般的ですが、その方法も変化していきます。ここでは、ワンマン、チケット販売、グッズ、プロダクション、イベンター等も交えて、音響関連企業に発注されるまでの流れを知ってください。	
14 総復習	職業としての音楽技術学科は、ソフトの理解が必要です。ある程度のことを知っていれば、その現場終了後に、再度勉強すれば頑張れます。そのためにも、前期内容のおさらいをしましょう。	
15 前期試験		
16 FOLLOW	自分の不得意な部分を知り、ハッキリさせた上で次の目標を考えたり、自分が進むべき方向感を持って後期に臨みます。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
著作権の基礎知識がわかる / 音の伝達について理解 映像関連と放送業界を知る / 就活対策を行う	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1 楽器について	身近なLM楽器。ギター、ベース、ドラム、キーボード(PIANO)の内容について学びます。イベント中、彼らが袖に来た時にチェックできる内容やプロとアマチュアでは、こちらも出来る内容が変わります。
2 著作権①	まずは、原盤制作に関する著作権について学んでいきます。作詞・作曲、アーティストに対する印税等、まずは、音楽直接の権利です。
3 著作権②	音楽の世界だけでなく、大きな意味での「著作」を学んでいきます。演出・振付・図面・建築・キャラクター等も含めて知っておきたいものです。
4 聴覚と言語	耳の仕組み(外耳～中耳～内耳)とそれぞれの働きを学びます。また日本語と英語の音節数の違い等を理解していきます。
5 一般教養[物理/科学]	世間一般的な内容を中心にテスト問題を解いていきます。成績に反映されるものではなく、あくまで就職試験を想定したものとして活用していきます。
6 一般教養[スポーツ/芸能]	
7 一般教養[歴史/地理]	
8 コンサートPA	PA(パブリックアドレス)、SR(サウンドリフォーメント)という内容や、常設のライブハウス、トラックでの搬入作業を伴うコンサート等、実際の音響関連設備等について学ぶ。
9 レコーディング	一般的なレコーディング作業の流れを解説します。データ、リズム録り、オーバーダブ、ボーカル録り、コーラスetc等、人の出入りやすスケジュール等色々な影響で作業手順も変わります。また、譜面の必要性も問われます。
10 映像関連	イベント会場では、もうお馴染みの映像関連。そのシステムを簡単に学んでみましょう。学校では、学園祭シーズンに配置されます。
11 放送業界①	TV業界について、その仕組みと構造を知識として勉強していきます。この業界では、音声さんと呼ばれます。音響会社と業務提携というかたちで仕事になります。
12 放送業界②	ラジオ業界についての仕組みも理解していきます。音楽が好きであれば、クルーが小さいため、制作とひとつのチームとして仕事ができる職業です。
13 総復習	関連業界の内容も含み、ちょっとした知識が沢山出てきました。就職に役立つ内容として理解してください。
14 後期試験	
15 FOLLOW	ある程度の研修をこなせる実力は、あるようになってきます。後は、現場は「人」ありきのものなので、コミュニケーション力をUPさせる努力をしていきましょう。

授業科目		授業時数
音楽技術論		62

学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	照明スタッフ専攻

担当講師(プロフィール)	
川原 正弘 数々の舞台、イベント現場で照明を担当、新旧の機材に精通しており、特に初心者への教育には定評がある。自らの会社でも後進の育成に励んでいる。	

前期	
到達目標	
知識として必要な舞台用語、歴史、照明用語や、直流電流など、舞台及び、照明用語の習得。	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画	
授業項目	実施内容
1	オリエンテーション 授業の導入として、学校へ入学するきっかけなどを聴いていきます。また、照明業務に必要な単位についてや舞台についての基本的な内容についても解説を行います。
2	CATホール 実際の授業を行うホールについての説明を行うとともに舞台、幕類の名称や舞台機構の名称の解説を行います。
3	照明設備の名称編 1. サスペンションライト、2. ボーダーライト等照明設備の基本的な部分の名称について解説
4	照明器機編 フラッドライト・スポットライト等の照明機材についての名称を解説する
5	カラーフィルター編 ポリカラーフィルターの色番号。色温度変換フィルター・拡散フィルター・その他のフィルターについて解説
6	照明器具の重さについて 照明で使用する機材の重量を予測し記入する。また、実際に機材の重量を測定し覚える
7	シューティングについて 地明かり・斜め明かり・フロントサイド・シーリングサイドスポットの明かりの当て方を解説。また、さまざまな当て方がある事も学ぶ
8	単位について SI基本単位・SI組立単位・接頭語について学ぶ。また、電気についての考え方、東日本・西日本での周波数の違いについても解説する
9	直流電源 電池の仕組みを説明しながら直流電源の仕組みについて学びます。また、さまざまな電池の種類を説明し、直列接続・並列接続について解説します
10	安全な電機の取り扱い 感電および短絡(ショート)について説明。スライダックを使用して指での感電を体験する。また、実際にショートも体験する
11	電気の抵抗 電気を扱う上でもっとも基礎となるオームの法則について学習し、練習問題をいくつか解いていきます。
12	小テスト 電気の作用について これまでに学んだ内容の復習の為の小テストを行います。また、電気の作用についての解説を行います。
13	小テスト答え合わせ 電気の作用について 前回の小テストの答え合わせ解説を行います。
14	テスト範囲説明 前期の試験範囲の説明を行い、またこれまでの復習や補足をを行います。
15	前期試験
16	答え合わせ 前期試験の返却を行い、それについての答え合わせ、解説を行います。

授業の方法	
講義 演習・実験・実技・実習	

授業概要	
照明の仕事としての舞台用語や歴史、ホールの種類や構造、照明器具類や電気の知識、現場などでの仮設電源に関する知識を学びます。<実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:舞台テレビジョン照明 基礎編	

後期	
到達目標	
知識として必要な直流電流、交流電流などの電気的な知識の習得と舞台照明への応用。	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画	
授業項目	実施内容
1	電力について 電力・電力量の計算について解説します。同時に練習問題を通して学習していきます。また、電気の3作用(磁気、発熱、化学)についても説明します
2	負荷の接続 直列接続を復習しながら抵抗(負荷)についても学び、それについての練習問題を行います。
3	負荷の接続 並列接続を復習しながら抵抗(負荷)についても学び、それについての練習問題を行います。
4	小テスト これまでの内容について、復習を行い、それについての小テストを行います。
5	小テスト答え合わせ 前回の小テストの答え合わせを行い、それについての解説、補足を行います。
6	コネクター・プラグの許容電流、許容電圧 さまざまな種類のコネクター・プラグの許容電流、許容電圧について説明します。また、電線の許容電流、ケーブルの許容電流についても学習します。また電圧降下についても解説します。
7	交流 交流電流についての説明。また、ここでは交流が使用される利点についても解説します
8	交流における電圧・電流・抵抗の関係 抵抗・コイル・コンデンサーに交流電圧を加えた時に流れる電流について学びます
9	配電方式① 単相交流・三相交流を元に交流電源の配電方式について図を使って説明します。交流電源の中でもっともシンプルな単相二線式と単相三線式の配電方式について学びます。
10	配電方式② 交流電源の中でもっともシンプルな単相二線式と単相三線式の配電方式について学びます。交流電源の中でもっとも効率の良い三相三線式・三相四線式の配電方式について学びます。
11	仮設電源 常設の調光ユニットが足りない場合や、常設ユニットがない野外イベントなどの説明を入れながら、仮設電源について設置・撤収の段取り等を学びます
12	仮設電源 常設の調光ユニットが足りない場合や、常設ユニットがない野外イベントなどの説明を入れながら、仮設電源について設置・撤収の段取り等を学びます
13	試験範囲説明 これまでに学んだ内容を復習し、後期試験の範囲の解説を行います。
14	後期試験
15	答え合わせ 後期試験の返却を行い、内容についての解説、補足などを行っていきます。

授業科目		授業時数
技術演習		124
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
川原 正弘 数々の舞台、イベント現場で照明を担当、新旧の機材に精通しており、特に初心者への教育には定評がある。自らの会社でも後進の育成に励んでいる。		
前期		
到達目標		
企業研修見極め試験に向けて照明の基礎となる部分を反復して行い、企業研修見極め試験合格を目指します。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	オリエンテーション	作業での安全基準の説明をし舞台機構や名称、器具の取扱い方を解説する
2	吊り込みの基礎	サスペンションライトでの吊り込み方法と回路取りについて解説し実際に作業を行う。回路取りをする際には延長ケーブルを使用し、使用上の注意事項を含め作業に取りかかる
3	吊り込みの基礎	サスペンションライトでの吊り込み方法と回路取りについて解説し実際に作業を行う。回路取りをする際には二又ケーブルを使用し、使用上の注意事項を含め作業に取りかかる
4	吊り込みの基礎	サスペンションライトでの吊り込み方法と回路取りについて解説し実際に作業を行う。回路取りをする際には二又ケーブルを使用し、使用上の注意事項を含め作業に取りかかる
5	吊り込みの基礎	サスペンションライトでの吊り込み方法と回路取りについて解説し実際に作業を行う。回路取りをする際には二又ケーブルを使用し、使用上の注意事項を含め作業に取りかかる
6	CLのシュート	シーリングスポットライトの役割とシュート方法を解説し実際に作業を行う。シュート方法を理解し確実に作業を行えるようになることを目標とする
7	FRのシュート	フロントサイドスポットの役割とシュート方法を解説し実際に作業を行う。シュート方法を理解し確実に作業を行えるようになることを目標とする
8	ピンスポットライトの基礎	1Kwクセピンスポットライトの構造と操作方法を説明する。狙いの取り方、カットイン、カットアウトやフェードイン、フェードアウト等の違いを説明し確実に操作を行える事を目標とする
9	模擬試験	企業研修見極め試験対策として実際の試験と同様の形式で模擬試験を行い作業の確実性とスピードアップを図る
10	企業研修見極め試験	企業研修見極め試験の実施
11	企業研修見極め試験	企業研修見極め試験の実施
12	企業研修見極め試験	企業研修見極め試験の実施
13	企業研修見極め試験(予備)	企業研修見極め試験の実施
14	吊り置き混合の仕込み	7月までの復習を兼ね吊り、置きの一時的な仕込みを行う。吊り、置き仕込みを同時に行うことによって発生する問題点を上げ円滑に仕込みが行えるようになることを目標とする
15	吊り置き混合の仕込み	吊り、置きの一時的な仕込みをするにあたっての各個人の動きを明確にしチームワーク作業での確実性とスピードアップを目標とする
16	前期のまとめ	前期の復習と苦手分野を中心に行い、それを克服する事を目標とする

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
プランナー、チーフ、オペレーターとして必要となってくる知識や技術を習得するための授業です。実践的な仕込み、手書き図面の書き方、曲構成表の作り方、楽譜の読み方や理論などを学習します。 〈実務経験のある教員等による授業科目〉	
使用教材:革手袋・工具一式	
後期	
到達目標	
実際に行われる学内イベントでの設営を仕込み図を使って行い、現場での作業の流れを身に付けます。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
2	ピンスポットライトの練習 カットイン、カットアウトやフェードイン、フェードアウト等の操作を確実にこなせる事を目標とする
3	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
4	ピンスポットライトの練習 カットイン、カットアウトやフェードイン、フェードアウト等の操作を確実にこなせる事を目標とする
5	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
6	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
7	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
8	ピンスポットライトの練習 カットイン、カットアウトやフェードイン、フェードアウト等の操作を確実にこなせる事を目標とする
9	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
10	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
11	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
12	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
13	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、さまざまなプランの設営方法を行う。
14	カウンターウエイト方式の吊り物 カウンターウエイト方式の吊り物機構の上げ方、下げ方、バランスの取り方などを練習する
15	1年間のまとめ 1年間で学習したことの復習をする。特に調光卓の操作方法とカウンターウエイト方式の吊り物について重点的に復習する

授業科目		授業時数
一般教養		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
山田 敏子 「現代マナーズ研究会」代表。ビジネスマナー研修を軸に関西を中心企業・団体・大学等で人材育成に携わる。		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●基本マナーやコミュニケーションの重要性を理解する ●挨拶、美しいお辞儀、きちんとした自己紹介ができる 		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	授業概要の説明・動機付け この授業の趣旨、目的を理解し、学生生活と職場の違いや仕事の取り組み方について説明し、この1年で達成したい目標を設定する。	
2	自己紹介の仕方 職場での挨拶、公の場での自己紹介の仕方を学び、基本形に則した手法で実技を取り入れながら学習する。	
3	挨拶・お辞儀の重要性 基本の立ち姿・立礼三種を接遇用語を活用し実技を取り入れながら身に付ける。	
4	話し方・あがり対処法 あがらずに人前で自分の考えを述べることができるような様々な手法を取り入れながら実技を行う。	
5	3分間スピーチ 人前でスピーチの基本形を知り、テーマを設定したスピーチを交えながら問題点、注意点を話し合ひ学ぶ。	
6	企業の求める人間像 これから始まる就職活動や企業研修に向けて、求められる人材を集団面接や新入社員教育でも用いられるグループディスカッション形式で意見を出し合ひ学ぶ。	
7	電話でのポイントの取り方 就職活動や企業研修等で企業に電話をかける際の手順や失礼にならない話し方を学ぶ。	
8	名刺交換 名刺の渡し方や受け方、名刺を切らしている時などの対処法の仕方等、実践を取り入れながら学習する。	
9	敬語の基本1 ビジネスにふさわしい言葉や尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い分けを学び、実践できるよう理解する。	
10	敬語の基本2 二重敬語などの誤った使い方や、ビジネス上での人の呼び方を学び実際に場面を設定して実践する。	
11	敬語の応用 お客様に対する接遇用語や使い方を学び、実際に場面を設定して実践し、注意点、問題点を話し合ひ深める。	
12	ビジネスでの贈答の心得 慶事や弔事のマナーを知り、将来仕事でも発生する場合に備え相当の種類や送る期間、慰斗や金封紙、それぞれの使い分けを学ぶ。	
13	電話対応 電話対応で会社のレベルも判断されるということから正しい電話の受け方やかけ方、取次ぎ方などを説明し実践を取り入れながら学習する。	
14	電話応対応用 不在時に行き届いた臨機応変なメッセージの作成、また苦情電話を上手に受け、固定客につなげる手法を実技を取り入れながら学習する。	
15	前期試験実施日	
16	社外文書の書き方 メール・封書・はがき等での企業への資料請求を通して、時候の挨拶、頭語結語、敬称の使い方などビジネス文書の基本構成を学ぶ。	

授業の方法	
講義・ 演習 ・実験・実技・実習	
授業概要	
仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●エントリースーツや履歴書でアピールできる ●社外文書の形式で添え状や御礼状が書ける ●面接の場での立ち振る舞いや受け答えができる 	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	お礼状・挨拶状の書き方 迅速にお礼状を出す習慣をつけるとともに、文字の大きさやバランスを考えた封書・はがきの表書きを学ぶ。
2	履歴書 就職活動時に必要となる履歴書の書き方を、見た目の印象を大切にしながら良い例と悪い例を知った上で作成する。
3	履歴書 履歴書の書き方、特に志望動機・自己アピールの仕方にポイントを絞って作成する。
4	履歴書 清書を仕上げ提出する。また、それに伴う封筒の書き方、封緘の仕方を学ぶ。
5	面接のマナー 面接室での立ち振る舞いや言葉遣い、座席の順位などを学び、就職活動時の面接に備える。
6	模擬面接 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を話し合ひ深める。
7	模擬面接 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を話し合ひ深める。
8	自己診断チェック 人物本位と言われる面接で自分自身について聞かれる質問を想定し、いかにポイントをおさえてアピールするかを学ぶ。
9	企業診断・学生診断チェック 会社に関してどういった項目を調べ準備すれば良いか、また学生生活について聞かれるであろう内容について準備する。
10	一般教養チェック・身だしなみ他 当日の注意 一般教養に関して聞かれる内容の準備、第一印象の重要性、当日の持ち物や控室などでの注意事項を学ぶ。
11	是非知っておきたいテーブルマナー ビジネスで人と会食を共にすることは人間関係を築く上でも重要である。周囲を不快にさせない会食のマナーを身に付ける。
12	立食パーティーのマナー 会社の各種行事では立食パーティーが主流である。歓談を目的とし、マナーをわきまえた振る舞いを身に付けるよう実技を交えて学ぶ。
13	後期試験実施日
14	後期試験返却と解説 信頼される仕事の受け方、口頭・文書による報告の仕方やタインニングの受け方・報告の仕方
15	学生と社会人の違い 仕事に必要なとされる8つの意識を学び、社会人としての心構えを醸成。即戦力として役立つ人材になることを目指す。

授業科目		授業時数
パソコン演習		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
佐久本優子 他 パーソナルコンピューター、ビジネスソフトの指導員として経験豊富。論理的思考を学生に植え付けるのが非常に上手い		
前期		
到達目標		
●Word・Excel・PowerPointの基本操作を習得する		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト(その他)		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	Wordの基本操作、文字入力 起動～画面構成～保存～終了までの基本操作と、IME/パッドの使い方を練習/フォルダ操作について学ぶ	
2	W:文書作成① (ページ設定・オートフォーマット・範囲選択・編集・装飾)表のないビジネス文書の作成	
3	W:表作成とイラストの利用 表(挿入・レイアウト変更・線種変更・塗りつぶし)とイラスト(ワードアート・クリップアート)を入れたビジネス文書の作成	
4	W:図形描画/課題作成 (図形・テキストボックス・SmartArtの挿入と書式設定)図形描画の機能を使用した文書作成/W:課題作成	
5	Excelの基本操作と数式・簡単な関数の挿入 簡単な関数(SUM AVERAGE MAX MIN)の入った表を作成	
6	E:関数の活用①(絶対参照 IF RANK ROUND 等) 関数を利用した表を作成	
7	E:グラフの作成と表の書式設定 縦棒や円グラフの挿入～構成要素～書式設定と表の書式設定(表示形式・列と行の操作・セルの挿入や削除)を学ぶ	
8	E:印刷機能とシートの操作 ページレイアウト～ページ設定～ヘッダーとフッター機能の学習と、シート名変更～3D集計を学ぶ/課題発表	
9	E:課題作成 これまで学習した機能を使った課題を仕上げる	
10	E:条件付き書式・データの入力規則 条件値を指定して書式を設定する・カラースケールなどの新機能を学習する・データの入力規則を学習する	
11	Power Pointの基本操作 プレースホルダーへの入力・スライドの追加・箇条書き・デザイン・アニメーション・画面切替効果について学ぶ	
12	P:画像の書式設定・印刷設定/課題作成 取り込んだ写真等に書式を設定するノット機能・配布資料としての印刷方法を学ぶ/課題作成	
13	P:課題作成 課題を作成する	
14	W:基礎編の復習 前期で学習した内容を元に、作品を完成させる	
15	E:基礎編の復習 前期で学習した内容を元に、作品を完成させる	
16	P:プレゼン スライドショーの機能を学習し、各自リハーサル機能を利用して、作成済の課題を発表する	

授業の方法	
講義・(演習)・実験・実技・実習	
授業概要	
パソコン起動から操作方法、タイピング、基本的な使用方法を理解していきます。社会人として必要なスキル(Word, Excel, Power Point)を学習します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
●Officeソフトの機能を使いこなす ●考えて資料を作成することができるようになる	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト(その他)	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	フォルダ操作 フォルダ操作と他のソフト(ペイント)との連携 その他スクリーンショット機能
2	W:見栄えの良い文書の編集 (段組み・改ページ・タブとリーダー・インデント・ページ罫線・ページ番号・置換)
3	W:図形描画の応用・Excelデータの利用 複数の図形を組み合わせて文書を作成する
4	W:課題作成1 複数ページにわたる文書の作成
5	W:グリーティングカードの作成 年賀状、クリスマスカード、誕生日カード、バレンタイン、暑中見舞い、様々なレイアウトを考える
6	P:アニメーションを組み合わせる・プレゼンとは 開始・強調・終了・軌跡を組み合わせた効果的なプレゼンの仕方を学習する/企画を考える
7	P:企画書作成 今まで習得したことを応用し、各自でテーマを決め企画書を作成する
8	P:企画書作成 今まで習得したことを応用し、各自でテーマを決め企画書を作成する
9	P:リハーサル・発表 リハーサルを入念に行う プレゼンを行う・他人の作品の評価をする
10	P:発表 プレゼンを行う・他人の作品の評価をする 総復習
11	E:復習 前期で学習した内容を元に、表を完成させる
12	E:表の活用 (表示形式・入力規則・シートの保護)入力を補助する機能や、見栄えの良い資料の作成方法を学ぶ
13	E:課題作成 これまで学習した機能を利用して、課題を作成
14	後期テスト
15	後期テスト振り返り

授業科目		授業時数
音響ゼミ		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前期		
到達目標		
実際の現場ではじめに必要とされる基本的な作業を確実に身に付ける。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	PAについて PAの役割、照明との関係、安全管理や今後授業を行っていく上での注意事項の説明を行っていきます	
2	ケーブル巻き① 音響の基本であるマイクケーブル等の巻き方(8の字巻き)についてレクチャーを行い繰り返し練習を行っていく。	
3	ケーブル巻き② 前回と同様マイクケーブル等を早く、美しく巻けるよう時間を計測して反復練習を行っていく。	
4	マイクスタンド マイクスタンドの仕組みの理解を理解し、立て方のレクチャーを行い繰り返し練習を行っていく。	
5	スタンド式スピーカー、パワーアンプ スピーカースタンド立て方やパワーアンプのセッティングと使用方法を学び、練習を行っていく	
6	マルチケーブル マルチケーブルの巻き方を解説し練習していく。また、ジャンクションボックスの役割、仕組みを理解していく。	
7	スタンド式スピーカーの仕組み スピーカースタンドを確実に早く組み立てられるように時間を計測しての反復練習をする	
8	マイク① 様々なマイクの種類や特徴を解説し、実際に音を確かめて違いを理解していく。	
9	マイク② 楽器によってのマイクのセッティング方法や使用方法を学び、実際にそれらのセッティング等を行っていく。	
10	ミキサー① ミキサーの種類や使用方法を解説し、実際にセッティングを行い音の出し方、注意点などを学んでいく。	
11	ミキサー② ミキサーの種類や使用方法を解説し、実際にセッティングを行い音の出し方、注意点などを学んでいく。	
12	システム構築① 小規模のPAシステムのセッティングを行い、実際に音を鳴らすところまで行う。その際の注意点などを合わせて解説していく。	
13	システム構築② 小規模のPAシステムのセッティングを行い、実際に音を鳴らすところまで行う。その際の注意点などを合わせて解説していく。	
14	システム構築③ ドラムセットやギターアンプ等のセッティング方法や取扱い、またマイキングなどを行い、気を付けるべき点などを学んでいく。	
15	まとめ 前期で行ったことを復習しながら、PAシステムのセッティングを行っていく。またその際に補足も合わせて行う。	
16	前期試験	

授業の方法	
講義	演習 実験・実技・実習
授業概要	
音響と照明は実際の現場では同時に作業を行うことが多いため、お互いの作業を把握するために必要とされる知識を実習を通じて学び、音響工学や著作権についても理解していく内容になります。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:革手袋・工具一式	
後期	
到達目標	
実際の現場ではじめに必要とされる基本的な作業を確実に身に付ける。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	音響学① 音響の基礎として、音の三要素について概要について解説を行っていく。
2	音響学② 音の速さについての解説を行い、近年の大型野外フェスやコンサートに置いての遅延の対策についても紹介していく。
3	音響学③ 音を与える様々な心理効果について、実例を交えながら、解説を行っていく。
4	専門用語① 音響エンジニアが使う舞台用語について、その言葉の意味を解説し、また実例を交えて、解説を行っていく。
5	専門用語② 音響エンジニアが使う舞台用語について、その言葉の意味を解説し、また実例を交えて、解説を行っていく。
6	専門用語③ 音響エンジニアが使う舞台用語について、その言葉の意味を解説し、また実例を交えて、解説を行っていく。
7	デシベル 音の強さを表す単位デシベルについて、騒音レベルを参考にして解説を行っていく。
8	音楽概論① 今日までに行われている舞台芸術の種類をその成り立ちを、含めて解説していく。
9	音楽概論② 洋楽についての様々な音楽ジャンル、またその歴史を代表的なアーティストとともに解説していく。
10	音楽概論③ 邦楽についての様々な音楽ジャンル、またその歴史を代表的なアーティストとともに解説していく。
11	著作権① 音楽業界の仕組みを理解し、その中で代表的な音楽著作権管理団体『JASRAC』について、その機能を解説していく。
12	著作権② 人格権と財産権について、法令の概要を学び、実例をもとに理解を深めていく
13	著作権③ 肖像権と私的利用について、法令の概要を学び、実例をもとに理解を深めていく
14	まとめ 後期に行った、音響、音楽、著作権についての復習を行い、それについての補足も行う。
15	後期試験

授業科目		授業時数
舞台製作		62

学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	照明スタッフ専攻

担当講師(プロフィール)	
川原 正弘 数々の舞台、イベント現場で照明を担当、新旧の機材に精通しており、特に初心者への教育には定評がある。自らの会社でも後進の育成に励んでいる。	

前期	
到達目標	
舞台専門用語、尺貫法を学び、照明スタッフに必要な知識を得、舞台セットを設営する事によって照明と舞台との関わりについて学習する。	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		実施内容
1	オリエンテーション	1年間の授業の目的と内容を説明。大道具作業に必要な工具の種類と役割について説明
2	尺貫法について	現在、日本の舞台関係で大きさを表す単位として使用されている尺貫法を解説し目安となる大きさを体の一部分を使って測れるように練習する
3	舞台セット(平台の組み方)	箱馬と平台を使用しての基本的な組み方を解説する。6×6、9×9、1尺高、1尺半、2尺高の組み合わせ方を学ぶ
4	舞台セット(平台の組み方)	箱馬と平台を使用して実際に平台を組み上げる。ガイの打つ位置や打ち方、バラシ方を学ぶ
5	舞台セット(平台の組み方)	箱馬と平台を使用して組み上げた平台を蹴込む。蹴込みの種類や蹴込の役割、蹴込み方などを実践する
6	イントレの立て方	各部品の名称の解説と立て方を解説する。1基1段、2基2段など基本的な組み方を実践する
7	イントレの立て方	先週に引き続きイントレの様々な組み方を実践する。また、イントレへの昇り降りも注意事項を交えながら行う
8	トラスの立て方	トラスにベースを付けて立てる方法を学ぶ。ここではラチェット、マイナスタライバーの使用方法を正しく学ぶ
9	トラスの結合	トラスを固定ジョイント、自在ジョイントを使用してもう少し複雑な形を組む。ここではラチェットの使用方法を正しく学ぶ
10	イントレの立て方	イントレにタンカンやトラスをつける仕組み方を解説し、実践する
11	イントレの立て方	先週に引き続きイントレにタンカンやトラスをつける仕組みを行う。また、イントレなどへの機材の仕組み方も学ぶ
12	トラスの立て方	ベースやタンカンなどを使用したトラスの立て方を学ぶ
13	トラスの結合	トラスを固定ジョイント、自在ジョイントを使用して様々な形を組む
14	トラスの立て方	ベースやタンカンなどを使用したトラスの立て方を学ぶ
15	トラスの結合	トラスを固定ジョイント、自在ジョイントを使用して様々な形を組む
16	前期のまとめ	前期の復習としてそれぞれの組み立てを行い、それについての解説、補足を行う。

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	

授業概要	
平台や箱馬を使用した台の組み方、イントレやトラスの設営方法など大道具に関連する内容を学びます。組んだセットに機材を仕込んだり、照明の当て方などを研究します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	

使用教材:革手袋,工具一式	
---------------	--

後期	
到達目標	
舞台セットを使用した照明演出の関わり方、ライブ照明以外の照明演出方法について学ぶ。	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		実施内容
1	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
2	トラスのイメージ図面作成	クラスのメンバーで次週に向けて作成するトラスセットのイメージ図面を書き込む(空図面に手書きで)
3	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
4	トラスセットの作成	前回作成した図面を基にトラスセットを作成する。ここでは怪我なく作業する事を第一とし、イメージ通りに作成できるかを学ぶ
5	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
6	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
7	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
8	物の結束・固定	舞台でよく使用されるバンド線とビニールテープの正しい使用方法を学ぶ
9	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
10	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
11	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
12	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
13	ステージの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、週末に行われるイベント用図面を使用して、平台やトラスなどを使用したステージの設営方法を行う。
14	火を表現してみる	本火を使用しないで火を表現する舞台セットの製作を行う。同時に照明を用いてより本物の火を連想させるかを学ぶ
15	後期のまとめ	年間で行った内容について復習を行う。また、それらについての解説、補足説明などを行っていく。

授業科目		授業時数
メンテナンス		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
川原 正弘 数々の舞台、イベント現場で照明を担当、新旧の機材に精通しており、特に初心者への教育には定評がある。自らの会社でも後進の育成に励んでいる。		

前期
到達目標
ニッパーやペンチなど工具の基本的な取り扱いを習得し、平打ちケーブル・キャプタイヤケーブルの製作、メンテナンスが出来るようになる。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価・小テスト・その他)

授業計画		実施内容
1	ガイダンス	実習で使用していくニッパーや半田ごてなど工具の名称や取り扱い方法を説明
2	線加工①	平打ちケーブルを使いケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習する ※今回はニッパーを使ってのケーブル剥きを学ぶ
3	線加工②	平打ちケーブルを使いケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習する ※今回はカッターを使ってのケーブル剥きを学ぶ
4	ケーブル製作①	平打ちケーブルを使い、ケーブル剥きからミニコネクタの取り付けまでを行い、延長ケーブルを製作し照明ケーブルの構造を理解する
5	ケーブル製作②	平打ちケーブルを使い、ケーブル剥きからミニコネクタの取り付けまでを行い、延長ケーブルを製作し照明ケーブルの構造を理解する
6	ケーブル製作③	平打ちケーブルを使い、ケーブル剥きからミニコネクタの取り付けまでを行い、延長ケーブルを製作し照明ケーブルの構造を理解する
7	測定練習	テスターを使用して、完成したケーブルにトラブルがないか回路測定していく
8	線加工①	キャプタイヤケーブルを使い、ケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習する
9	線加工②	キャプタイヤケーブルを使い、ケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習する
10	ケーブル製作①	キャプタイヤケーブルを使い、ケーブル剥きからミニコネクタの取り付けまでを行い、延長ケーブルを製作し照明ケーブルの構造を理解する
11	ケーブル製作②	キャプタイヤケーブルを使い、ケーブル剥きからミニコネクタの取り付けまでを行い、延長ケーブルを製作し照明ケーブルの構造を理解する
12	ケーブル製作③	キャプタイヤケーブルを使い、ケーブル剥きからミニコネクタの取り付けまでを行い、延長ケーブルを製作し照明ケーブルの構造を理解する
13	測定練習	テスターを使用して、完成したケーブルにトラブルがないか回路測定していく
14	試験提出	前期のまとめとして試験提出用にキャプタイヤケーブルの延長ケーブルを製作し提出する。また、注意点などを確認し後期につなげる
15	復習	提出したケーブルの注意点などに気をつけ完璧なケーブルを目標に製作する
16	前期のまとめ	前期で学んだことを復習しながら、後期に製作していくものについての導入を行う

授業の方法
講義・演習・実験・実技(実習)
授業概要
現場や就職先でメンテナンスができるようになることを目的として実施しています。工具の扱い方の学習、延長ケーブル、信号線の作成を行います。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞
使用教材:工具一式

後期
到達目標
ごての取り扱い方法を習得し、3P信号ケーブル・5P信号ケーブルの制作、メンテナンスが出来るようになる

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価・小テスト・その他)

授業計画		実施内容
1	ガイダンス	信号ケーブルを製作するにあたって半田ごての取り扱い方法や、ケーブルの構造について説明する
2	線加工①	信号ケーブルを使いケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習しケーブル加工の基本を学んでいく
3	線加工②	信号ケーブルを使いケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習しケーブル加工の基本を学んでいく
4	線加工③	線剥きされた信号ケーブルを使いケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習しケーブル加工の基本を学んでいく
5	線加工④	線剥きされた信号ケーブルを使いケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習しケーブル加工の基本を学んでいく
6	3P信号ケーブルの製作	信号ケーブルを使って①～④の工程を行い、3P信号ケーブルを製作する
7	測定練習	テスターを使用して、完成したケーブルにトラブルがないか回路測定していく
8	線加工①	信号ケーブルを使いケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習しケーブル加工の基本を学んでいく
9	線加工②	信号ケーブルを使いケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習しケーブル加工の基本を学んでいく
10	線加工③	線剥きされた信号ケーブルで5Pキャノンを使い、半田付けを繰り返し練習し、半田付け作業の基本を学んでいく
11	線加工④	線剥きされた信号ケーブルを使いケーブルの構造を理解すると共に、線剥きを繰り返し練習しケーブル加工の基本を学んでいく
12	5P信号ケーブルの製作	信号ケーブルを使って①～④の工程を行い、5P信号ケーブルを製作する
13	測定練習	テスターを使用して、完成したケーブルにトラブルがないか回路測定していく
14	試験提出	後期のまとめとして試験提出用に3P、5P信号ケーブルを製作し提出する。また、注意点などを確認し製作のクオリティを上げる
15	後期のまとめ	後期で学んだ事を復習しながら、2年次には授業中のトラブルにも対処できるようにする

授業科目		授業時数
照明実習		248
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
川原 正弘 数々の舞台、イベント現場で照明を担当、新旧の機材に精通しており、特に初心者への教育には定評がある。自らの会社でも後進の育成に励んでいる。		
前期		
到達目標		
照明スタッフに必要な基礎技術を学ぶと共に、吊り仕込みの基礎、置き仕込みの基礎、CL・FRのシュート、ピンスポットライトの基礎と企業研修検定に必要な項目を習得します。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	オリエンテーション 作業での安全基準の説明をし舞台機構や名称、器具の取り扱い方法を解説する	
2	吊り仕込みの基礎 SUSでの吊り込み方と回路取りについて解説し実際に作業を行う。回路取りをする際には二又ケーブルを使用し、使用上の注意事項を含め作業に取りかかる	
3	吊り仕込みの基礎 先週の続きでSUSでの吊り込み方と回路取りについて解説し実際に作業を行う。回路取りをする際には延長ケーブルを使用し、使用上の注意事項を含め作業に取りかかる	
4	置き仕込みの基礎 置物関係を中心に行いスタンド、ハイスランド、オベタ等の取扱い方法を説明し実際に作業を行う。置物を仕込む事にあたってのケーブルのはわせ方を説明し作業を行う	
5	置き仕込みの基礎 先週の続きで置物関係を中心に行いスタンド、ハイスランド、オベタ等の取扱い方法を説明し実際に作業を行う。置物を仕込む事にあたってのケーブルのはわせ方を説明し作業を行う	
6	CLのシュート シーリングスポットライトの役割とシュート方法を解説し実際に作業を行う。シュート方法を理解し確実に作業を行えるようになることを目標とする	
7	FRのシュート フロントサイドスポットの役割とシュート方法を解説し実際に作業を行う。シュート方法を理解し確実に作業を行えるようになることを目標とする	
8	ピンスポットライトの基礎 1Kwクセノンピンスポットライトの構造と操作方法を説明する。狙いの取り方、カットイン、カットアウトやフェードイン、フェードアウト等の違いを説明し確実に操作を行える事を目標とする	
9	ピンスポットライトの基礎 1Kwクセノンピンスポットライトの構造と操作方法を説明する。狙いの取り方、カットイン、カットアウトやフェードイン、フェードアウト等の違いを説明し確実に操作を行える事を目標とする	
10	模擬試験 先週の続きで企業研修極め試験対策として実際の試験と同様の形式で模擬試験を行い作業の確実性とスピードアップを図る	
11	企業研修見極め試験 企業研修見極め試験の実施	
12	企業研修見極め試験 企業研修見極め試験の実施	
13	企業研修見極め試験(予備) 企業研修見極め試験の実施	
14	吊り置き仕込み 7月までの復習を兼ね、吊り・置きのトータル的な仕込みを行う。吊り・置き仕込みを同時に行うことにより発生する問題点を挙げ円滑に仕込みが行えるようになることを目標とする	
15	吊り置き仕込み 吊り、置きのトータル的な仕込みをするにあたっての各個人の動きを明確にしチームワーク作業での確実性とスピードアップを目標とする	
16	前期のまとめ 前期の復習と苦手分野を中心に行い、それを克服し後期からの授業が円滑に進められるようにする	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
機材の解説や舞台機構の説明など基礎的な部分から始まり、反復練習を行いながら2年間で照明スタッフとして必要な技術を身につけます。2年次は首響と合同でイベントをイメージした授業展開を実施します。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:革手袋,工具一式	
後期	
到達目標	
トータル的な仕込みを学習します。また、調光操作卓の操作方法からカウンターウエイト方式の吊り方、仮設ユニットの仕込みを学習します。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	水平幕の使用 タワーの使用方法を学び、タワーを使用して水平幕の使用方法を学ぶ
2	水平幕の使用 タワーの使用方法を学び、タワーを使用して水平幕の使用方法を学ぶ
3	水平幕・アップパー・ローアームの使用 前回同様に水平幕を仕込み、それに付随してアップパー・ローアームの使用法を学ぶ。また、UH・LHの卓への入れ込み、明かり作りまで行う
4	水平幕・アップパー・ローアームの使用 前回同様に水平幕を仕込み、それに付随してアップパー・ローアームの使用法を学ぶ。また、UH・LHの卓への入れ込み、明かり作りまで行う
5	水平幕・アップパー・ローアームの使用 前回同様に水平幕を仕込み、マシンの使用してネタを移す方法を学び、効果を検証する
6	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。照明実習1Aで学んだ事を活用し、決められた時間内での仕込みを行う
7	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。照明実習1Aで学んだ事を活用し、決められた時間内での仕込みを行う
8	水平幕の使用 星球の仕組み、仕込み方、効果などを学ぶ
9	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。照明実習1Aで学んだ事を活用し、決められた時間内での仕込みを行う
10	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。照明実習1Aで学んだ事を活用し、決められた時間内での仕込みを行う
11	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。照明実習1Aで学んだ事を活用し、決められた時間内での仕込みを行う
12	カウンターウエイト方式の吊り物 カウンターウエイト方式の吊り物機構の上げ方、下げ方、バランスの取り方などを練習する
13	トータル的な仕込み(実践) 講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。照明実習1Aで学んだ事を活用し、決められた時間内での仕込みを行う
14	仮設ユニット、ムービングの仕込み方 仮設電源ユニットの組み方、電源の取り方、電圧の測り方とムービングライトの仕込み方を学び、練習する
15	1年間のまとめ 1年間で学習したことの復習をする。特に調光卓の操作方法とカウンターウエイト方式の吊り物について重点的に復習する

授業科目		授業時数
音楽業界概論		62
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前期		
到達目標		
CD制作の仕組みを理解 音楽業界の各分野の会社組織を知る		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 年間スケジュール	2年生の年間スケジュールの説明、就職対策講座や会社説明会等の仕組みとその内容を改めて解説します。	
2 検定試験	再度、検定試験等の受験を説明、2年間で色んなものを勉強して検定取得を目指します。	
3 面談[就職活動相談]	個々に時間を取って、方向性・活動状況・家族の同意・自分自身が迷う事等をリサーチしていきます。	
4 面談[就職活動相談]		
5 面談[就職活動相談]		
6 CD制作の仕組み①	CD制作工程を、レコーディング(原盤制作)も入れて理解していきます。企画、楽曲A&R、アレンジ企画、ミュージシャンPU、スタジオ、エンジニア、ジャケット撮影、リリース等、商品を作るために沢山の人が動きます。	
7 CD制作の仕組み②	プレスされたCDが、どのようなかたちで流通するのか? また、売上げはどういう方法で加算されるのか等、制作～流通、消費者に届くまでを勉強します。	
8 検定試験対策①	模擬試験等を用意して実際に実施をします。採点は、学生自身もしくは隣同士で採点を行い、弱い部分等をPUSHしていきます。	
9 検定試験対策②	別問題の模擬試験を用意して実際に実施をします。採点は、学生自身もしくは隣同士で採点を行い、弱い部分等をPUSHしていきます。	
10 プロダクションにやイベント制作について	実際の現場では、まずイベント・コンサート(レコーディング)等の企画を起こして「実施を企てる」ところからスタートします。皆さんの現場は、その後発注されるものでもあります。	
11 舞台制作会社について	イベントホールやコンサートホールの管理についての仕組みを学びます。また、野外特設等で何も無いところからステージを製作していく会社の存在にも着目します。	
12 照明会社について	照明会社のホール管理部門、イベント特設部門等の仕組みについて理解を深めます。	
13 映像関連について	映像に関しては、TV局の撮影・収録・編集(送出)やイベント現場でのスクリーン設置、映像収録やライブ中継等、多岐にわたります。	
14 総復習	個々の方向性をしっかり固めて、就職活動をしていきます。その為の補足的内容も付け加えて行きます。	
15 前期試験		
16 FOLLOW	研修先等での行動をしっかりと行い、自分が吸収した内容を見直し、後期に望みます。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
音楽配信の仕組みを理解する / 自分たちでイベント制作を行う 自分自身をプレゼンテーションできる	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1 音楽配信の仕組み①	CDの流通は激減、配信によって音楽が購入されています。基本的な流れを理解してもらい、今後の変化にも対応します。
2 音楽配信の仕組み②	音楽配信のおかげで今まで、知ることができなかった、様々なミュージシャンたちの演奏も見ることが出来ます。各国のアーティストが発信を続けて行く限りない世界に突入している現状です。
3 裏方に対する表方[運営]について	ステージ上もしくは、ステージに関連する内容を行う裏方さんと、そのイベントやコンサートを観覧するお客様の案内・誘導を行う「表方」が存在します。みんなの仕事は、そのチケット代で成立しています。
4 学園祭準備①	クラス単位で、学園祭のイベント・コンサート音響を支えています。そのための配分や担当を考えて進めて行きます。音楽ビジネス専攻からの情報を共有します。
5 学園祭準備②	内容が明確にわかってくと、それに向かった準備を、1年、2年で協力して行います。2年生は先輩として、1年生を教える立場でもあります。
6 学園祭準備③	現場を仕込む段取り、事前に作られたプランを参考にみんなで協力していく体制を作っていく、本番に臨みます。
7 面談[就職活動相談]	時期的には、最終の就職相談時期となります。再度、方向性・活動状況・家族の同意・悩む内容に対してキャリアスタッフと共に相談していきます。
8 面談[就職活動相談]	
9 オリジナリティ	自分にあると信じて「オリジナリティ」の勉強です。意外に音楽内容では無い可能性もありますが、自分の長所を見極めていけると嬉しく、自信にも繋がってきます。
10 プレゼンテーション1週目	2週に渡って、「自分の将来像」を自分なりにまとめ、自己分析も含め、自分の説明を考えてもらい、発表する場面を作っていきます。
11 プレゼンテーション2週目	
12 これからの音楽業界	皆さんが進む音楽業界ですが、また5年もすれば、流行りもシステムも変化していきます。ただ、過去の流行を辿ると、この先が見えるかも知れません。
13 総復習	作業も含まれ、自分の周りの専攻だけではなく状況で作業をしていきます。就職に役立つ内容として理解してください。
14 前期試験	
15 FOLLOW	任される内容に対して答えていける実力を培ってもらえれば大丈夫です。現場は「人」ありきのものなので、コミュニケーション力をUPさせる努力をしていきましょう。

授業科目		授業時数
音楽技術論		62
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
野沢 瞳 確実性をモットーとした作業手順を伝授する。現場でのあらゆるトラブルに精通しており、その説明は具体的で理解しやすい。		
前期		
到達目標		
発光原理、色についての知識		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	さまざまなランプの種類1	白熱電球・ハロゲン電球・放電ランプ・HID等のランプの種類について学習します
2	さまざまなランプの種類2	白熱電球・ハロゲン電球・放電ランプ・HID等のランプの種類について学習します
3	白熱電球の構造	白熱電球と放電灯の違いを知るためにまず白熱灯の発達についてやタングステン電球の特性、構造を解説し学ぶ
4	ハロゲンサイクルの原理	前週の続きで同じ白熱灯の中のハロゲン電球の特性、構造、種類を解説し学ぶ
5	放電ランプ	タングステン電球、ハロゲン電球などの白熱灯とは構造が違う放電灯についてその種類や構造、特性を解説し学ぶ
6	放電の原理	水銀ランプ・アーク・プラズマの放電・発光の原理について解説します。また、蛍光ランプ・水銀ランプの違い・点灯方法・発光方法・点灯後の状態についても学ぶ
7	メタルハライドランプについて	メタルハライドランプとはどういったものなのか詳しく解説し、メタルハライドランプの種類についても説明します
8	キセノンランプについて	アーク放電によって発光するキセノンランプについて解説します。また、キセノンアークショートランプの特徴として、スベクトル・始動から安定までの時間・ガス圧・指導方法にいたるまでを詳しく解説します
9	光・目の構造について	人間の光を感じる部分として目がありどのようにして光を感じ取るかを知るために光と目の関係、目の構造、順応性、残像について詳しく解説します
10	光について	光の単位・照度と距離の関係について学ぶ。また、光の反射・透過・屈折(レンズを使用した例を元)に解説します
11	光について	光の単位・照度と距離の関係について学ぶ。また、光の反射・透過・屈折(レンズを使用した例を元)に解説します
12	色について	物体色と光源色・色の3要素について学ぶ。また、加法混色・減法混色についても表を使用して解説します
13	色について	物体色と光源色・色の3要素について学ぶ。また、加法混色・減法混色についても表を使用して解説します
14	前期試験	
15	前期試験の返却と解説	
16	前期のまとめ	前期で学習した照明工学の基礎についてもう一度復習し、後期からの授業に備える

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
照明の仕事としての舞台用語や歴史、ホールの種類や構造、照明器具類や電気の知識、現場などでの仮設電源に関する知識を学びます。<実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:舞台テレビジョン照明 基礎編	
後期	
到達目標	
DMX信号、三段プリセット調光操作卓やムービング卓の機能の習得。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	電子について1 電気の流れから電子というものについて詳しく解説します。導体・絶縁体・半導体についても例となる物質を挙げ、詳しく解説します
2	電子について2 電気の流れから電子というものについて詳しく解説します。導体・絶縁体・半導体についても例となる物質を挙げ、詳しく解説します
3	調光装置 現在の調光装置について説明し、制御している信号の流れや負荷をかける電気の流れを解説し学習する
4	調光信号について 前週、解説した信号流れを復習し実際に使用しているデジタル信号とアナログ信号の違いや概念を解説し学習する
5	DMX512とDMX信号関連機器 デジタル信号の特性やデジタル8ビットについて解説する。その他、パッチの種類やパッチの方式について学習する。また、スプリッター・ターミネーター・信号変換器等のDMX信号の関連器機について説明します
6	信号の配線について DMXの配線について、ムービングライト・カラーチェンジャーの調光信号の配線方法を例に別紙にて学習します
7	パッチング パッチにはどのような種類があるかや種類ごとの使用方法について解説し学習する。また、ソフトパッチの特徴、メリット等についても解説します
8	調光操作卓の機能 調光操作卓の記憶機能についてどのような記憶ができ、使用方法、記憶の種類などを解説し学習する
9	調光卓のその他の機能 クロスフェーダーの役割と機能(メモリー再生フェーダーでのCUEメモリー再生方法)、パート機能・バックアップ機能・マクロ機能・ヒートアップ機能・同期機能について解説します
10	ムービングスポットの機能 各種ムービングスポットの種類や機能について解説します
11	ムービングスポットの機能 各種ムービングスポットの種類や機能について解説します
12	ムービング卓の機能 ムービング卓に備わっている各種機能について解説します
13	後期試験
14	後期試験の返却と解説
15	1年間のまとめ 1年間で学習したことを再確認し学習したことの重要性、必要性を読み取り卒業後にも活かせるよう復習をする

授業科目		授業時数
技術演習		124

学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	照明スタッフ専攻

担当講師(プロフィール)	
野沢 瞳 確実性をモットーとした作業手順を伝授する。現場でのあらゆるトラブルに精通しており、その説明は具体的で理解しやすい。	

前期	
到達目標	
テンプレートの使用方法及び、図面制作における基礎の習得。 音源から楽曲の構成を理解し、簡単な譜面に書き表せるようになること。 リズムの概念を理解することで、照明オペレーターのタイミングに対応出来るようになること	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・ 課題評価 ・小テスト・その他	

授業計画		
授業項目	実施内容	
1	イメージの学習・音楽照明の色コンテ	1年間で行なわれる授業の内容についての説明。自分の中で曲のイメージを膨らませ色として再現するためのノウハウを学習する
2	図面を読み取るための知識	仕込み図を作成するにあたり、必要な知識を解説する
3	図面を読み取るための知識	仕込み図を作成するにあたり、必要な知識を解説する
4	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
5	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
6	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
7	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
8	仕込み図の制作 リズムの概念について	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
9	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
10	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
11	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
12	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
13	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
14	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
15	仕込み図の制作	照明用テンプレートを使用して手書きの仕込み図と調光卓フェーダー入れ込み表、ユニット入れ込み表を制作する
16	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。

授業の方法	
講義・ 演習 ・実験・実技・実習	
授業概要	
プランナー、チーフ、オペレーターとして必要となってくる知識や技術を習得するための授業です。実践的な仕込み、手書き図面の書き方、曲構成表の作り方、楽譜の読み方や理論などを学習します。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:テンプレート	

後期	
到達目標	
学内イベントの図面を制作する事で実践力を高め、イベントで使用出来る、吊り、置き、立面図のプランニングが出来るようになる。 楽曲の成り立ちを理解することを、コンサート等の演出に役立られるようになること。	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・ 課題評価 ・小テスト・その他	

授業計画		
授業項目	実施内容	
1	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
2	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
3	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
4	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
5	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
6	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
7	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
8	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
9	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
10	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
11	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
12	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
13	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
14	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。
15	様々な照明の研究	各自で持ち寄ったDVDを鑑賞し、照明デザインやオペレート、効果について話し合い、研究する。

授業科目		授業時数
照明ゼミ		124

学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	照明スタッフ専攻

担当講師(プロフィール)
川原 正弘 数々の舞台、イベント現場で照明を担当、新旧の機材に精通しており、特に初心者への教育には定評がある。自らの会社でも後進の育成に励んでいる。

前期
到達目標
学生主催イベントの設営をプランニングから行い、チーフを担当する事によって、本番に対する責任感、チームの一体感を学びます。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		授業項目	実施内容
1	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
2	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
3	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
4	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
5	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
6	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
7	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
8	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
9	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
10	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
11	複合照明	仮設電源ユニット、常設回路を複合した仕込みを行う。ここでは常設回路と仮設電源ユニットの負荷回路の振り分け方法などを学ぶ	
12	学生主体イベントの仕込み(実践)	学生が主体となってプランニングから行い、そのプランを元に設営→シュートまで学生たち自らで考え実践する	
13	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
14	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
15	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
16	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	

授業の方法
講義・演習・実験・実技・実習
授業概要
基礎的な照明技術を基に、それらを繰り返し応用していく授業です。実際にオーダーがあるイベントの仕込みを行う内容となります。 <実務経験のある教員等による授業科目>
使用教材:革手袋、工具一式

後期
到達目標
学生主催イベントの設営をプランニングから行い、チーフを担当する事によって、本番に対する責任感、チームとしての一体感を学びます。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		授業項目	実施内容
1	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
2	トータル的な仕込み	学生がチーフとなり、図面を作成。それをもとに仕込みを行い、早く確実に仕込みを行えることを目標とする	
3	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
4	トータル的な仕込み	学生がチーフとなり、図面を作成。それをもとに仕込みを行い、早く確実に仕込みを行えることを目標とする	
5	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
6	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
7	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
8	トータル的な仕込み	学生がチーフとなり、図面を作成。それをもとに仕込みを行い、早く確実に仕込みを行えることを目標とする	
9	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
10	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
11	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
12	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
13	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設営方法を行う。決められた時間内での設営→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
14	トータル的な仕込み	学生がチーフとなり、図面を作成。それをもとに仕込みを行い、早く確実に仕込みを行えることを目標とする	
15	1年間のまとめ	1年間で学習したことを振り返り、就職後にすぐに役立つようもう一度、十分学習する	

授業科目		授業時数
プランニング実習		62
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	照明スタッフ専攻

担当講師(プロフィール)
野沢 瞳
確実性をモットーとした作業手順を伝授する。現場でのあらゆるトラブルに精通しており、その説明は具体的に理解しやすい。

前期 到達目標
仕込み図制作におけるCADソフトの基本操作方法の習得。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他

授業計画		実施内容
授業項目		
1	基本操作	CADソフトの基本操作の解説。操作に慣れるためにそれぞれのツールの使用方法、パレットの種類などの使用方法を学ぶ
2	基本操作	CADソフトの操作に慣れるために円や四角形などを数値で入力する方法やパーツの結合方法、展開方法などを学ぶ
3	基本操作	CADソフトの操作に慣れるために円や四角形などを数値で入力する方法やパーツの結合方法、展開方法などを学ぶ
4	図面作成	CATHALLの図面を使用して、各自で考えた図面を作成する。
5	図面作成	CATHALLの図面を使用して、各自で考えた図面を作成する。
6	図面作成	CATHALLの図面を使用して、各自で考えた図面を作成する。
7	図面作成	CATHALLの図面を使用して、各自で考えた図面を作成する。
8	図面作成	CATHALLの図面を使用して、各自で考えた図面を作成する。
9	図面作成	CATHALLの図面を使用して、各自で考えた図面を作成する。
10	図面作成	CATHALLの図面を使用して、各自で考えた図面を作成する。
11	図面作成	CATHALLの図面を使用して、各自で考えた図面を作成する。
12	図面作成	CATHALLの図面を使用して、各自で考えた図面を作成する。
13	学園祭仕込み図の製作	学園祭の仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
14	学園祭仕込み図の製作	学園祭の仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
15	学園祭仕込み図の製作	学園祭の仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
16	学園祭仕込み図の製作	学園祭の仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する

授業の方法
講義・演習・実験・実技・実習
授業概要
フリーCADソフトを使用し、ソフトの使い方や照明の仕込み図面の描き方を学び、学内イベントで使用する仕込み図を作成します。 <実務経験のある教員等による授業科目>
使用教材:USBフラッシュメモリ

後期 到達目標
実際に行われるイベントの図面を制作する事で、プランニング力、応用力を習得。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他平常点

授業計画		実施内容
授業項目		
1	学園祭仕込み図の製作	学園祭仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
2	学園祭仕込み図の製作	学園祭仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
3	学園祭仕込み図の製作	学園祭仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
4	学園祭仕込み図の製作	学園祭仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
5	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
6	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
7	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
8	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
9	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
10	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
11	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
12	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
13	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
14	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する
15	卒業コンサート仕込み図の製作	卒業コンサートの仕込み図、調光卓入れ込み表、仮設電源入れ込み表を製作する

授業科目		授業時数
ムービングライト		124
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	照明スタッフ専攻
担当講師(プロフィール)		
堀田 裕子 プランニングから仕込みまでスピード感を持った作業を信条としており、学生にも素早い行動を教授している。		
前期		
到達目標		
ムービングライトの構造の理解。調光卓の操作方法を学び、カラー、ゴボ、ポジション決め等を習得。データ入力から簡単なオペレーションが出来る事を目指します。		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他平常点		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ムービングライト(ヨークタイプ) ムービングライト(灯体)の内部構造と各部の名称と役割を解説する	
2	ムービングライト(ヨークタイプ) ムービングライト(灯体)の内部構造と各部の名称と役割を解説する	
3	ムービングライト(ヨークタイプ) ムービングライト(灯体)の内部構造と各部の名称と役割を解説する	
4	ムービングライト(ヨークタイプ) ムービングライトのディスプレイの解説。灯体のアドレス設定の方法。灯体でのランプON、OFF等を学ぶ	
5	調光卓、シミュレーションソフトの解説 調光卓、シミュレーションソフトを使用して、カラー、ゴボ、フォーカス、プリズム、アイリス、アニメーション、ポジションの説明	
6	調光卓、シミュレーションソフトの解説 調光卓、シミュレーションソフトを使用してポジションの記憶方法を解説する。ここでは固定ポジションの記憶方法を学ぶ。あわせて他の機能の記憶方法も解説	
7	調光卓、シミュレーションソフトの解説 調光卓、シミュレーションソフトを使用してサブマスターの解説。実際に明かりを作り、サブマスターにデータを打ち込む	
8	調光卓、シミュレーションソフトの解説 調光卓、シミュレーションソフトを使用してサブマスターの解説。実際に明かりを作り、サブマスターにデータを打ち込む	
9	調光卓、シミュレーションソフトの解説 調光卓、シミュレーションソフトを使用してサブマスターの解説。実際に明かりを作り、サブマスターにデータを打ち込む	
10	調光卓、シミュレーションソフトの解説 調光卓、シミュレーションソフトを使用してマトリックスの解説。マトリックスを使用して、タイムを打ってサブマスターに記憶する方法を学ぶ	
11	調光卓、シミュレーションソフトの解説 調光卓、シミュレーションソフトを使用してチェイスの解説。DIMでチェイス機能を使用しランダムストロボを作成。POSITIONでチェイス機能を使用しサークルを作成。チェイス機能の基礎を学ぶ	
12	調光卓、シミュレーションソフトの解説 調光卓、シミュレーションソフトを使用してチェイスの解説。POSITIONでチェイス機能を使用しウェイブの作成。POSITION等で複雑なチェイスの作り方の仕組みを学ぶ	
13	ムービングライトトラブルシューティング 灯体のトラブルが起こった場合のリセットの方法や、灯体が正常に作動しない場合の信号線の問題や、灯体の問題の解説を学ぶ	
14	前期のまとめ	
15	前期試験	
16	試験返却	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技(実習)	
授業概要	
ムービングライトの機材構造や仕込み・調整、各シーン作りなどを学習します。PC上のシミュレーションソフトを使用してシーン作りの研究を行います。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:革手袋、工具一式	
後期	
到達目標	
チェイス機能などの調光卓の応用を学び、トラブルシューティングまでマスターします。サポート無しで設置から本番オペレーションが出来る事を目指します。また、シミュレーションソフトを使用したPC上でのシーン作り等も学習します。	
評価方法	
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他平常点	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
2	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
3	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
4	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
5	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
6	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
7	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
8	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
9	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
10	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
11	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
12	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
13	ムービングライトデモンストレーション これまで学んできた基本的な機能を使用して、曲のシーンに合わせて明かりを作ってみる。次週に向けてのデータの作成
14	ムービングライトデモンストレーション 先週までに作成したデータを使用しての制作発表
15	1年間のまとめ

授業科目		授業時数
照明実習		248

学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	照明スタッフ専攻

担当講師(プロフィール)
川原 正弘
 数々の舞台、イベント現場で照明を担当、新旧の機材に精通しており、特に初心者への教育には定評がある。自らの会社でも後進の育成に励んでいる。

前期
到達目標
 カウンターウェイト方式、仮設仕込みといった設置の応用を学ぶ。
 また、実際に行われるイベントの設置を行うことにより、実践力を高める。

評価方法
 筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他平常点

授業計画		授業項目	実施内容
1	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
2	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
3	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
4	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
5	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
6	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
7	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
8	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
9	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
10	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
11	複合照明	仮設電源ユニット、常設回路を複合した仕込みを行う。ここでは常設回路と仮設電源ユニットの負荷回路の振り分け方法などを学ぶ	
12	学生主体イベントの仕込み(実践)	学生が中心となってプランニングから行い、そのプランを元に設置→シュートまで学生たち自らで考え実践する	
13	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
14	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
15	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
16	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	

授業の方法
 講義・演習・実験・実技・実習

授業概要
 機材の解説や舞台機構の説明など基礎的な部分から始まり、反復練習を行いながら2年間で照明スタッフとして必要な技術を身につけます。2年次は首響と合同でイベントをイメージした授業展開を実施します。
 <実務経験のある教員等による授業科目>

使用教材:革手袋、工具一式

後期
到達目標
 学生主催イベントの設置をプランニングから行い、チーフを担当する事によって、本番に対する責任感、チームとしての一体感を学びます。

評価方法
 筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他平常点

授業計画		授業項目	実施内容
1	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
2	トータル的な仕込み	学生がチーフとなり、図面を作成。それをもとに仕込みを行い、早く確実に仕込みを行えることを目標とする	
3	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
4	トータル的な仕込み	学生がチーフとなり、図面を作成。それをもとに仕込みを行い、早く確実に仕込みを行えることを目標とする	
5	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
6	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
7	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
8	トータル的な仕込み	学生がチーフとなり、図面を作成。それをもとに仕込みを行い、早く確実に仕込みを行えることを目標とする	
9	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
10	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
11	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
12	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
13	イベントの仕込み(実践)	講師がチーフとなり、さまざまなプランの設置方法を行う。決められた時間内での設置→シュートを行い、現場さながらの応用力を高める	
14	トータル的な仕込み	学生がチーフとなり、図面を作成。それをもとに仕込みを行い、早く確実に仕込みを行えることを目標とする	
15	1年間のまとめ	1年間で学習したことを振り返り、就職時にすぐ役立つようもう一度、十分復習をする	

シラバス

音楽技術学科

音楽ビジネス専攻

授業科目		授業時数
音楽業界概論		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
小池 敏 演奏者・作家として複数のメジャー契約。イベント主催者として多数のイベントを制作。プロダクション業務の経験もあり業界経験が多岐にわたる。		
前期 到達目標		
音楽業界の知識・ビジネスの仕組みを知る		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 学内生活説明① 施設設備について	学内にあるいろんな専攻が使用する施設・設備の見学を行い「音楽」に携わる仕事が理解できるように説明していきます。	
2 学内生活説明② 音楽技術学科のカリキュラムについて	制作・マネジメント関連の授業内容や担当される講師方々の紹介を行い、年間で予定されている行事やイベント等も説明していきます。	
3 学内生活説明③ 他専攻について	音楽業界の一部をシミュレートしたかたちの学校を紹介します。「原盤制作」があり音楽の世界は出来上がっている、その内容を支えている意味で技術・演奏・総合・楽器・(ダンス)があります。	
4 学内生活説明④ PC類について	デジタル化が急激に進む中、技術系は、とても進歩しています。その入口となるキーボード操作、その意味を理解してください。PCへの意思付けを重要としています。音楽パッケージのかたちも理解しましょう。	
5 音楽ジャンル① ロック・ポップス全般	ここでは、一般的な洋楽ロック・ポップスを取り上げます。やはり流行も大切ですが、歴史上必要な音楽も沢山あります。担任ヴォイスの一例を取り上げます。(VTR視聴)	
6 音楽ジャンル② J-POP、歌謡曲	日本で就職することを考えると必要な分野だと感じます。大枠としての内容を理解していきます。(VTR視聴)	
7 音楽ジャンル③ その他の分野	R&B、ブルース、ジャズ、ゴスペル、ソウル、ファンク、ラップ、サンバ、ボサノバ、ラテン、ワールドミュージック等を、その他の分野としました。(VTR視聴)	
8 研修関連についての説明	企業研修についての取扱いや公欠処理のルールについて、また検定やメール・電話検定の実施に関する説明を行う。	
9 音楽業界について	第一段階として、基本的なプロダクション、レコード会社、音楽出版社、から成り立つ音楽業界の仕組みを少し学んでみましょう。	
10 舞台芸術①	音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。屋内コンサート、野外コンサート、ライブハウス、イベント催事等	
11 舞台芸術②	音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。宝塚大劇場、オーケストラ等	
12 舞台芸術③	音響芸術に直接関係のあるイベント作品を学びます。歌舞伎、能舞台、オペラ等	
13 ライブハウス・コンサート等 音楽を主体とする大小の興業について	音楽を生で届ける方法として、ライブが一般的ですが、その方法も変化していきます。ここでは、ワンマン、チケット販売、グッズ、プロダクション、イベンター等も交えて、音響関連企業に発注されるまでの流れを知ってください。	
14 総復習	職業としての音楽技術学科は、ソフトの理解が必要です。ある程度のことを知っていれば、その現場終了後に、再度勉強すれば頑張れます。そのためにも、前期内容のおさらいをしておきましょう。	
15 前期試験		
16 FOLLOW	自分の不得意な部分を知り、ハッキリさせた上で次の目標を考えたり、自分が進むべき方向感を持って後期に望みます。	

授業の方法	
講義 演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期 到達目標	
音楽業界のビジネスモデルを実際に運用する力をつける	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1 楽器について	身近なLM楽器。ギター、ベース、ドラム、キーボード(PIANO)の内容について学びます。イベント中、彼らが袖に来た時にチェックできる内容やプロとアマチュアでは、こちらも出来る内容が変わります。
2 著作権①	まずは、原盤制作に関係する著作権について学んでいきます。作詞・作曲、アーティストに対する印税等、まずは、音楽直接の権利です。
3 著作権②	音楽の世界だけでなく、大きな意味での「著作」を学んでいきます。演出・振付・図面・建築・キャラクター等も含めて知っておきたいものです。
4 聴覚	音が、空気中を伝わる仕組みとそれを受ける耳の構造(外耳～中耳～内耳)と働きを学びます。
5 一般教養[物理/科学]	世間一般的な内容を中心にテスト問題を解いていきます。成績に反映されるものではなく、あくまで就職試験を想定したものと活用していきます。
6 一般教養[スポーツ/芸能]	
7 一般教養[歴史/地理]	
8 コンサートPA	PA(パブリックアドレス)、SR(サウンドリフォーメント)という内容や、常設のライブハウス、トラックでの搬入作業を伴うコンサート等、実際の音響関連設備等について学ぶ。
9 レコーディング	一般的なレコーディング作業の流れを解説します。データ、リズム録り、オーバーダブ、ボーカル録り、コーラスetc等、人の出入りやスケジュール等色々な影響で作業手順も変わります。また、譜面の必要性も問われます。
10 映像関連	イベント会場では、もうお馴染みの映像関連。そのシステムを簡単に学んでみましょう。学校では、学園祭シーズンに配置されます。
11 放送業界①	TV業界について、その仕組みと構造を知識として勉強していきます。沢山の制作会社やプロダクション等が仕事をの請け負いをしています。
12 放送業界②	ラジオ業界についての仕組みも理解していきます。音楽が好きであれば、クルーが小さいため、制作とひとつのチームとして仕事ができる職業です。
13 総復習	関連業界の内容も含み、ちょっとした知識が沢山出てきました。就職に役立つ内容として理解してください。
14 後期試験	
15 FOLLOW	ある程度の研修をこなせる実力は、あるようになってきます。後は、現場は「人」ありきのものなので、コミュニケーション力をUPさせる努力をしていきましょう。

授業科目		授業時数
音楽技術論		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
西川 博美 一般社団法人 日本イベント産業振興協会 イベント業務管理士資格試験指導員 様々なイベントを運営・管理・制作する。		
前期		
到達目標		
イベント検定の知識習得		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	イベント検定対策 導入・イベント業務管理者・イベント検定について	
2	イベントの歴史 イベントの発展と歴史、そして現在行われている内容の分類を学びます。	
3	博覧会① 博覧会により発展した事について過去の事例から紹介していきます。	
4	博覧会② 博覧会により発展した「モノ」について紹介します。	
5	内国博覧会 物品や資料などを集めて一般公開する催しとしての内国博覧会についての説明。	
6	ソフト化 時代は流れ、ハード化からソフト化へと移行されている現状を学びます。	
7	経済社会の変化 構造的な転換期を迎えた経済社会とイベントの関連性を学びます。	
8	少子高齢化 人口構成が大きく変化していく中、ニーズやターゲットの変化が起こります。	
9	イベントの概念 イベントの概念が多様化してきたその分類について学びます。	
10	イベントの機能 イベントそのものが持つ機能や、もたらされる効果を学習します。	
11	イベントの効果と役割 先週に続き、イベントの効果、そしてその役割を知っていきます。また、スタッフの役割・イベントの3段階・会場選びについて考えていきます。	
12	評価 そのイベントの評価とは、どのような目的で行われたのか？来場者の感想、売り手側の意見、売上げ等を参考にします。	
13	制作過程と技術 準備期間からのイベント制作過程について追求していきます。当日を演出する音響・照明・映像効果について学びます。	
14	プロデューサー・ディレクター について イベントにおけるプロデューサー・ディレクターの役割について勉強していきます。	
15	前期試験	
16	FOLLOW 後期のイベント検定試験に対する対策	

授業の方法	
講義 演習・実験・実技・実習	
授業概要	
イベント企画や制作知識を深め、自らプランニングした企画を繰り返してプレゼンテーション。自己の意思・考えをわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション能力の向上を目指します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
イベント検定取得を目指す	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	イベント実施① 実際の会場運営計画やプログラムの構成についての事例をもとに勉強します。
2	イベント実施② 「効果的なイベントづくりのために、どんな方法があるのか？」とても大切な部分になります。
3	イベント実施③ 特に毎年行われているイベントには課題として「イベントの質の向上」があります。この「質」について学びます。
4	イベント検定試験 【検定試験対策】
5	イベント実施④ 計画的で効果的な告知・集客活動について学びます。
6	イベント実施⑤ 効果的なイベントづくりのための「4つのポイント」を理解します。
7	イベントの構造と種類 イベントの構造・地域とイベント
8	地域経営戦略 基本構造・地域経営戦略
9	目的と効果 目的と効果・期待する効果
10	地域イベント 地域イベントの特性
11	マーケティング 経営感覚とマーケティングの視点について
12	産業と暮らしに関係するイベント 産業とイベントの関連性や私たちの暮らしと関連するイベント等を理解していきます。
13	ノーマライゼーション 社会福祉をめぐる社会理念の一つで、障害者も健常者と同様の生活が出来る様に支援するべきという考え方を学びます。
14	後期試験
15	統括/FOLLOW まとめ

授業科目		授業時数
技術演習		124
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
二階堂 茂 他 音楽ライターとして多方面で活躍。あらゆる音楽事情に精通し、リアルタイムな経験から学生に音楽のすばらしさを伝えてくれる。		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●ポピュラーミュージックの流れについて知る ●ロックの流れについて知る ●白人音楽・黒人音楽について知る 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価・小テスト・その他)		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音楽史① 過去の音楽チャリティーのドキュメントDVDの鑑賞	
2	音楽史② 前回鑑賞した映像に出ていた参加アーティストの研究① 前回鑑賞した映像についてその当時の時代背景やなぜそのようなことが行われたのかなどを研究していきます。	
3	音楽史② 前回鑑賞した映像に出ていた参加アーティストの研究② この回では、アーティストにスポットを当て、各アーティストの代表的な楽曲やルーツを研究していきます。	
4	ビジネスライティング① 映像を鑑賞、研究し、感じたことを作文する。 映像を鑑賞し、2回に渡った解説、研究を踏まえ、感じたことを文章にしていきます。	
5	ビジネスライティング② 前回作文した、ほかの人の文章の添削を行う	
6	ビジネスライティング③ 前回の添削を踏まえ自身の文章の添削を行う	
7	ビジネスライティング④ 話し言葉と書き言葉の違いについて 論文やレポートにおける文章作りの基本的なルールを学びながら、書き言葉と話し言葉の違いを解説し習得していきます。	
8	ビジネスライティング⑤ 文書のテクニックについて学んでいきます。 レポート作成時の文章の引用のルール、場面に応じての定型文章の書き方、また読みやすく、伝わるための演出やレトリックについてもレクチャーしていきます。	
9	楽器について① LM楽器についての基本的な構造、種類などの専門的な知識を各演奏者を招きレクチャーを行います。	
10	楽器について②	
11	ビジネスライティング⑥ 前回2回に渡って行われた楽器についての作文を行います。	
12	ビジネスライティング⑦ 文章添削 前回作成した作文でほかの人の文章の添削し、また自分の文章も添削していきます。	
13	ビジネスライティング⑧ 文章添削 前回作成した作文でほかの人の文章の添削し、また自分の文章も添削していきます。	
14	前期のまとめ 前回までの音楽史、楽器について、また文章についてのまとめを行います。	
15	課題作文の提出	
16	課題作文の返却	

授業の方法	
講義 (演習) 実験・実技・実習	
授業概要	
音楽業界人として相応しい技術を様々な演習により学んでいきます。知識、文章作成能力、パソコン操作など多角的に学ぶことにより企画書、提案書類の作成など制作者としてのスキルを身に着けます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●誌面、CDジャケットのデータ制作を行う ●作品の完成度を高める 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価・小テスト・その他)	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	カードの作成① DTP 後期を通してIllustrator,Photoshopを用いて広告やメディアの制作を行う。そのための各スキルを身に付けていく。
2	カードの作成② DTP Photoshopで画像を切り取り、統合保存。Illustrator上でトリミングをしカードをデザインする。
3	カードの作成③ DTP 前回前々回で行っていたカードの作成を仕上げる。
4	音楽とメディア 音楽とメディアでは音のいれものいわゆる記憶に残っていくことについて学んでいく。
5	音楽メディアの変遷 譜面からレコード、そしてデジタル化など音楽メディアの変遷をたどっていく
6	フライヤー作成① Illustratorの移動パレットを使い、効率よくデザインする方法を学ぶ。 また、ダミー文字で組んだデザインにテキストを流し込む
7	フライヤー作成② 前回作成したものにPhotoshopで配色画像に着色していく。 Illustratorも使用し同時進行で仕上げていく
8	音楽産業 音楽産業の興りから成長、また近年衰退してきていると言われていた観点から、音楽産業の概要を学びます。
9	雑誌広告 テキスト原稿から文字起こし、使用する画像を自身で選び雑誌広告を作成していきます。
10	雑誌広告 前回に引き続いて雑誌広告を作成、仕上げまで持っていきます。
11	日本の音楽産業 日本の音楽産業に焦点を絞り、戦前から今日のJ-POPの発展までの音楽産業の歴史を学んでいきます。
12	CDジャケットの作成 CDジャケット両面、サイドキャップ、盤面をデザインしていきます。
13	CDジャケットの作成 CDジャケット両面、サイドキャップ、盤面をデザインしていきます。 その際の注意点も合わせて説明していきます。
14	CDジャケットの作成 CDジャケット両面、サイドキャップ、盤面をデザインを仕上げしていきます。
15	年間のまとめ

授業科目		授業時数
一般教養		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
山田 敏子 「現代マナーズ研究会」代表。ビジネスマナー研修を軸に関西を中心企業・団体・大学等で人材育成に携わる。		
前期 到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●基本マナーやコミュニケーションの重要性を理解する ●挨拶、美しいお辞儀、きちんとした自己紹介ができる 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	授業概要の説明・動機付け	この授業の趣旨、目的を理解し、学生生活と職場の違いや仕事の取り組み方について説明し、この1年で達成したい目標を設定する。
2	自己紹介の仕方	職場での挨拶、公の場での自己紹介の仕方を学び、基本形に則した手法で実技を取り入れながら学習する。
3	挨拶・お辞儀の重要性	基本の立ち姿や立礼・かけ礼三種を接遇用語を活用し実技を取り入れながら身に付ける。
4	話し方・あがり対処法	あがらずに人前で自分の考えを述べるができるような様々な手法を取り入れながら実技を行う。
5	3分間スピーチ	人前でのスピーチの基本形を知り、テーマを設定したスピーチを交えながら問題点、注意点を話し合い学ぶ。
6	企業の求める人間像	これから始まる就職活動や企業研修に向けて、求められる人材を集団面接や新入社員教育でも用いられるグループディスカッション形式で意見を話し合い学ぶ。
7	電話でのアポイントメントの取り方	就職活動や企業研修等で企業に電話をかける際の手順や失礼にならない話し方を学ぶ。
8	ビジネス能力検定対策	ビジネスに必要な基礎知識を幅広く学び、就職活動や企業研修、また就職後も役立つよう、検定を取得する。
9	ビジネス能力検定対策①	・ビジネスマナーの基礎 ・社会人としての身だしなみ、挨拶のマナー、立ち振る舞いなどについて学んでいきます。
10	ビジネス能力検定対策②	
11	学内敬語検定対策	企業研修に出る前に失礼の無い言葉遣いや応対を身に付けるため、敬語検定に向けて対策をする。
12	学内敬語検定	企業研修に出る前に失礼の無い言葉遣いや応対が身に付いているか検定を実施。
13	ビジネス能力検定対策③	・コミュニケーションの基本 正しい敬語の使い方、電話対応、ビジネスメールの作成、基本的なビジネス文書の作成などについて学んでいきます。
14	ビジネス能力検定対策④	
15	前期試験実施日	前期内容でペーパーテスト
16	ビジネス能力検定対策⑤	・時事用語、ビジネス用語 新聞記事の読み方や内容理解、表やグラフから読み取る問題発見や分析の方法を学んでいきます。

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学習します。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期 到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●ビジネス能力検定に合格する ●エントリーシートや履歴書でアピールできる ●社外文書の形式で添え状や御礼状が書ける 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	報告の仕方 ビジネスでは欠かせない口頭・文書による報告の仕方や信頼されるための報告のポイントを学習する。
2	ビジネス能力検定対策⑥ 前期に行った、ビジネス能力検定対策の復習をすとともに新たな内容を学んでいきます。
3	ビジネス能力検定対策⑦ ・時事用語、ビジネス用語 前期の最後に行った内容に引き続き、新聞記事の読み方や内容理解、表やグラフから読み取る問題発見や分析の方法などを実際にやっていき、添削を行います。
4	ビジネス能力検定対策⑧
5	ビジネス能力検定対策⑨
6	ビジネス能力検定対策⑩ ・社会人としての心構え 前回の内容を引き続き行いつつ、新たに、仕事の場面を想定した行動や取り組みを考えていきます。
7	ビジネス能力検定対策⑪
8	ビジネス能力検定対策⑫
9	ビジネス能力検定対策⑬ 検定対策、最後として模擬試験を行い、採点していきます。
10	自己分析シート 自分にとって働くとはどういうことを考え、就職活動の日程を確認し、自身の就職についての思いを整理して伝えられるようにする
11	エントリーシート 企業へのアプローチのファーストステップとなるエントリーの仕方や伝わりやすい表現法について学ぶ。
12	履歴書 就職活動時に必要となる履歴書の書き方を、見た目の印象を大切にしながら良い例と悪い例を知った上で作成する。
13	履歴書 履歴書の書き方、特に志望動機・自己アピールの仕方にポイントを絞り作成する。
14	後期試験実施日 ペーパーテスト、10週～13週内容を提出
15	履歴書 各々添削を受けた上で清書を仕上げ提出する。

授業科目		授業時数
パソコン演習		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
佐久本 優子 パーソナルコンピューター、ビジネスソフトの指導員として経験豊富。論理的思考を学生に植え付けるのが非常に上手い		
前期 到達目標		
Word・Excel・PowerPointの基本操作を習得する		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト(その他)		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	Wordの基本操作、文字入力 起動～画面構成～保存～終了までの基本操作と、IMEパッドの使い方を練習／フォルダ操作について学ぶ	
2	W:文書作成① (ページ設定・オートフォーマット・範囲選択・編集・装飾)表のないビジネス文書の作成	
3	W:表作成とイラストの利用 表(挿入・レイアウト変更・線種変更・塗りつぶし)とイラスト(ワードアート・クリップアート)を入れたビジネス文書の作成	
4	W:図形描画／課題作成 (図形・テキストボックス・SmartArtの挿入と書式設定)図形描画の機能を使用した文書作成／W:課題作成	
5	Excelの基本操作と数式・簡単な関数の挿入 簡単な関数(SUM AVERAGE MAX MIN)の入った表を作成	
6	E:関数の活用①(絶対参照 IF RANK ROUND 等) 関数を利用した表を作成	
7	E:グラフの作成と表の書式設定 縦棒や円グラフの挿入～構成要素～書式設定と表の書式設定(表示形式・列と行の操作・セルの挿入や削除)を学ぶ	
8	E:印刷機能とシートの操作 ページレイアウト～ページ設定～ヘッダーとフッター機能の学習と、シート名変更～3D集計を学ぶ／課題発表	
9	E:課題作成 これまで学習した機能を使った課題を仕上げる	
10	E:条件付き書式・データの入力規則 条件値を指定して書式を設定する・カラースケールなどの新機能を学習する・データの入力規則を学習する	
11	Power Pointの基本操作 プレースホルダーへの入力・スライドの追加・箇条書き・デザイン・アニメーション・画面切替効果について学ぶ	
12	P:画像の書式設定・印刷設定／課題作成 取り込んだ写真等に書式を設定するノット機能・配布資料としての印刷方法を学ぶ／課題作成	
13	P:課題作成 課題を作成する	
14	W:基礎編の復習 前期で学習した内容を元に、作品を完成させる	
15	E:基礎編の復習 前期で学習した内容を元に、作品を完成させる 前期テスト	
16	P:プレゼン スライドショーの機能を学習し、各自リハーサル機能を利用して、作成済の課題を発表する	

授業の方法	
講義 (演習) 実験・実技・実習	
授業概要	
パソコンを使用し、ビジネスソフトの使用方法を学びます。様々な書式、表やグラフの作成、プレゼンテーションの資料などを制作します。また、DTPでは業界標準のIllustratorやPhotoshopの基本操作を学びます。<実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期 到達目標	
●Officeソフトの機能を使いこなす ●考えて資料を作成することができるようになる	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト(その他)	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	フォルダ操作 フォルダ操作と他のソフト(ペイント)との連携 その他スクリーンショット機能
2	W:見栄えの良い文書の編集 (段組み・改ページ・タブとリーダー・インデント・ページ罫線・ページ番号・置換)
3	W:図形描画の応用・Excelデータの利用 複数の図形を組み合わせて文書を作成する
4	W:課題作成1 複数ページにわたる文書の作成
5	W:グリーティングカードの作成 年賀状、クリスマスカード、誕生日カード、バレンタイン、暑中見舞い、様々なレイアウトを考える
6	P:アニメーションを組み合わせる・プレゼンとは 開始・強調・終了・軌跡を組み合わせる効果的なプレゼンの仕方を学習する／企画を考える
7	P:企画書作成 今まで習得したことを応用し、各自でテーマを決め企画書を作成する
8	P:企画書作成 今まで習得したことを応用し、各自でテーマを決め企画書を作成する
9	P:リハーサル・発表 リハーサルを入念に行うプレゼンを行う・他人の作品の評価をする
10	P:発表 プレゼンを行う・他人の作品の評価をする 総復習
11	E:復習 前期で学習した内容を元に、表を完成させる
12	E:表の活用 (表示形式・入力規則・シートの保護)入力を補助する機能や、見栄えの良い資料の作成方法を学ぶ
13	E:課題作成 これまで学習した機能を利用し、課題を作成
14	後期テスト 後期で学習した内容を元に、作品を完成させる
15	後期テスト振り返り

授業科目		授業時数
ソーシャルメディア		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
松本 みさえ ソーシャルネットワークサービスの幅広い知識、パーソナルコンピューター、ビジネスソフトの指導員として経験豊富		
前期 到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットの基礎を理解する ●twitter, facebook, ブログの利活用 ●ホームページ作成WEBサービスの利活用 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価・小テスト・その他)		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス	授業の全体像ねらいを把握する。 年間の授業の流れの説明
2	ウェブサービスの活用①	Googleアカウントの作成しGmailのアドレスを取得する。 また、Google Appsの活用についての説明を行う。
3	インターネット概要(1)	ホームページの仕組み・基本的なつくりについて
4	インターネット概要(2)	ホームページとWEBサービスの違いについて
5	インターネット概要(3)	検索の仕組み / ソーシャルメディアの種類について
6	ウェブサービスの活用②	音楽業界のWEB活用、ソーシャルメディア活用 インターネットでのマナーについて
7	SNSの活用①	twitter登録・基本操作説明 / 活用方法
8	SNSの活用②	facebook登録・基本操作説明 / 活用方法
9	SNSの活用③	facebookページ作成
10	SNSの活用④	ブログサービス登録・基本操作説明 / 活用方法
11	SNSの活用⑤	音楽イベントに向けての取り組み プロモーション計画
12	オリジナルホームページ作成	1ヶ月程度かけてWEBサービス(wordpress)を利用したオリジナルホームページの作成をしていきます。
13		
14		
15		
16	SNSの活用⑥	音楽系ソーシャルサイトの利用 (Myspace / Audibleaf)

授業の方法		
講義 (演習) 実験・実技・実習		
授業概要		
コミュニケーションツールであるソーシャルメディアの利活用について学びます。イベント広報等で実際に使用しながら、HPを含むSNS等の情報発信技術の理解を深めます。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:		
後期 到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ・SNSでの使用素材の入手・作成 ●イベントサイト作成WEBサービスの利活用 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価・小テスト・その他)		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	インターネット概要(4)	WEBでの画像フォーマット及び著作権についての説明。
2	掲載コンテンツ	ホームページ掲載コンテンツの入手・作成・使用方法について勉強していきます。
3		
4		
5	Youtube	Youtube登録の仕方や基本操作説明、活用方法を学びます。
6	プロモーション	イベントに向けての取り組みとしてプロモーションを行うための計画を作り、UPしていく方法を学びます。
7	イベントプロモーション用ホームページ作成	実際に行うイベントのプロモーション的内容をUPLしていきます。まずは、イベント内容と日程、アーティスト、会場、料金等、フライヤーで使用した情報等もプラスとして収集します。
8		出演アーティストホームページの作成(1)
9		出演アーティストホームページの作成(2)
10		出演アーティストホームページの作成(3)
11	WEBサービスについて	WEBサービスを利用したイベントサイト作成(1)
12		WEBサービスを利用したイベントサイト作成(2)
13		WEBサービスを利用したイベントサイト作成(3)
14		WEBサービスを利用したイベントサイト作成(4)
15	総括/FOLLOW	振り返り・まとめ

授業科目		授業時数
音楽ライターゼミ		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
エイミー野中 音楽ライター歴25年超。音楽シーンの第一線で活躍し、アーティストのインタビューやレポートをしてきた		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●アーティスト紹介ができる ●インタビューができる ●文章力や分析力を養う 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト(その他)		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス イントロダクション	音楽ライターゼミの全カリキュラム、音楽ライターの仕事についての説明をする。
2	interview取材と現場	接遇とヒアリングの為に準備、書き留める力を養う内容。そして基本的な書き方や留意点について説明する。
3	アーティスト紹介①	まずは個々が、自分が選んだアーティストの情報を収集する。雑誌・音源・物販関連・その他のメディア情報、SNS関連等を含めたかたちでアーティスト紹介のための原稿を作成していく練習をする。
4	アーティスト紹介②	
5	アーティスト紹介③	
6	アーティスト紹介④	クラス内での「アーティスト紹介」のプレゼン発表を行い、その内容についてディスカッションできるようにしていく。
7	アーティスト紹介⑤	
8	アーティスト紹介⑥	
9	インタビューについて	インタビューについての事前準備や手順、留意点について説明していく。
10	インタビュー シミュレーション①	模擬インタビューとして学生がアーティスト側とインタビュー側のそれぞれ担当しながら進めて行く。
11	インタビュー シミュレーション②	
12	インタビュー シミュレーション③	
13	原稿作成①	インタビューで書き留めた内容を実際の原稿にしていく作業を行っていく。
14	原稿作成②	
15	前期試験	
16	前期まとめ	いかに、良い印象やイメージを抱くことができる紹介テキストが書けるかというポイントについて復習。

授業の方法	
講義 (演習) 実験・実技・実習	
授業概要	
文章力の向上を目指し、アーティストインタビュー、CDレビュー、ライブレポートなどの原稿作成を学びます。指定されたフォーマットでの原稿制作やリライト技術も身に付けます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●アーティスト紹介ができる ●インタビューができる ●文章力や分析力を養う ●ライブレポートが書ける 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト(その他)	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	「音楽」を取り上げた文章表現 後期は、interview以外の内容として「音楽」を題材とした様々な内容を取り上げていく。
2	音楽雑誌からのPU① 個々が選んだアーティストに関しての略歴をまとめる。Webで調べたテキスト内容も参考にして、再度、そのアーティストのプロモーションポイントやイメージを語る部分をしっかりと理解してコピーライトしていく。
3	音楽雑誌からのPU② 先週選んだアーティストの写真を準備して、Office wordの段組みレベルで1ページにまとめるため全体レイアウトを考える。
4	音楽雑誌からのPU③ テキストとフォトを組み合わせて、音楽雑誌風の誌面を制作してみる。
5	専門的な言葉と表現① 音楽関連のレビューで使用される単語やことばについて学ぶ。選んだアーティストが憧れたアーティスト、楽器、機材、コンサート、音楽の考え方等、普通の雑誌には出てこない言葉が一杯ある。
6	専門的な言葉と表現② ↓
7	課題音源からのCDレビュー制作① 指定された日本の歴史的名盤を聴いて、歌詞の内容、曲のイメージ、アーティストの演奏等を自分の表現でテキスト化していく。
8	課題音源からのCDレビュー制作② 指定されたロックの歴史的名盤を聴いて、先生からのプレゼンテーションを行い、自分の表現でテキスト化していく。
9	課題音源からのCDレビュー制作③ 指定されたここ5年以内のヒット曲を聴いて、歌詞の内容、曲のイメージ、アーティストの演奏等を自分の表現でテキスト化していく。
10	課題音源からのCDレビュー制作④ ここ最近のヒット曲を聴き、先生からのアーティストイメージのみの情報で個々がテキスト表現していく。
11	課題映像からのコンサートレポート① 自分の選んだアーティストのコンサート映像を見て、コンサートレポートを書く。実際に演奏された曲目やコンサートのスタート模様、アンコール、終演の様子等リアルに書いてみる。
12	課題映像からのコンサートレポート② 指定されたロックの歴史的記録等を見て、その内容をテキスト化していく。
13	課題映像からのコンサートレポート③ 指定された邦楽音楽の映像を見て、その内容で次のコンサートパンフレットに掲載するためのテキストを書いてみる。
14	後期試験
15	総括&FOLLOW 学習した内容を使って、いろいろな文章やプレゼンができるように汎用性の理解を考えたフォローを行う。

授業科目		授業時数
DTP		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
山崎 美樹 いろんなアイデアを検討して、より良い作品創りを指導。イベント媒体としてのスケジュールに切に沿った納品までを教育してくれる。		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●Illustratorの基本操作を習得する ●Photoshopの基本操作を習得する 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	Illustrator基本ツール アドビ社のIllustratorについて基本的な内容を勉強していく。ディスプレイでの表示や作業デスクトップの仕様を触りながら確認していく。	
2	ツールの基本 図形ツールを使用して簡単な絵を作成していく。マウスやカーソルとの感覚的なものも同時に慣れるようにしていく。	
3	文字ツール 図形・文字ツールを使用dw名刺を作成。文字サイズ・フォントや横書き・縦書き等の操作を理解する。	
4	レイヤー操作と構造① 同一軸に現れるレイヤーの切替を行いながら、部署・役職・氏名等が違う名刺を9枚綴りを作成していく	
5	レイヤー操作と構造② (4週目から継続)仕上げ	
6	ペンツール作業① レイヤーに下絵を入れ込み、ペンツールを仕様して、上から別レイヤーに書き取っていく作業を行い、滑らかな線を描く練習をする。	
7	ペンツール作業② (6週目から継続)	
8	Photoshop[着色] 6、7週の下絵画像をPhotoshopに取り込み、着色する作業を行う。	
9	イラストレーション作品制作 6、7、8週の下絵と画像を統合、仕上げ	
10	地図作成 アピアランスを使い分け、地図を描く	
11	案内用フライヤー作成① テキスト原稿から文字起こし、画像配置や地図を挿入、ライブフライヤーを作成していく。	
12	案内用フライヤー作成② (11週目から継続)	
13	案内用フライヤー作成③ (11週目から継続)仕上げ	
14	ロゴデザイン タイトル等のロゴデザイン等で使えるような線取り、影、囲み等をつける練習を行う。	
15	まとめ 1~14週でを使用したツールを駆使しての試験課題	
16	自由課題 絵文字素材を使い自身の好きな楽曲のCDジャケットをデザインしていく。	

授業の方法	
講義・(演習)・実験・実技・実習	
授業概要	
広報媒体制作やプロモーション手段として必要となるコンピュータソフトのIllustratorやPhotoshopの基本操作を学んでいきます。この授業は、他の制作実習にも連動していく内容となります。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●誌面、CDジャケットのデータ制作を行う ●作品の完成度を高める 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	Photoshop [簡単な画像調整] Photoshopで画像を切り取り、統合保存。Illustrator上でトリミングしてカードをデザインをしていく。
2	制作作業① (1週目から継続)
3	制作作業② (1週目から継続)仕上げ
4	デスクトップの整理 Illustratorの移動パレットを使い、効率よくデザインする方法を学ぶ。PCディスプレイの大きさによっても、作業のスムーズさは変わるので、自分の視覚範囲の理解は意識したい。
5	テキスト原稿流し込み作業 (4週目から継続)ダミー文字で組んだデザインに、テキスト原稿を流し込む
6	Photoshop[配置と加工] (4週目から継続)Photoshopで配置画像に着色。色々な色彩調整等も学んでいく。
7	Illustrator/Photoshop 同時進行作業 (4週目から継続)IllustratorとPhotoshopを同時進行させる、仕上げ作業
8	雑誌広告① テキスト原稿から文字起こし、使用画像を自身が選び雑誌広告を作成していく。画一化されやすいデザインの中、個々のバランス感覚やレイアウト感を磨いていく。
9	雑誌広告② (8週目から継続)
10	雑誌広告③ (8週目から継続)仕上げ
11	素材を取り込む作業 絵素材を使用しながらクリスマスカードをデザインしていく。季節に現れるカラーリング等も学んで行く。
12	CD制作① CDジャケット両面、サイドキャップ、盤面をデザインする。リアルな感覚を持ってもらうために、outlineされたロゴや指定素材は配布して、バランスを磨いていく作業を中心に行う。
13	CD制作② (12週目から継続)
14	CD制作③ (12週目から継続)試験課題として提出
15	まとめ 前期・後期の内容を復習

授業科目		授業時数
マネージメント		124
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
西川 勢二郎 現場で現れる色々な条件を仮定してマネージメントの基本から応用までをしっかりと指導頂ける。		
前期		
到達目標		
●A&R業務の理解 ●プランニング構築の基礎&体得		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	マネージャー業務について マネージャー業務についての説明及び、マネージャーの本質を知るような事例も知ってもらおう。	
2	音楽業界について① 音楽業界の構造とマネージャーの関わり方 全体像1	
3	音楽業界について② 音楽業界の構造とマネージャーの関わり方 全体像2	
4	A&Rという仕事 アーティストとA&Rとマネージャーでコンセプト設計。※ Artists and Repertoire (アーティスト・アンド・レパートリー)は、アーティストの発掘・契約・育成とそのアーティストに合った楽曲の発掘・契約・制作を担当するもの	
5	楽曲コンセプトと音の方向性 楽曲(商品)ができあがる前 商品コンセプト開発 クリエーターへの楽曲発注	
6	プリプロとレコーディング 楽曲(商品)ができあがる途中にある商品プロモーション計画、レコーディング中に考えられるマネージメント	
7	イメージ戦略 ビジュアル展開、HP、パッケージ、PV、宣伝素材等、より多くのオーディオエンスに知ってもらい、印象に残るもの、購入をしてもらうための工夫を考えていきます。	
8	具体的なプロモーション 楽曲(商品)が完成したら 商品プロモーション実施 商品リリースまでに何をやる	
9	マネージャー業務 立会い、チェック、ブランド管理、マネージャーとしての営業	
10	ファンクラブ ファンクラブの立ち上げとその目的、一般的な手法と管理を学びます。	
11	アーティストに求めるもの アーティスト自身の商品開発 ライブ・イベント	
12	グッズ等の派生商品 楽曲以外のアーティスト派生商品の開発	
13	ライブ・イベント・ツアーにおける活躍 ライブ・イベント・ツアーでは、マネージャー業務の手腕が問われます。	
14	著作と予算管理 予算管理、著作権の知識を学び、現場でのリスクヘッジも考えていきます。	
15	業界内での間接的な関係者 全体を再度見渡し、マネージャー業務の位置付けを考えます。	
16	総復習	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技(実習)	
授業概要	
アーティストの発掘や育成、スケジュールなど、プロダクション業務を学習します。またレーベルの業務、プロモーション、ファンクラブ運営、各メディアの特性や著作権についても学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
●PR業務の理解 ●プランニングの実践行動&体得	
評価方法	
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	シミュレーション【コンセプト設計】 ↓ 仮想アーティストのコンセプト設計を行います。各個人が考えるもの、グループで話し合い、今の流行を追求、研究して、そのアーティスト像を考えていきます。
2	
3	シミュレーション【商品開発】 ↓ 上記の仮想アーティストの商品開発を企画していきます。音楽内容、アーティストが持つキャラクターや類似しそうなアーティストとの差別化等を考え込んだものを立案します。
4	
5	シミュレーション【プロモーション】 ↓ 仮想アーティストのプロモーション計画を検討します。オーディエンスに写るイメージを想定しながら、露出方法、媒体の選択等を話し合います。
6	
7	シミュレーション【紙媒体】 ↓ 仮想アーティストの紙資料作成(プロフ・チラシ・ジャケット・盤面)を創り上げていきます。そのアーティストのイメージが映り込む紙媒体は、大切なプロモーションです。
8	
9	レコーディングディレクター及びプロデューサーとの折衝 アーティスト自身が持っているイメージや音作りを理解するために、マネージャーとしても音楽的な見解を持てる努力をしていきます。まわりのミュージシャンにも配慮が必要です。
10	レコード会社プロモーターとの折衝 アーティストイメージをしっかりと共有できることは、とても大切な内容となります。やはり、アーティスト発言、レコード会社プロモーション、マネージャー対処等、一環したものが有益です。
11	マネージャー業 仕事を進める上で、自分自身が考えるアーティストの売り込み、関係各社との繋がりを経験を元に伝える。やはり、「素晴らしいアーティスト」には決まって敬服マネージャーです。
12	ポップ作成作業 仮想アーティスト(後期1~8)のポップ作成
13	レコーディング工程 プリプロ・レコーディング体験
14	企画制作内容プレゼン 各グループの仮想アーティスト制作物発表
15	総復習

授業科目		授業時数
企画制作		62
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
<p>小池 敏 演奏者・作家として複数のメジャー契約。イベント主催者として多数のイベントを制作。プロダクション業務の経験もあり業界経験が多岐にわたる。</p>		
前期		
到達目標		
<p>製作者としての感覚をつかむ 制作の仕事の進め方</p>		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス① イベント実施に向け、制作者としての考え方、ステージ関係の基礎知識、イベント制作にかかわる資料作成を学ぶ	
2	ガイダンス② ・企画書 ・タイムテーブル ・運営マニュアル	
3	ガイダンス③ ・進行台本 ・セッティング表	
4	音楽イベント制作① ベーシックな音楽イベントを素材として、実際に資料作成等の準備作業を行います。ここではシンプルな内容で全体の流れをつかみます。	
5	音楽イベント制作② ・公演概要、プレゼンテーション資料作成 ・ステージ進行、アーティスト管理、来場受付の各セクション業務	
6	音楽イベント制作③ ・担当者自身、各セクションの動きの中から振り返り	
7	音楽イベント制作④	
8	音楽イベント制作④	
9	企画制作イベント① 共有スペース等を利用した小規模イベント制作。アイデアからの企画立案に重点を置いて進めていきます。	
10	企画制作イベント② ・企画書 ・プレゼンテーション資料作成 ・タイムテーブル作成	
11	企画制作イベント③ ・MC台本作成 ・集客の工夫	
12	企画制作イベント④ ・ステージ進行、アーティスト管理 ・担当者自身、各セクションの動きの中から振り返り	
13	企画制作イベント⑤	
14	学園祭制作① 学園祭に向けた企画制作。人を呼び込むためのコンテンツを企画していきます。	
15	学園祭制作② ・企画のアイデア出し ・集客の工夫～SNS ・イベントプレゼンテーション	
16	学園祭制作③	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
<p>実践的に企画制作を実施する授業。学内の様々な施設を使い、ライブイベントの企画、制作、実施を通し、制作者としての感覚や仕事の進め方を身に付けます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞</p>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<p>イベントを企画し、実施に向けた制作が出来る イベント実施の進行業務の理解</p>	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	学園祭制作④ 学園祭のライブイベント制作、コンテンツ制作を行います ・コンテンツ企画
2	学園祭制作⑤ ・ライブ出演者情報、コンテンツ情報の発信 ・タイムテーブル ・進行台本
3	学園祭制作⑥ ・音響・照明との連携 ・出演者への対応
4	学園祭制作⑦
5	学園祭制作⑧
6	ライブハウスを想定したイベント制作 ライブハウス規模のスペースを想定したライブイベントの企画制作。コンセプトから出演者募集を行い学内外からの集客を考えます。
7	・コンセプト～企画立案 ・イベントプレゼンテーション ・出演者募集告知
8	・タイムテーブル作成 ・進行台本作成/MC台本作成
9	・出演者の対応 ・音響/照明との連携
10	・集客の工夫 ・ステージ進行、アーティスト管理
11	HALLを使用するイベント制作 HALL規模で行うコンサート企画制作年度末実施のコンサートイベントを企画
12	・コンセプト～企画立案 ・イベントプレゼンテーション ・出演者募集告知
13	・タイムテーブル作成 ・進行台本作成/MC台本作成
14	・出演者の対応 ・音響/照明との連携
15	・集客の工夫 ・ステージ進行、アーティスト管理

授業科目		授業時数
音響実習		32
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
豊島 芳樹 ホール音響、音楽録音、ラジオ番組制作、設備・メンテナンス等あらゆる形態の音響現場を経験しており、それぞれの形態を詳しく教授する。		
前期		
到達目標		
音響用語、ステージの基礎知識を身につける ●ケーブル巻きを習得する ●マイクスタンドの立て方を取得する ●スピーカースタンドの立て方を習得する ●ドラムセットの組み立て方を理解する		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	●PAについて PAの役割を学んでいきます。 また授業に際しての安全管理や注意事項の説明、教室の説明も行います。	
2	●ケーブル巻き PAに必要なケーブルの巻き方(ハの字巻き)の意味と方法を知り、その習得にあたっての練習を繰り返して行く。	
3	●マイク、マイクスタンド マイクの種類や使用シーンを覚え、また取り扱い方法についても解説する。 合わせて、マイクスタンド、小規模な現場で使用されるスピーカースタンドの組み立て方、取り扱い方も学ぶ。	
4	●スタンド式スピーカー、パワーアンプ 小規模PAでよく使用されるスタンド式スピーカーの立て方を学び、ひとりでスタンド式のスピーカーが立てられるようになることを目標とする。またPAの現場で実際に使用されているパワーアンプの接続方法を学んでいく。そして、実際にどのような役割を果たしているのか実習を通して理解していく。	
5	●マルチケーブル マルチケーブルの仕組みと用途を学び、またそれをきれいに巻き取るための巻き方を習得します。	
6	楽器基礎 ドラムセットを使用し、その特徴や注意すべき点を理解し、実際にセッティングをしてみます。	
7	楽器基礎 ギター、ベース、キーボードなどを実際使用し、PAの観点から気を付ける点を解説します。合わせて各アンプ類の使用法や特徴も理解していきます。	
8	基礎総合復習1 前半までで学んだことの復習として実際にマイクやスピーカーを結線していき、定着させていきます。	
9	基礎総合復習2 前半までで学んだことの復習として実際にマイクやスピーカーを結線していき、楽器もセッティングします。	
10	舞台用語について 現場でよく使用されている用語や装置の名称などを用途と併せて学んでいきます。 またバンドのセッティングや、セッティング図の書き方、読み方も学びます。	
11	●システム構築① 現場でも使用されるPA回線表の読み方を学び、実際に小規模PAシステムを組んでいきます。	
12	●システム構築② 小規模システムの組み立て、ばらしの練習	
13	●システム構築③ 小規模システムの組み立て、ばらしの練習	
14	●システム構築④ 小規模システムの組み立て、ばらしの練習	
15	実技テスト	
16	●システム構築④ 小規模PAシステムを組み立て、カラオケができるセッティングを行っていきます。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
ライブイベントを運営していく上で必要となる音響に関する基礎知識を学びます。音響機器類の扱い方を身につけ、音響スタッフとの打ち合わせや進行スケジュール作りに役立ちます。(前期:音響/後期:照明) <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
評価方法	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
照明実習		30
学年	学科	専攻
1	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
川原 正弘 照明技術者として、イベント制作の流れに沿ったかたちで舞台・照明を教え込み、全体を見渡せる技術者を養成する。		
前期		
到達目標		
評価方法		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・ 実習	
授業概要	
ライブイベントを運営していく上で必要となる照明に関する基礎知識を学びます。照明機器類の扱い方を身につけ、照明スタッフとの打ち合わせや進行スケジュール作りに役立てます。(前期:音響/後期:照明) ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
●機材の名称、効果を理解する ●吊り仕込みを理解する ●置き仕込みを理解する ●シュートを理解する	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・ その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	オリエンテーション 作業での安全基準の説明をし舞台機構や名所、器具の取り扱い方法を解説する。
2	調光周辺機器について① 調光ユニット、D/Aコンバータ、調光卓の接続方法を説明し、それぞれの器機の役割を解説し学習する。
3	ライトの種類について ステージで使われるさまざまなライトの種類について学習します。
4	調光周辺機器について② 調光操作卓を操作する中で一番基本となるフェーダーパッチとABフェーダーの概念を学習する。
5	吊り仕込みの基礎① SUSでの吊り込み方法を学習する。まずはハンガーや落下防止ワイヤーなど安全対策について学び、回路の仕組みについて学習する。
6	吊り仕込みの基礎② (パッチ等) SUS仕込みでの2又ケーブルを使用した回路取りを学習する。また、仕込み図の読み方も学習する。
7	吊り仕込みの基礎③ SUS仕込みでの延長ケーブルと二又を使用した回路取りを学習、シュート作業も行う。
8	置き仕込みの基礎① 置き仕込みで使用する。スタンドとオベタの取り扱い方法を説明し実際に作業を行う。置物を仕込む事に当たってのケーブルのはわせ方を説明し作業を行う。
9	置き仕込みの基礎② ハイスタンドの構造と器具のセッティング、配線方法を実践し学習する。
10	トータルな仕込作業① 吊り仕込みから置き仕込み、シュートまで一連の作業を行う。仕込みの手順など確認しつつ確実にできるように学習する。
11	トータルな仕込作業② ↓
12	ピンスポットライト 1kwクセノンピンスポットライトの構造と操作方法、バルブの交換方法を学び、基本的な操作の練習をする。
13	試験対策 試験対策として、今まで学んだ内容を復習しながら、仕込みを行います。
14	後期試験
15	半年間のまとめ 今までに、学んだことの復習をしていき、ライブイベントなどでの照明の重要性を解説していきます。

授業科目		授業時数
音楽業界概論		62

学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻

担当講師(プロフィール)	
小池敏 演奏者・作家として複数のメジャー契約。イベント主催者として多数のイベントを制作。プロダクション業務の経験もあり業界経験が多岐にわたる	

前期 到達目標	
音楽業界のみならず広く一般に通ずる社会常識を理解する	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	

授業計画	
授業項目	実施内容
1	年間スケジュール 2年生の年間スケジュールの説明、就職対策講座や会社説明会等の仕組みとその内容を改めて解説します。
2	検定試験 再度、検定試験等の受験を説明、2年間で色んなものを勉強して検定取得を目指します。
3	面談(就職活動相談) 個々に時間を取って、方向性・活動状況・家族の同意・自分自身が迷う事等をリサーチしていきます。
4	面談(就職活動相談)
5	面談(就職活動相談)
6	CD制作の仕組み① CD制作工程を、レコーディング(原盤制作)も入れて理解していきます。企画、楽曲A&R、アレンジ企画、ミュージシャンPU、スタジオ、エンジニア、ジャケット撮影、リリース等、商品を作るために沢山の人が動きます。
7	CD制作の仕組み② プレスされたCDが、どのようなかたちで流通するのか? また、売上げはどういう方法で加算されるのか等、制作～流通、消費者に届くまでを勉強します。
8	検定試験対策① 模擬試験等を用意して実際に実施をします。採点は、学生自身もしくは隣同士で採点を行い、弱い部分等をPULしていきます。
9	検定試験対策② 別問題の模擬試験を用意して実際に実施をします。採点は、学生自身もしくは隣同士で採点を行い、弱い部分等をPULしていきます。
10	プロダクションにやイベント制作について 実際の現場では、まずイベント・コンサート・(レコーディング)等の企画を起こして「実施を企てる」ところからスタートします。皆さんの現場は、その後発注されるものでもあります。
11	舞台制作会社について イベントホールやコンサートホールの管理についての仕組みを学びます。また、野外特設等で何も無いところからステージを製作していく会社の存在にも着目します。
12	照明会社について 照明会社のホール管理部門、イベント特設部門等の仕組みについて理解を深めます。
13	映像関連について 映像に関しては、TV局の撮影・収録・編集(送出)やイベント現場でのスクリーン設置、映像収録やライブ中継等、多岐にわたります。
14	総復習 個々の方向性をしっかり固めて、就職活動をしていきます。その為の補足的内容も付け加えて行きます。
15	前期試験
16	FOLLOW 研修先等での行動をしっかり行い、自分が吸収した内容を見直し、後期に臨みます。

授業の方法	
講義 演習・実験・実技・実習	

授業概要	
音響関連企業、照明関連企業、映像関連企業、プロダクション、レーベル、レコード会社等、多岐にわたる業界関連企業を理解して、個々の就職に向けた活動に役立てていける概論です。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	

後期 到達目標	
最終教育機関として相応しい教育を身に着ける	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	

授業計画	
授業項目	実施内容
1	音楽配信の仕組み① CDの流通は激減、配信によって音楽が購入されていきます。基本的な流れを理解してもらい、今後の変化にも対応します。
2	音楽配信の仕組み② 音楽配信のおかげで今まで、知ることができなかった、様々なミュージシャンたちの演奏も見ることが出来ます。各国のアーティストが発信を続けて行く限りない世界に突入している現状です。
3	裏方に対するの表方[運営]について ステージ上もしくは、ステージに関連する内容を行う裏方さんと、そのイベントやコンサートを観覧するお客様の案内・誘導を行う「表方」が存在します。みんなの仕事は、そのチケット代で成立しています。
4	学園祭準備① 音楽ビジネス専攻1、2年が協力して、学園祭制作内容を支えています。そのための配分や担当を考えて進めていきます。実行委員会からの情報を共有します。
5	学園祭準備② 他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表していく可能性があります。
6	学園祭準備③ 現場を仕込む段取り、事前に作られたプランを参考にみんな協力していく体制を作っていく、本番に臨みます。
7	面談(就職活動相談) 時期的には、最終の就職相談時期となります。再度、方向性・活動状況・家族の同意・悩む内容に対してキャリアスタッフと共に相談していきます。
8	面談(就職活動相談)
9	オリジナリティ 自分にあると信じたい「オリジナリティ」の勉強です。意外に音楽内容では無い可能性もありますが、自分の長所を見極めていけると嬉しく、自信にも繋がってきます。
10	プレゼンテーション1週目 2週に渡って、「自分の将来像」を自分なりにまとめ、自己分析も含め、自分の説明を考えてもらい、発表する場面を作っていきます。
11	プレゼンテーション2週目
12	これからの音楽業界 皆さんが進む音楽業界ですが、また5年もすれば、流行りもシステムも変化していきます。ただ、過去の流行を辿ると、この先が見えるかも知れません。
13	総復習 作業も含まれ、自分の周りの専攻だけではない状況で作業をしていきます。就職に役立つ内容として理解してください。
14	前期試験
15	FOLLOW 任される内容に対して答えていける実力を培ってもらえれば大丈夫です。現場は「人」ありきのものなので、コミュニケーション力をUPさせる努力をしていきましょう。

授業科目		授業時数
音楽技術論		62
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
西川 博美 一般社団法人 日本イベント産業振興協会 イベント業務管理士資格試験指導員 様々なイベントを運営・管理・制作する		
前期 到達目標		
プレゼンテーションの基礎		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	自分の現状技量を理解 「自己紹介」という自分自身のプロモーションをやってみます。現状の自分の能力の「自己紹介技量」を理解しましょう。	
2	プレゼンテーションについて その目的を知ってもらいます。資料作りとしてTitle・コピー・グラフ・イラスト・図解・写真等を使うこと、また適切な言葉や伝えた方も踏まえた印象度で承認されようとする事項は大きく動くものになります。	
3	コミュニケーション コミュニケーション&ビジネスコミュニケーションについての理解を深めていきます。	
4	ハウレンソウ ビジネス用語として一般的な報告・連絡・相談について勉強します。	
5	チームワーク いろんな情報収集や判別・処理していくために自分ひとりでは出来ないものも多くなってきます。チームとして動く責任を学んでいきます。	
6	情報について 情報収集は、一般的なインターネットだけでは薄いものです。現地取材・アンケートやヒアリング等も必要となってくるものなので、その収集法やまとめ方を知ります。	
7	広告 広告・宣伝というものの特徴や費用、そして実際の効果・効力を再認識します。	
8	プレゼン制作課題① 「自分の町をみんなに紹介しよう!!」という内容の個人別プレゼンテーションの資料制作を行います。個人が紹介するための「説明内容箇条書き」等の資料も合わせて作ります。 ※個人が自分のよく知っている内容をまとめて自分で発表する。	
9		
10		
11		プレゼン・総評
12	プレゼン制作課題② 「商業施設」の販売促進企画を考えます。 ※ふたり組で話し合いを行い企画内容を作り上げ、協力して発表プレゼンを行う。	
13		
14		
15		
16		プレゼン・総評

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
イベント企画や制作知識を深め、自らプランニングした企画を繰り返してプレゼンテーション。自己の意思・考えをわかりやすく相手に伝えるコミュニケーション能力の向上を目指します。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期 到達目標	
プレゼンテーションの応用	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	プレゼン制作課題③ 「企業用プレゼン」として、与えられた仕事の内容のプレゼン資料を作成してもらいます。 ※前回と違うふたり組で話し合いを行いプレゼン資料を作成。但し、別のグループからプレゼンターとなる学生を選び、その内容に関しては事前説明をして、当日のプレゼンを行う。
2	
3	
4	プレゼン・総評
5	プレゼン制作課題④ 他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表していく可能性があります。
6	※クラスに2チームを作り、互いの「地域活性化イベント」を企画していきます。多い人数で行うかたちとなるため、プレーストリーミング等の概念を知ってもらいます。そして、企画を煮詰めチームとして作業の分担を行います。
7	※企画内容、プラン～実施の整理、Powerpoint上の構成等を分担して作成していきます。
8	
9	プレゼン・総評
10	プレゼン制作課題⑤ 【卒業制作】個人が選ぶ自由課題となります。企画～内容の制作過程、計画からもたらす効果・効力を考え研究していきます。
11	※最終課題として、Powerpointデータ、説明resumeとしての要約版資料、個人のプレゼンテーション等が課題として作成して頂きます。
12	
13	
14	プレゼン・総評
15	まとめ

授業科目		授業時数
技術演習		124
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
山田 敏子 他 「現代マナー研究会」代表。ビジネスマナー研修を軸に関西を中心企業・団体・大学等で人材育成に携わる。		
前期		
到達目標		
就職活動での基本的な教養		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	授業概要の説明・動機付け この授業の趣旨、目的を理解し、学生生活と職場の違いや仕事の取り組み方について説明し、この1年で達成したい目標を設定する。	
2	社外文書の書き方 履歴書等、企業へ書類を郵送する際のカバーレター(添え状)を決められた形式に沿って書けるようにする	
3	封書・はがき・ビジネスメールの書き方 企業へ郵便物やメールを送る際に、正しくルールに沿った書き方ができるようになる	
4	SPI・適性検査・筆記対策 本番で戸惑わないよう事前に演習を行う	
5	面接のマナー 面接室での立ち振る舞いや言葉遣い、座席の順位などを学び、就職活動時の面接に備える	
6	模擬面接 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を話し合い深める	
7	自己診断チェック 人物本位と言われる面接で自分自身について聞かれる質問を想定し、いかにポイントをおさえてアピールするかを学ぶ。	
8	企業診断・学生診断チェック 会社に関してどういった項目を調べ準備すれば良いか、また学生生活について聞かれるであろう内容について準備する。	
9	一般教養チェック・身だしなみ他 当日の注意 一般教養に関して聞かれる内容の準備、第一印象の重要性、当日の持ち物や控室などでの注意事項を学ぶ。	
10	名刺交換 名刺の渡し方や受け方、名刺を切らしている時などの対処法の仕方等、実践を取り入れながら学習する。	
11	敬語の基本1 ビジネスにふさわしい言葉や尊敬語、謙讓語、丁寧語の使い分けを学び、実践できるよう理解する。	
12	敬語の基本2 二重敬語などの誤った使い方や、ビジネス上での人の呼び方を学び実際に場面を設定して実践する。	
13	敬語の応用 お客様に対する接遇用語や使い方を学び、実際に場面を設定して実践し、注意点、問題点を話し合い深める。	
14	電話対応 電話対応で会社のレベルも判断されるということから正しい電話の受け方やかけ方、取次ぎ方などを説明し実践を取り入れながら学習する。	
15	前期試験	
16	電話対応応用 不在時に行き届いた臨機応変な応答の作成、また苦情電話を上手に受け、固定客につなげる手法を実技を取り入れながら学習する。	

授業の方法	
講義 (演習) 実験・実技・実習	
授業概要	
音楽業界人として相応しい技術を様々な演習により学んでいきます。知識、文章作成能力、パソコン操作など多角的に学ぶことにより企画書、提案書類の作成など制作者としてのスキルを身に着けます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
社会人としての基本的な教養	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	就職活動振り返り これまでの活動を振り返り、良かったところ足りなかったところを分析し、今後に活かして結果につなげる
2	グループ面接模擬 グループ面接時での立ち居振る舞いを確認し、質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け深める
3	模擬面接フォローアップ① 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を話し合い深める
4	模擬面接フォローアップ② 質疑応答を交えながら実践形式で行い、各人に合ったアドバイスを受け、注意点や問題点を話し合い深める
5	指示・命令の受け方 他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表していく可能性があります。
6	報告の仕方 ビジネスでは欠かせない口頭・文書による報告の仕方や信頼されるための報告のポイントを学習する。
7	コミュニケーション(エゴグラム・傾聴スキル) 公私共に他者と良い信頼関係を築くために自己の対人傾向を掴み、傾聴スキルを習得する
8	コミュニケーション(アサーション) ビジネスでもプライベートでも自己と他者ともに尊重した意見の主張の仕方を習得する
9	来客対応・訪問のマナー 自社に来たお客様を親切・正確・迅速・丁寧にお迎えし、また他社を訪問した際にもマナーに沿った振る舞いができるようになる
10	ビジネスでの茶菓のマナー 自社に来たお客様をもてなし、ホスピタリティが伝わるお茶の出し方、他社を訪問した際のいただき方を学ぶ
11	是非知っておきたいテーブルマナー ビジネスで人と会食を共にすることは人間関係を築く上でも重要である。周囲を不快にさせない会食のマナーを身に付ける
12	ビジネスでの贈答の心得 慶事や弔事のマナーを知り、将来仕事でも発生する場合に備え贈答の種類や贈る期間、熨斗や金封紙それぞれの使い分けを学ぶ
13	学生と社会人の違い 顧客意識・コスト意識等、社会人としての心構えを持ち、スムーズな社会生活のスタートを切るためグループで討論しまとめて発表する
14	後期試験
15	後期試験返却と解説 立食パーティーのマナー 会社の各種行事では立食パーティーが主流である。歓談を目的とし、マナーをわきまえた振る舞いを身に付けるよう実技を交えて学ぶ。

授業科目		授業時数
コンテンツ制作		124
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
藤原 成史 ラジオ等メディア全般から、レコーディングやPAの音響エンジニア、映像クリエイターなど幅広いスキルと知識があり、総合的に学生に指導ができる。		
前期		
到達目標		
番組制作に必要な企画、全体構成、選曲等の基本的な制作情報をグループとして協力してできるようになる。		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	放送収録について	録音スタジオやコーナー～選曲Mの紹介等を実際に行う。指定原稿をBGに添えてしゃべるイメージや感覚を掴んでもらう。ONAIRの都合で次週収録となるが、固定フォームの理解をしてもらう。
2	ウメダFM 4月分収録	学校で用意したフォームAに対して、自分たちの選曲等を入れ込んだ構成シートを作成する。オープニング、コーナー設定、曲紹介、クロージング等のエッジを理解してリハーサル収録。この時点では、1発録りではなくコーナーごとで収録。
3	構成フォーム&CUE SHEET	年間納品番組の管理方法を学ぶ。企画～構成・選曲・コーナー情報整理～リハ、収録～編集～納品～ONAIRの流れを逆算してスケジュール化。構成の考え方や収録時のタイム記録等。
4	原稿と情報	自分たちの固定原稿の作成や情報をしゃべる場合の手元原稿の整理の仕方を学ぶ。
5	曲紹介とCUE PATTERN	FM番組の基本として曲紹介のパターンを練習する。紹介M①、イントロ乗せ、サビ飛び出し、アウトロ紹介等のパターンを知る。 ★次週内容の構成Meeting
6	ウメダFM 5月分収録	ある程度、自分たちが作成したフォームに対して、各コーナーごとにリハーサルを間に入れてながら収録作業。
7	選曲	30分番組全体の選曲を考えた構成を考える。テーマに沿ったもの、アーティスト、音楽ジャンル、時代別、DJのチョイス等、色んな意見を聞きながら検討する。
8	番組企画構成	PR的なものを盛り込むための構成を学ぶ。★次週内容の構成Meeting
9	ウメダFM 6月分収録	3本目収録。ディレクティングを自分たちで確認しながら行っていく。できれば、M●放送中の3'00"～4'00"の間に次の場面の打ち合わせができるように練習。
10	CM (コマーシャルメッセージ)	CMの内容を企画立案。後期に収録を行うための前段階。
11	ディレクターからのCUE出し	★次週内容の構成Meeting しゃべり側と進行指示側のコミュニケーションの練習
12	ウメダFM 7月分収録	4本目収録。前回同様、自分たちでディレクティングを行っていく。事前打ち合わせ、リハーサル確認、本番収録、M●放送中の打ち合わせ、切り返し部分のコミュニケーション等を実地研修的にやっていく。
13	担当ディレクターについて	★次週内容の構成Meeting 番組責任者(8月～2月の各月ディレクター)の選出
14	ウメダFM 8月分収録	ゲストを入れる部分を作った構成の収録。事前の打ち合わせ時に、ゲスト紹介テキスト、質疑応答の打ち合わせ、リクエストCDの準備等をしておく。
15	ゲストング準備	★次週内容の構成Meeting 取材等を行う場合、学園祭といえば、実行委員長をゲストングするのが常道手段。
16	ウメダFM 9月分収録	11月実施の学園祭ムードを出せる演出の録音を行う。ひな壇芸人風の収録方法。

授業の方法		
講義・演習・実験・実技(実習)		
授業概要		
ラジオ番組制作を通じて番組制作企画、構成演出、録音、時間管理などを学びます。また、映像、SNSなどコミュニティ型のWebサイトを考察、コンテンツ制作のノウハウをつかみます。電波として月1回ウメダFM「Be Happy78.9」30分番組の収録を行う。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:		
後期		
到達目標		
番組構成、演出、取材、ディレクティングとしての時間管理や録音技術の理解が出来る。		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	CM録音	前期に立案したCMを2本収録、0'30"程度のもの。構成企画、配役、SEや音楽等を用意。
2	取材(学園祭関連・ゲスト音源)	★次週内容の構成Meeting
3	ウメダFM 10月分収録	11月実施の学園祭に向かって、詳しい内容をPULした番組構成
4	DJとディレクター、エンジニア	再度、各役割を見直し、出来ていない部分等を話し合う機会を設ける。学園祭等に今まで集めた情報を送ったりすることも授業範囲の内容。
5	音源制作	他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表していく可能性があります。
6	学園祭準備	学園祭等で使用するCM等の制作
7	年内2本と年明け2本の収録の連動性を考える	★次週内容の構成Meeting
8	ウメダFM 11月分収録	今年ヒットした作品や話題をPULした番組。今年も残り1ヶ月となる時期なので、その内容も踏まえたものに。
9	自分たちの収録データ	9～11月の収録を振り返って聞いてみる時間を設ける。
10	エンジニアが変わる収録	★次週内容の構成Meeting いつも慣れている技術の方が、別のエンジニアが変わるケースを想定すると、番組の説明、音源管理、すべての説明が必要となってくる。その体験を考える。
11	ウメダFM 12月分収録	Xmas特集。今年のクリスマスソング、過去の名曲、自分たちが思い出あるもの等を集めて企画したものを収録。
12	構成・制作に時間がかけられない場合の運営。	★次週内容の構成Meeting 年明けに収録するため、いつもより準備の少ない内容で取り組めるものを検討する。Ex 制作クラスのほぼ全員が出演する番組。
13	ウメダFM 1月分収録	簡単な打ち合わせ→選曲内容の説明→原稿の確認→声・CDチェッカー本番収録→収録をプレイバック
14	引継ぎ内容の整理	★次週内容の構成Meeting 来年度も続けて制作チームが後輩に譲られること等、できれば、パトナタッチの番組構成が少しでも入るものに。
15	ウメダFM 2月分収録	簡単な打ち合わせ→選曲内容の説明→原稿の確認→声・CDチェッカー本番収録→収録をプレイバック

授業科目		授業時数
メディア制作		124
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
山崎 美樹 メディア業界での幅広い経験からデザイン、印刷物の豊富な知識を持つ、Adobeアプリケーションの使用方法を教えるスキルが高い		
前期		
到達目標		
雑誌紙面の企画制作の習得 ●各メディアの特性が理解できる ●DTPデータを作成できる		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価)・課題評価・小テスト・その他		
授業項目		授業計画
1	ロゴマーク作成	ベーシックDTPで学んだ内容を踏まえ、より高度な使用方法を実践していく。まずロゴマーク作成を行います。
2	誌面デザイン	誌面企画を考案、題材を選択していきます。ある程度のラフデザインを作り、素材を集めます。テキストに関しては、当て込みでも良いので、テキスト文字数を算出しておきます。
3		使用画像を選び、移動パレットを操作しながら作業します。定型の紙面サイズをに対して誌面をデザインしていきます。
4		テキストを流し込み、タイトル、コピー等を揃え、仕上げ工程まで進めて行きます。
5	長文の誌面デザイン	リンクした文字ボックスを作り、長文の誌面デザインができるようにしていきます。
6		
7	(仮)学園祭表紙プラン	【課題①】学園祭表紙案やサムネイルを考えています。実際のタイポリング等は、後に差し替えるものとして大枠のレイアウトを決めていくため作業します。
8	ライブイベントのフライヤー	【追加課題②】同時に色々なものを進めて行きます。学園祭と同時並行としてライブフライヤーのデザインをスタートします。
9		
10	課題①②③制作	【追加課題③】新しくCD作成とその印刷についての説明を行います。
11		文化祭表紙案、サムネイル
12		CD作成についてより詳しい内容のプレゼンがあり、それを受けるかたちになります。(ジャケット両面、盤面、歌詞カード、サイドキャップ)
13		
14		※学園祭コンテンツや実行委員からの情報を整理
15		
16		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技(実習)	
授業概要	
音楽雑誌やフリーペーパーの企画、取材、デザイン、編集を実践的に学びます。CDの盤面デザイン、ジャケット制作やライブイベントの宣伝フライヤーの制作に必要なDTPスキルを習得します。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
雑誌紙面の企画制作の習得 ●DTPを使いこなすことができる ●作品の完成度を高める ●ターゲットに対し効果のあるデザインが理解できる	
評価方法	
筆記試験・実技試験(実習評価)・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	正式な学園祭パンフレット作成作業 学園祭パンフレットを印刷するためのデータを作っていきます。ページネーションされた内容をもとに、各ページごとに担当者を割り振って1ヶ月以内の完成を目指します。
2	※実行委員会や他の有志制作チームの情報も授ける。
3	※校正作業に移れるように早めの始動
4	
5	音楽ビジネス外部ライブイベント 他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表していく可能性があります。
6	※interview取材
7	※ライブ販売グッズのデザイン
8	
9	
10	最終課題作成 自身の好きなアーティストの情報を集めてフライヤー作成(表面フルカラー、裏面モノクロ1色)素材集め、情報の精査
11	
12	
13	
14	※上記課題を完成させ試験課題として提出します。
15	参考機能 Illustratorグラフ機能など、ここまで使用しなかったツールについても体験&実践します。
16	

授業科目		授業時数
コンサート制作		124
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
中川 伸明 ヘッドライン、アームエンタープライズグループで豊富な経験を積む。 アーティスト経験も長く、幅広い業界知識を持つ		
前期		
到達目標		
学外ライブイベントの企画・アーティストのライブハウスへのブッキング ●イベント企画制作の基礎知識を理解する ●発想力、行動力を身に付ける ●協調性を身に付ける		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	オリエンテーション 前期の授業スケジュールを確認行い、色んな意見を取りま とめて行うイベントの進め方を明確にしていきます。	
2	企画立案 資料集め(アーティスト・会場資料等)を行い、個々にまとめる 準備を行います。	
3	企画書作成 前週に集めた資料を使って各自の企画書作成を行います。	
4	企画プレゼン 企画概要のクラス内プレゼンテーションを行い、半期行って いく内容を決定します。単一企画、混合企画等、色々ありますが、 公平な判断、実施可能な環境も加味していきます。	
5	アーティストへのオファー プレストされて決定した案は、一旦、営業用企画書として書き 改められ紙資料/データとしてKEEP。日程を考えたブッキ ング作業や会場押さえという内容になります。また、ラフな タイムテーブルの作成を行います。	
6	日程とブッキング イベントの場合、会場の押さえが重要になります。業界も、先 に複数のホールを押さえ、アーティスト公演をはめ込んでい きます。	
7	公演実施概要書 実際に行うイベントに関しては、全ての情報を集約させた公 演実施概要書を作成します。	
8	プロモーション会議 フライヤー作成・配布手続とプロモーション計画会議	
9	PG配券 PG配券手続書の作成とフライヤー作成開始(モノクロ・学内制 作)	
10	プロモーションスタート プロモーション実施と現場資料作成の準備	
11	現場資料作成 タイムテーブル・運営マニュアル・MC台本・セットリスト等を作り 始めていきます。	
12	打ち合わせ 音響・照明等の技術用資料、アーティスト管理	
13	運営について 当日の役割分担と現場作業の講義	
14	チケット精算 精算手続の講義とイベント実施までの最終確認	
15	実施日 (講義前日程に持込イベント実施)精算書・損益確認書等の作 成。	
16	FOLLOW 前期イベントの反省会と後期イベントに向けての講義	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技(実習)	
授業概要	
学外のホール、ライブハウスなどでのイベントを企画開催します。予算管 理、アーティストブッキング、プレイガイドでのチケット発券、宣伝、制作、 当日の運営までを実習として行います。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
学外ライブイベントの制作 ●イベント企画制作/運営を理解する ●判断力、責任感を身に付ける ●コンサートの収支を理解できる	
評価方法	
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	後期 企画プレゼン 休暇中に作成してもらった後期イベント企画書を元に決定版 の企画書を作成。
2	予算 企画書に基づき予算案を作成。
3	アーティストへのオファー アーティストブッキングを開始、直接/間接等のようなかた ちでも良いので、取り敢えずマネージャー又は代表までに出 来るだけ早く送り着くようにします。
4	日程とブッキング アーティストブッキングを開始と同時に会場押さえも重要な要 素です。一押しと会場を合わせ込むためにも、グループのコ ミュニケーションは大切になります。
5	公演実施概要書 他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大 きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝って くれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表し ていく可能性があります。
6	プロモーション会議 フライヤー作成・配布手続とプロモーション計画会議
7	他のイベントへ乗り込み 実施イベントのプロモーションをするために、他のイベントに 乗り込んでプロモーション(宣伝)ができる機会を作ります。
8	外部交渉 フライヤーデザインを外注する段取りを行います。
9	PG配券 PG配券手続書の作成とフライヤー作成開始(4C/1C・印刷業 者に受注)
10	プロモーションスタート プロモーション実施と現場資料の作成
11	運営について 当日の役割分担と現場作業の講義
12	イベント最終確認 精算手続の講義とイベント実施までの最終確認
13	実施日 (講義前日程に持込イベント実施)精算書・損益確認書等の作 成。
14	コンサートレポート作成 アフタープロモーションとして、自分たちの実施したイベントの 記事を書いてみましょう。
15	FOLLOW 後期イベントのを振り返っての討論・講義

授業科目		授業時数
マネージメント		124
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
藤井 大介 メジャーレーベルA&Rを経て独立。マネージメントから、映像制作など幅広くビジネスを展開する業界人		
前期 到達目標		
アーティストマネジメントの基礎～実践 ●PR業務の理解		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	オリエンテーション	マネジメントゼミについてのレクチャー／年間構想MTG&モデルMusicianの希望タレントカラー決定
2	「モデルミュージシャン」	「モデルミュージシャン」というかたちで原盤製作過程～プロモーション～レコ発ライブ～追加ライブ等の設定を知ってもらいます。
3	公募準備	オーディション募集要項作成～告知準備&募集へ
4	A&Rについての説明	プリプロ～RECに向けての準備
5	年間予定の具体化	年間のプランニング構想具体化に向けて、学生たちに説明をします。その中で、やってみようこと等の意見をヒアリングしてはめ込みがきく場合は、スケジュール化していきます。
6	アーティストに対するヒアリング	応募期間中でも申込みしてくれたアーティストに具体的に面談。バンド形態、メンバー、ジャンル、オリジナル等の情報をヒアリングして選出の材料としていきます。
7	試聴会&選出	応募メロをします。面談状況や選出するための材料を揃え、これから先の構想プランとして繋げられるかを議論します。
8	モデルミュージシャン確定	アーティストに対して、こちらの考えをしっかりと説明します。そのためコンセプトや方向性を示すプレゼンテーションが必要になります。その部分をしっかりと固めて資料化します。
9	全体会議	方向性に関するミュージシャンも含んだ全体会議を行い、アーティスト、楽曲に関する要求を具体化させ、プロモーションしていくことをしっかりと伝えていきます。 ※レコ発Live&学園祭出演
10	セットリスト	REC準備として、収録楽曲決定、B.Musicianの必要性、プリプロ準備等があります。この部分に関する理解を深めます。
11	CDパッケージ①	CDパッケージ製作に関わる準備&打合せ
12	CDパッケージ②	紙資料作成1(Profile/チラシ/アー写/ジャケット)
13	CDパッケージ③	紙資料作成2(Profile/チラシ/アー写/ジャケット)
14	プリプロ	実際に録音される2曲の楽曲(予定)に対しての、音楽的内容のチェックシーンです。この部分に関する理解を深めます。
15	レコーディング	レコーディング
16	TD～	TD～マスタリング～プレス

授業の方法		
講義・演習・実験・実技(実習)		
授業概要		
アーティストの発掘や育成、スケジュールなど、プロダクション業務を学習します。またレーベルの業務、プロモーション、ファンクラブ運営、各メディアの特性や著作権についても学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞		
使用教材:		
後期 到達目標		
アーティストマネジメントの基礎～実践 ●プランニングの実践		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	CD納品	後期にはCD納品となり、その後の展開として打ち合わせが再スタート。レコ発Live準備も行っていく。
2	プロモーション会議	プロモーション会議(Liveブックング含む) リリース日の確定、外部イベントへの出演枠を営業していく。FMウメダ、FMエリガ子、学園祭制作ラジオ等でのONAIR等。
3	レコ発Live準備①	学内においても、できるだけ沢山のレコ発Live集客を目指して、PR活動と工夫を続ける。
4	レコ発Live準備②	SNS、ロコミ、掲示、ビラ配付等、沢山のアイデアを急速的に行う練習をする。
5	レコ発Live	他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表していく可能性があります。
6	Live出演後の展開	ライブ模様等をSNS等を使い、しっかりした話題作りを行い、学園祭枠に出演する案内を行う。また、3本目のライブ計画を行っていく。
7	CD販売	アーティストも含め、プレスしたCDの販売を行う。
8	営業ツールとしてのPowerpointデータ作成①	アーティストの展開をより判りやすくするために、CDジャケットデザインやライブ風景、日常の写真、または動画等を埋め込んだ、Powerpointデータ等を作成しておく。 ※そのデータを使用したライブ出演用フライヤーを準備。
9	営業ツールとしてのPowerpointデータ作成②	本人たちのキャラクターを使ったものが企画できればやってみる。 ※そのデータを使用したライブ出演用フライヤーを準備。
10	マネージメントに関して	話題性を上げるための工夫、CD音源の使い方等も工夫していく。 ※そのデータを使用したライブ出演用フライヤーを準備。
11	ライブ準備	ライブ会場にて新たなプロモーションフライヤーを配付できるように準備。
12	ライブ実施	3本目のライブ実施。
13	モデルミュージシャンのポイント	①アーティストとの合同会議 ②制作スタッフのミーティング ③CD売上げ枚数の発表 ④プロジェクト全体を振り返り
14	後期テスト	(レポート提出)
15	FOLLOW	プロジェクト全体を振り返り総括と反省会を行う

授業科目		授業時数
企画制作		62
学年	学科	専攻
2	音楽技術学科	音楽ビジネス専攻
担当講師(プロフィール)		
小池 敏 演奏者・作家として複数のメジャー契約。イベント主催者として多数のイベントを制作。プロダクション業務の経験もあり業界経験が多岐にわたる		
前期		
到達目標		
今までの経験を生かし、イベント全体の流れと進め方を再認識していく。		
評価方法		
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	イベント制作	2年生の企画制作は、イベント制作者としてのものの考え方を中心に進めて行く。授業内で制作していくイベントも含めて、クラス全員が、担当&資料作成にも対応できるようにしたい。
2	企画	企画が必要とされるものを再度考えて行く。音楽意外でも考えられるものをかたちにしていく。MEMO書きの落書きが大企画になるケースもある。
3	出演者	イベントに出演する人たちを調べ、今後ブックングが必要な場合は、どうしたら良いのかをしっかりと考える。Webだけで調べるのではなく、実際に電話をかけて訪ねてみよう。
4	公演概要	イベントを実施する際の「公演概要」色んなフォームを見て、個々がシミュレーションで作成する。
5	プレゼンテーション資料	イベント実施計画段階のプレゼン資料の制作をするための準備について学ぶ。
6	タイムテーブル	タイムテーブルは、企画段階の第一プラン(時間帯)、告知段階の第2プラン(開場/開演時間)、第3プラン(進行レベル)程度の進み具合で詳しくはなっていくもの。
7	運営マニュアル	スタッフが見て全体が判る運営マニュアル。組織図、会場図、タイムスケジュール、非常時連絡先等の記載。イベントの各ポジション設定、人員配置プラン等の明記を説明。
8	進行台本	ステージ上の作業、本番、出演～演出の最初から最後までの様子がわかる進行を記したものを確認できるようにしていく。
9	MC台本	MCが使うことばを記した内容のものを指すが、一語一句表記するもの、ポイントのみ記載しているもの、ガイドラインのみ等、いろいろなタイプのものがあります。
10	出演者への対応	入り時間、場所、搬入関連、駐車場手配、楽屋、準備物、リハーサル～本番等のタイムテーブル等の確認事項も多い。これらの確実性が、迎える側の信用に繋がっていくことになる。
11	音響・照明への対応	イベントの演出効果、または演者に対する環境保全を考えた内容にもっていく対応を考えたい。
12	集客への工夫	出演者自身の持つ集客力が、大きなウエイトだが、制作側の宣伝広報力やSNS含む媒体プランも影響が大きい。一般世間での実例も知ってもらいながら学んで欲しい。
13	イベントの準備	前日・当日に関するイベント準備について色々な経験をもとに考えて行きたい。事前準備で仕事のやり方は大きく変わります。
14	ステージ進行	舞台装置の責任者の舞台監督、演目の総合監督としての演出家、仕込替えや演者の出入りを仕切る進行部隊、音響・照明等のスタッフ等が、協力して進める内容を再認識していく。
15	アーティスト管理	いろいろな出演者がある場合のイベントは、楽屋、衣装、出演準備項目、導線、取り巻きのスタッフ等、経験をしないと判りにくいものも多い。進行は、時間または出演順を理解して動きたい。
16	議事録	後期には、ディレクターとして色んなイベントに関わっていく。その打ち合わせ等の記録を残すようにしていく。※議事録作成

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・ 実習	
授業概要	
実践的に企画制作を実施する授業。学内の様々な施設を使い、ライブイベントの企画、制作、実施を通し、制作者としての感覚や仕事の進め方を身に付けます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
自分たちが企画して進めるもの、他者が企画したものを理解して進めるものの違いを認識して問題無く制作者として稼働出来る人材を作る。	
評価方法	
筆記試験・実技試験(実習評価) 課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	
1	いろいろなイベントに参加 後期は、クラスではなく各学生がグループまたは個人で、自分たちが企画していない色んなイベントに参加、ディレクションやイベント補助を行います。
2	他イベント参加FOLLOW ①イベント組織の確認 参加した場合、自分に任せられる仕事、そのリーダー、組織の位置等を意識できる状態で動きます。
3	他イベント参加FOLLOW ②学園祭 自身のクラスの出演コンテンツもあるとは思いますが、他の専攻や他の有志団体に参加してプランニング等の実力を試していきます。
4	他イベント参加FOLLOW ③学校紹介イベント (土)(日)に開催されるオープンキャンパスに参加することで、その目的や状況を理解していきます。
5	他イベント参加FOLLOW ④他専攻イベント 他専攻とのコミュニケーションができる状況を取ることが、大きな勉強に繋がってきます。他から「何故かいつも手伝ってくれる。」と認められることは、社会的にも大きな貢献度を表していく可能性があります。
6	他イベント参加FOLLOW ⑤学外イベント 外部研修等の経験を積むことで、いろいろな進め方や考え方を理解出来ます。「郷に入っては郷に従え」的に仕事ができれば怖いもの無しです。
7	卒業コンサート制作 ①情報整理 後期終わりに行われる卒業コンサートに向かって、昨年VTRや先輩から情報送りを確認しながら、今年度の企画会議を行う。個々のプレゼン資料の制作等も行い次週に検討。
8	②企画会議～方向性の決定 コンサート全体の方向性や特別企画、演出プラン等を考えながら大枠を詰める。それに、宣伝できる「キーワード」「コピー」「タイピング」「キャラクター」等の媒体用データを準備
9	③媒体制作スタート ●出演者募集を表すもの ●イベント実施を知らせるもの 紙、SNS、放送、映像等、学内で表すことが出来るあらゆるものに担当別で挑戦していく。大きな目的としてイメージの統一、大量の手配。
10	④募集開始
11	⑤進行プラン及びタイムスケジュール、当日準備物 MC、出演数、スタート、クローズ、コンテンツ等のMeeting
12	⑥募集完了
13	⑦アーティストとのコミュニケーション 出演者の演奏状況確認とセットリスト回収や情報収集も含め、担当者が中心にコミュニケーションとして動きます。
14	⑧音響・照明資料準備 音響や照明担当者と打ち合わせを行います。特殊な内容も含めて、その進め方を理解していきます。
15	⑨運営/進行/演出プラン確認と配置 正規授業終了の1週間後にイベント開催となりますが、前日の仕込からの立ち会いや、その日の仕事の確認、当日の配置等をしっかりと打ち合わせします。